

令和3年度
事業報告書

社会福祉法人 至泉会
法人本部

法人本部

1 概況

今年度は、法人内のすべての施設が新型コロナウイルス感染防止対策に追われた1年でした。事業所の規模や種別により多少の違いはあったものの感染防止（クラスター発生防止）に費やす手間（業務）や時間、経費が増加し、さらにそれに係る人手の確保もしなければならず、日々の療育や生活等を制約せざるを得なくなり（面会、外出、行事等を中止もしくは縮小）、併せて利用児・者や家族へのサービスや質の低下をもたらすこととなりました。また、職員自身が感染して事業所に持ち込まないよう肉体的にも精神的にも負担が増大しました。

上半期は、徹底した感染防止対策と利用者と家族・職員及び関係業者の協力により法人内施設には感染者が一人も出ませんでした。下半期は、オミクロン株の全国的な感染の広がりとともに各施設に利用者・職員共に感染者が増えだし、『精陽学園』においては、ほぼ全ての園児が感染（みなし感染者も含む）し、職員も10名以上が感染したことにより業務の継続が危ぶまれ、法人内の各施設から応援職員を派遣し、何とか乗りきることができましたが、終息までに1か月を要しました。

感染防止対策の一つとしてワクチン接種が推奨されていましたが、当法人では全国的にワクチン不足が叫ばれている中、若年層の利用者や職員も日頃から利用者の健康管理に協力を仰いでいる医療機関に配慮していただいたことと、県及び市の福祉職を対象とした集団接種により希望した利用者及び職員は全て3回目のワクチン接種をすることができました。

運営面については、各施設の財政状況が厳しい中、新型コロナウイルスの影響により多くの施設が直接的な収入の減少に加えて保健衛生費等の支出が例年に比べて膨大となりましたが、各種補助金による助成を受けられたため、支出が軽減され、とても助かりました。ただ、これまでより支出が多い状況であるため、各施設ではサービス提供の方法や時間を見直したり工夫をすることで少しでも利用者を確認するよう対応しました（なお、各施設の運営状況等については、それぞれの報告書をご参照ください）。

職員採用においては、ほぼすべての施設で欠員補充（保育士、生活支援員）ができない状態が続き、療育・支援収入等に支障が出ている状況が少なからずあり、インターネットでの求人、派遣・人材紹介等を活用して募集していますが、採用した職員が短期間で退職する等、良い人材が見つからず苦慮しているところ です。

各施設の施設整備の状況については、今年度は、『精陽学園』において昨年度助成決定を受けた「令和2年度障害福祉施設等施設整備費補助金」により非常用自家発電設備の更新工事を7月に完了しました。また、『ソーレ平塚』及び『ソーレ平塚ケアセンター』は、『公益財団法人 JKA』による競輪補助事業「2021年度緊急的な対応を必要とする事業（新型コロナウイルス感染症の拡大防止策）」の助成を受け、12月

に自動水栓の整備を完了しました。

2 令和3年度 経営目標

(1) 法人運営

①職員採用

昨年度から法人管理職会議において検討してきましたが、新型コロナウイルスの影響により学校訪問等を行えず、従来のインターネットを中心とした募集と派遣・人材紹介、有料広告等を活用した募集を行うに止まりました。

こうした中、今年度は、施設実習に來た学生を含めて4月採用の新卒者を3名採用することができました。また、中途採用者及び非常勤職員については、有料広告や人材紹介を通して雇用しましたが、採用した職員が短期間で退職することもあり、良い人材が見つからず苦慮しているところです。しかしながら、法人のホームページを見て自分から応募してきた職員や当法人に勤務している職員の紹介で応募してきた職員には好い人材が多く、今後、職員採用を進めていく上でのヒントとなりました。

②人材育成

人材育成については、各施設の特性に応じた研修に加え、法人全体を横断的に考え、階層別に必要な内容と職員のつながりを強められるような内容にしていく必要があり、人材育成委員会を中心に各階層および種別ごとに研修を計画していましたが、新型コロナウイルス感染症予防のため、研修は全て実施できませんでした。

③人事労務管理

労務管理については、必要に応じて社会保険労務士のアドバイスを受けながら検討しました。

4月に精陽学園の元職員から神奈川県へ個別労働関係紛争のあっせん申し出があり、6月に解決金を払うことで紛争は終結しました。

ストレスチェックは、今年度も本来対象とならない『あけぼの園』と『すこやか園』も含め、法人内の全施設を対象として実施しました。

④法人内の情報システム管理

昨年度末に、「障害福祉サービスICT導入モデル事業費補助金」の交付により、『あけぼの園』、『すこやか園』、『しせん相談室』、『しせん相談室ひらつか』へタスクウェア（法人内専用グループウェア）導入し、これにより法人内のすべての施設がグループウェアで結ばれ、情報共有を迅速に図ることができるようになるとともに、業務を効率的に行うことができるようになりました。

新型コロナウイルス感染防止のため、タブレット端末を用いて法人内の会議をリモートで開催しました。また、外部の会議等についてもリモートでの開催が多くなり、それにより会議に参加するための移動時間がなくなり交通費が節約できました。

来年度は、ホームページのセキュリティ対策の検討、寄贈ソフトウェア「Google Workspace」（クラウド型グループウェア）及び「G-mail」への切り替えを行い、法人内でメール等の一括管理及び運用を行えるようにする予定です。

⑤法人内の規程（定）・規則等の整備

今年度は、「定款」の変更、「経理規程」、「給与規程」、「職員宿舍管理規程」、「福祉サービスに関する苦情解決規程」、「育児休業等に関する規程」、「介護休業等に関する規定」、「しせん相談室運営規定」の見直しについて検討しました。

⑥法人本部及び各施設の将来像

今年度は、前年度に引き続き法人本部の今後の在り方を中心に検討し、法人の今後の事業展開や施設運営上の課題と課題解決の進捗状況について議論しました。

⑦感染症対策の徹底

各施設の状況に応じた感染予防対策を実施しました。また、毎月法人経営会議にて各施設の状況や感染予防対策の確認等を行うとともに感染者が発生した際、事業継続できるよう法人内の体制等について検討しました。

(2) 組織の強化・充実

①本部機能の強化

経営目標に対しては、法人内の各施設長及び法人本部課長に経営目標の6項目をそれぞれ担当させ、施設単位ではなく各々の施設の垣根を超えた法人全般にわたる業務を担うことで適切な広い視野の中で法人運営を行う体制にしましたが、新型コロナウイルスの影響で会議等を行うことができず、具体的な検討はできませんでした。

②相談支援体制の充実

一昨年度『すこやか園』の相談支援事業に『あけぼの園』の相談支援事業を一体化し、事業所の名称も『しせん相談室』と変更して秦野市と伊勢原市の相談事業を一体的に行うことができるようになりました。さらに法人内の相談支援事業を充実させるため、昨年度から『ソーレ平塚生活支援センター』を『しせん相談室ひらつか』と名称変更し、平塚市の相談支援事業も先に一体化した秦野市と伊勢原市の相談支援事業に加え、3市の相談支援事業を効率的かつ一体化した運営ができる体制に一步近づき、利用者（相談者）の利便性がより向上しました。しかしながら、両事業所間のスキルアップと情報交換の場となっている「しせん相談支援連絡会」を新型コロナウイルスの影響で開催できませんでしたが、来年度は、新型コロナウイルスの感染状況を見ながら、開催方法を検討して実施する予定です。

(3) 利用定員を確保し、安定した経営を行う。

例年通所、入所施設とも利用児者をいかに増やしていくかということが課題となっていますが、今年度は、新型コロナウイルスの影響により通所施設に関

しては、通所者の欠席（感染予防のため）に伴う通所者の減少や入所施設においても短期入所の休止や体調を崩して入院する利用児者が増え、利用定員の確保が難しい状況となりました。

(4) 各施設の防災対策等の危機管理並びにリスク管理の充実

防犯については、法人内の事業所でどのような対策をすべきかを検討し、必要な対策をとりました。

防災については、施設ごとに日ごろから地域との関わりを大切にして、地域の自治会や防災組織と連携をとるように努め、災害時に地域で孤立しないようにし、併せて備品や備蓄の拡充にも努めました。

また、新型コロナウイルスの感染予防については、各施設で状況が異なるため施設ごとの対応となっておりますが、法人内の各施設の職員が集まるような会議等は、開催を見合わせました。

(5) 情報の公開、社会貢献活動の実施

今年度は、法人と全国経営協のホームページ及び法人の機関誌「しせん」に法人の事業報告ならびに決算報告、監事監査報告、現況報告を掲載しました。

『あけぼの園』では、「はだの地域公益事業基金」に参加し、生活困窮者等に対する相談支援事業等に協力しました。また、下半期に地域の高齢者の買い物等に公用車を貸し出す「買い物支援事業」の協定を秦野市と締結しました。

『ソーレ平塚』で毎年行っていた保護観察者の社会貢献活動は、新型コロナウイルスの影響で実施しませんでした。

3 評議員会開催状況及び主な議題

(1) 実施日:令和3年6月12日(土) 場所:ソーレ平塚

- ① 規程の変更について
- ② 精陽学園非常用自家発電設備更新工事入札結果について
- ③ 令和2年度 事業報告について
- ④ 任期満了に伴う評議員の改選について
- ⑤ 令和2年度 決算報告(計算書類・財産目録)及び監事監査報告について
- ⑥ 任期満了に伴う役員の改選について

(2) 実施日:令和3年11月13日(土) 場所:ソーレ平塚

- ① 神奈川県指導監査及び実地指導報告
- ② 規程の変更について
- ③ 事業の廃止について
- ④ 精陽学園の元職員からの神奈川県労働局へのあっせん申し出についての報告
- ⑤ ソーレ平塚2階職員欠員に伴う居住者のフロア異動について
- ⑥ 令和3年度 上半期事業報告
- ⑦ 定款の変更について
- ⑧ 令和3年度 資金収支補正予算について

(3) 実施日:令和4年3月19日(土) 場所:ソーレ平塚

- ①神奈川県指導監査及び実地指導の結果について
- ②規程の変更について
- ③ソーレ平塚地域支援センター施設長の交代について
- ④あけぼの園通園バス買い替えについて
- ⑤ソーレ平塚空調設備入替工事について
- ⑥法人内施設の新型コロナウイルスの感染状況について
- ⑦令和3年度 資金収支補正予算について
- ⑧令和4年度 事業計画について
- ⑨令和4年度 資金収支予算について

4 理事会開催状況及び主な議題

(1) 実施日：令和3年5月28日（金） 場所：ソーレ平塚

- ①理事長ならびに常務理事の業務執行状況について
- ②規程の変更について
- ③令和2年度 事業報告について
- ④令和2年度 決算報告（計算書類・財産目録）及び監事監査報告について
- ⑤任期満了に伴う役員の変更について
- ⑥任期満了に伴う評議員の変更について
- ⑦定時評議員会の開催（日時、場所、議題等）について
- ⑧その他

(2) 実施日：令和3年6月12日（土） 場所：ソーレ平塚

- ①理事長及び常務理事の選任について
- ②任期満了に伴う評議員選任・解任委員の変更について

(3) 実施日：令和3年11月5日（金） 場所：ソーレ平塚

- ①理事長ならびに常務理事の業務執行状況について
- ②神奈川県指導監査及び実地指導報告
- ③精陽学園の元職員からの神奈川労働局へのあっせん申し出についての報告
- ④ソーレ平塚2階職員欠員に伴う居住者のフロア異動について
- ⑤定款及び規程の変更について
- ⑥事業の廃止について
- ⑦令和3年度 上半期事業報告
- ⑧令和3年度 資金収支補正予算について
- ⑨評議員会の開催（日時、場所、議題等）について
- ⑩その他

(4) 実施日：令和4年3月4日（金） 場所：ソーレ平塚

- ①神奈川県指導監査及び実地指導の結果について
- ②理事長ならびに常務理事の業務執行状況について
- ③令和3年度 資金収支補正予算について
- ④すこやか園の新規委託事業について

- ⑤ソーレ平塚空調設備入替工事について
- ⑥令和4年度 事業計画について
- ⑦令和4年度 資金収支予算について
- ⑧評議員会の開催(日時、場所、議題等)について
- ⑨その他

5 監事監査の実施

実施日：令和3年5月25日(火) 場所：すこやか園
内 容：令和2年度 事業報告及び決算報告の監査

6 内部監査の実施

実施日：令和3年11月19日(金) 場所：精陽学園
内 容：①非常勤職員の雇用条件に端を発したトラブルが二度と起こらないよう、採用に係る一連の進め方やその後の労務管理が適正になされているか否かの確認
②調理場内の衛生管理(食材の管理方法、大量調理方法、食事の提供及び保管等)が適正に行われているか否かの確認
③経理規程、利用者預かり金規程等に準拠して会計処理が適正に行われているか否かの確認

7 評議員選任・解任委員会開催状況及び主な議題

実施日：令和3年6月12日(土) 場所：ソーレ平塚
内 容：令和3年6月12日からの新評議員選任について

8 外部表彰の推薦と法人内表彰の実施

(1) 法人内表彰

①法人功勞表彰

今年度は、対象者がいませんでした

②法人永年勤続表彰

対象者：16名

内 容：勤続7年、10年、15年、20年の職員の表彰

③法人特別表彰

今年度は、対象者がいませんでした

(2) 外部表彰

①神奈川県社会福祉関係者等表彰(県知事表彰)

内 容：永年勤続者表彰(在職期間が15年以上、かつ40歳以上で過去に県社協会長顕彰を受けた職員を推薦する)

今年度の表彰は行わないと県から通知がありました

②神奈川県社会福祉協議会

内 容：県社協会長顕彰（在職期間が15年以上の職員を推薦する）

氏 名：山田あけみ（あけぼの園）

氏 名：武藤恵子（あけぼの園）

氏 名：稲毛彩乃（あけぼの園）

氏 名：藤村美里（精陽学園）

③関東・甲信越地区身体障害者施設協議会

内 容：永年勤続者表彰（在職期間が10年以上及び20年以上の職員を推薦する）

氏 名：福井朱美（20年：法人本部）

氏 名：小原一洋（20年：ソーレ平塚）

氏 名：宮卓史（20年：ソーレ平塚）

氏 名：小山内景子（20年：ソーレ平塚）

氏 名：渡部美代子（10年：法人本部）

氏 名：城所康男（10年：法人本部）

氏 名：古尾谷一宏（10年：ソーレ平塚）

9 債務の返済状況

令和4年3月31日現在、債務はありません

10 会議・委員会・職員研修会等の開催

(1) 会議

①法人経営会議

実施日：毎月1回

内 容：法人の課題等の検討他

②法人施設運営会議

実施日：今年度は、新型コロナウイルス感染防止のため、法人経営会議と同日に開催しました

内 容：各施設の運営状況等の報告他

③法人管理職会議

今年度は、新型コロナウイルス感染防止のため開催しませんでした

④事務員会議

実施日：令和3年11月19日（金）

場 所：精陽学園

内 容：タスクウェア及びGoogleworkspaceの活用、本部機能及び人事(案)、各種届出、処遇改善加算について

(2) 委員会

①法人機関紙編集委員会

実施日：令和3年5月7日（金）、令和3年7月9日（金）

令和3年8月23日（月）

場 所：ソーレ平塚

内 容：法人機関紙「しせん」第7号の発行及び発行に向けての編集打合せ

②法人情報管理システム委員会

実施日：令和3年12月22日（金）、令和4年2月25日（金）

場 所：ソーレ平塚及びリモートにて開催

内 容：タスクウェアのカスタマイズ、「Google Workspace」の導入、「G-mail」への移行について

③法人人材育成委員会

今年度は、新型コロナウイルス感染防止のため開催しませんでした

④表彰・懲戒委員会

実施日：令和3年7月27日（火）、令和3年8月6日（金）

令和4年1月13日（木）

場 所：ソーレ平塚

内 容：精陽学園元職員が神奈川県労働局に個別労働あっせんを申し出た件に対する精陽学園の対応、法人内外への表彰推薦者について

⑤規程整備委員会

実施日：令和3年9月17日（金）

場 所：ソーレ平塚

内 容：定款、各種規程（規定）の見直しについて

⑥コンプライアンス委員会

実施日：令和3年6月4日（金）、令和3年6月12日（土）、

令和3年8月27日（金）、

場 所：ソーレ平塚

内 容：精陽学園元職員が神奈川県労働局に個別労働あっせんを申し出た件に対する精陽学園の対応についてコンプライアンス上問題がなかったか検証及び再発防止のための課題について

⑦総括安全衛生委員会

今年度は、新型コロナウイルス感染防止のため開催しませんでした

(3) 研修

①新採用職員オリエンテーション（前年度及び今年度採用した職員を対象）

実施日：令和3年4月1日（木）

場 所：ソーレ平塚

内 容：理事長講話、法人の理念、成り立ち、諸規程、人事考課等の説明、利用者の権利擁護、虐待防止についての研修

(4) その他

①社会保険労務士との打ち合わせの実施

実施日：不定期

場 所：ソーレ平塚

内 容：社会保険、就業規則、労災、労務管理等の相談

②税理士による会計指導の実施

実施日：月1回（定例打ち合わせ）及び決算時期

場 所：ソーレ平塚

内 容：社会福祉法人会計の指導、月次巡回監査、決算業務指導
TKC経理ソフト導入による委託契約

1.1 その他

(1) 寄付金 2件…110,000円。

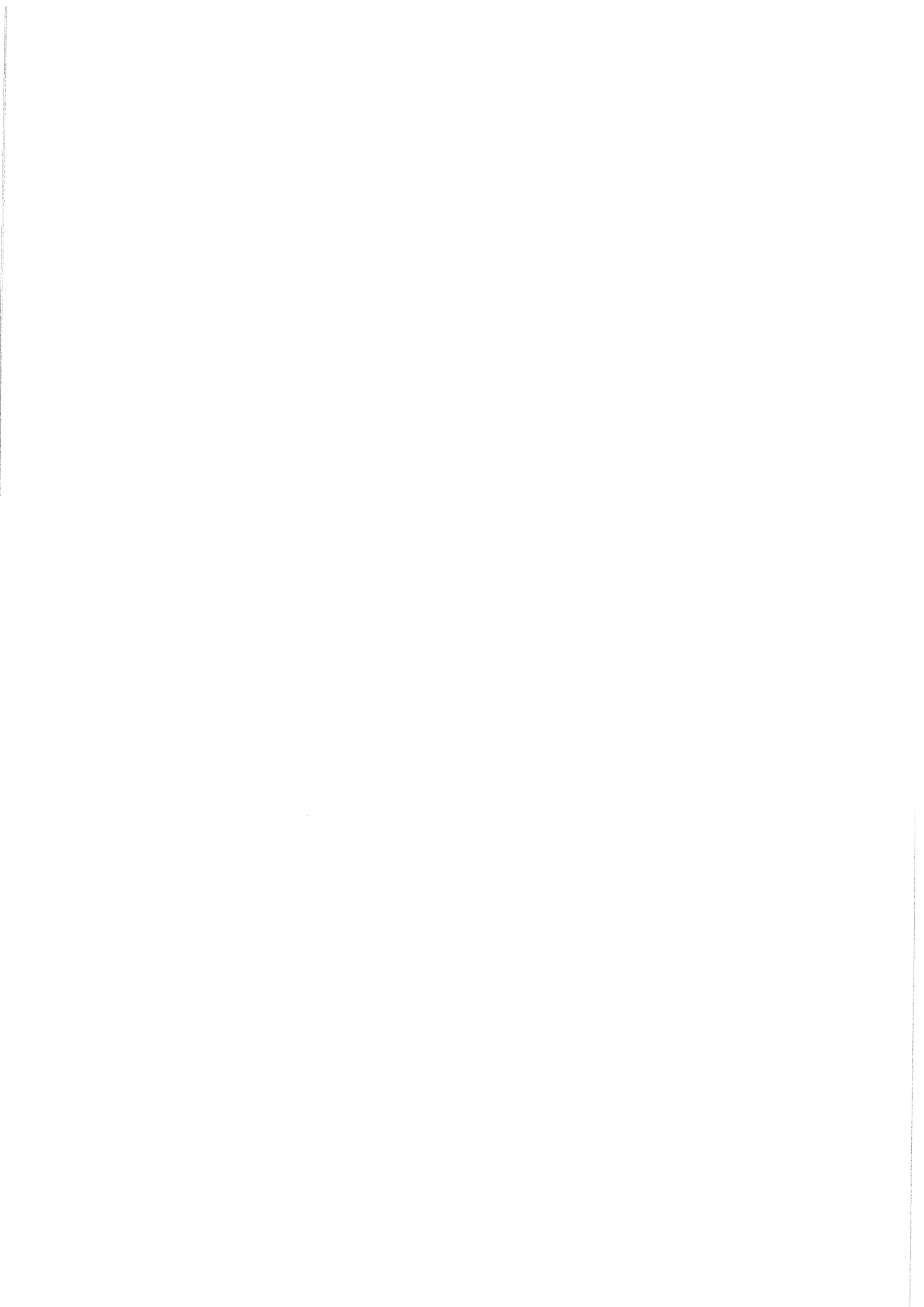
(2) その他の会議、研修等への参加状況（法人関係）

実施日	内容	会場	参加者
令和3年6月15日	神奈川県企画政策委員会	リモートにて参加	常務理事
令和3年6月22日他	関プロ身障協役員会	リモートにて参加	常務理事
令和3年6月28日	精陽学園元職員の個別労働あっせん	神奈川県労働局	常務理事・精陽学園長
令和3年8月10日	当事者目線の障がい福祉の推進に係るヒアリング	足柄療護園	常務理事
令和3年9月1日他	福祉人材センター就職相談会	横浜新都市ホール及びリモートにて参加	常務理事
令和3年9月16日	平塚市企業合同就職面接会	平塚ラスカホール	常務理事
令和3年10月22日	社会保険事務講習会	小田原市民センター	法人本部副主任
令和4年2月7日	社会福祉法人実務者決算講座	リモートにて参加	法人本部課長
令和4年3月7日	全社協決算書の見方、使い方について	リモートにて参加	法人本部課長
令和4年3月24日	法人就職相談会	ソーレ平塚	常務理事



令和3年度
事業報告書

社会福祉法人 至泉会
あけぼの園



児童発達支援センター『あけぼの園』

1 概況

令和3年度は、新入園児12名を迎え、合計32名でスタートしました。昨年度から在籍する園児と常勤職員の配置を変更せず、比較的落ち着いた状態で新入園児を迎え入れられるようにしました。

運営については、1月から3月の期間に新型コロナウイルス感染症による1週間程度の臨時休園が3回ありました。臨時休園中は、居宅支援として毎日全家庭に電話連絡をし、本人および家族の健康確認、相談支援を行いました。

2 運営目標の取り組みについて

(1) 療育支援プログラムの充実

療育プログラムにおける『感覚運動あそび・ダンス』『音楽(楽器)あそび・手あそび』『感触あそび・制作・手先課題』の3つの分野について、各クラスで出た新しい活動内容をプロジェクトメンバーが取りまとめ、園全体で共有して取り組める活動の基盤づくりをしました。

まず、毎日のクラス活動をTaskwareで共有し、終業打ち合わせにて報告をしました。

活動のねらいや遊び方などについて、活動を経験していない職員にも分かりやすいように、写真を利用してまとめました。保護者には、親子登園日などを通して日頃の活動を見学してもらうことで、園での取り組みを説明したり家庭でも取り入れられる遊びを紹介する機会となりました。

また、各プロジェクトで園内に保管してある活動物品を確認し、整理を行い、不足した物品や新たに取入れたい物を購入しました。新しい感覚運動遊びの器具、楽器、おもちゃなどは、多くの園児が興味を持ったり楽しそうに使ったりしていました。また、その様子を見た保護者が、家庭で使う為に購入を検討することもありました。

各プロジェクトでまとめた資料はファイリングし、どの職員でもすぐに確認できるよう共有スペースに保管しました。

(2) ネットワークシステムの活用

Taskwareについては、園日誌と個別支援計画書、カレンダー、お知らせ等を中心に活用しました。園日誌は決裁および非常勤職員の閲覧のために毎日印刷をしていましたが、オンライン決裁ができるようカスタマイズされたことを機に印刷をやめ、非常勤職員もTaskwareから確認するように変更しました。また、行事や係からの資料配布はお知らせ機能を活用し、用紙の使用を削減しました。

研修については、各教室とホールにWi-fi設備を設置したこと、また、外部のオン

ライン研修が増えたことにより、当園にいながら複数人で参加できるようになりました。また、オンデマンドタイプの研修動画は視聴のタイミングを自由に決められるため、非常勤職員も勤務時間内に視聴することができ、全職員に対して行う園内研修時にも活用することができました。今年度の外部研修、園内研修、自主研修の殆どが、オンラインまたはオンデマンドでの参加となりました。

3 利用児の状況について

令和3年度は新入園児12名が入園し、在籍児32名でスタートしました。

園児は年少児から年長児で、居住地は2市（秦野市31名、伊勢原市1名）でした。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、些細な体調不良でも念の為の欠席が増えました。また、保護者の事情で頻繁に欠席する園児も複数名いました。

年間の開園日数は237日で、利用人数は延べ6,363名でした。

P7～8 資料1 参照

4 支援内容について

(1) 園児の支援について

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症に留意しながらの支援となりました。依然としてマスク着用による支援の不十分さを感じながらも、感染防止を優先しながらの活動を行いました。

活動は、クラス単位で行なうことを基本としながらも、公園などの戸外活動における目的地を複数のクラスで共有したり、自由時間に他のクラスへ遊びに行く園児がいたりするなど、場面によってクラス間での交流をしました。

作業療法士が各クラス年4回ずつ来園し、園児と一日の生活を共にしながら様子を観察しました。その上で、園児それぞれの発達状況に応じた支援や成長に繋がる活動について、クラス職員に対して助言をもらいました。

理学療法士が月1回の土曜日に来園し、対象児に理学療法訓練を実施しました。

年度末に非常勤職員のクラス配置を可能な範囲で交換し、次年度のクラス編成に向けて各々の職員が他クラスの園児についても把握できるようにしました。

(2) 保護者の支援について

講演会や勉強会は密を避けた会場づくりをし、保護者にも感染拡大防止対策の協力をしてもらいながら実施しました。予定していた殆どの会を開催することができましたが、外部機関の職員が講師である勉強会については、まん延防止等重点措置期間のために中止するものもありました。

昨年度まで勉強会ではきょうだい児の同席を不可としていましたが、預け先がないきょうだい児の同席を可としました。

親子登園日は、家庭ごとに前期・後期の年 2 回ずつ実施をしました。前期・後期ともに感染者数増加やまん延防止等重点措置の発令に伴い、保護者が教室に入る体験型ではなく、廊下からの見学となりました。後期では、廊下から自分の保護者が見学している姿が見えても普段通りに過ごせる園児が殆どで、保護者も気兼ねなく見学することができていました。

児童精神科の医師による助言指導を、園児一人につき年 1 回ずつ実施しました。医師が園児の普段の様子を観察した上で、保護者および職員が助言を受けました。また、年長児については、保護者が就学先を検討していく上で重要な助言を受けました。

保護者座談会は、学齢別に前期・後期の年 2 回ずつ実施をしました。年中児や年少児保護者が対象の時は、我が子について困っている事を相談したりお薦めの遊び場を紹介したりすることが多くありました。年長児保護者が対象の時は、主に就学についての話が出ていました。

(3) 行事等

①保育参加

平日に来園しにくい保護者でも参加できるよう、土曜日に開催しました。感染対策としてクラスごとに実施し、いずれも戸外活動としました。父が参加した家庭も多く、母と一緒にいる時とは違う園児の様子を見ることができました。

②運動会

地域の小学校体育館にて、新型コロナウイルス感染防止のためクラスごとに時間を分けて実施しました。クラスごとにすることで十分なスペースを確保できると同時に、園児にとっても待ち時間が少なく何をすべきか分かりやすい環境となりました。

③クリスマス会

地域の公民館にて、新型コロナウイルス感染防止のためクラスごとに時間を分けて実施しました。待機時間などが短いことで、園児も飽きることなく参加ができました。

④卒園式

当園にて実施しました。会場の広さを考え、家族の参加は卒園児 1 名につき保護者 2 名に限定しました。

⑤誕生会

毎月、誕生月の園児を祝いました。希望した保護者はその様子を見学しました。

⑥内科健診、歯科検診

今年度は新型コロナウイルスの影響もなく、それぞれ予定通りの実施ができました。

⑦身体測定

隔月実施で、合計6回行いました。

⑧家庭訪問

例年では新入園児家庭に訪問していましたが、今年度も昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止しました。

⑨幼稚園等との交流

秦野市立北幼稚園との交流や、希望者に対して実施する居住地交流については、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、受け入れ先の園と相談した上で今年度も実施を控えました。

5 会議・研修

(1) 会議

①園内会議

検討・確認事項については、療育会議(療育に関することを療育職員で確認する)、クラス会議(クラス担当職員でクラス内の検討確認事項等を話し合う)、園内運営会議(療育支援を充実させるための懸案事項を検討する)、支援調整会議(個別支援計画を確認する)、給食会議(給食に関して園職員と厨房委託業者との打ち合わせ)等で行いました。また、人事や新型コロナウイルス感染症に関することは特別会議にて検討しました。

その他、行事や係、各プロジェクトの会議を適宜実施しました。

②外部会議

P11～12 表 2-4 参照

(2) 研修

①内部研修

オンデマンドタイプの研修動画を活用しました。

P9 表 2-1-② 参照

②外部研修

P9 表 2-1-① 参照

6 衛生・安全・防災

(1) 衛生面について

新型コロナウイルス関連では、1月から3月の3ヶ月間に3回の休園をせざるを得ない状況となりました。休園は以下の通りです。①1月18日(火)～1月24日(日)、園児が家庭内で濃厚接触者となった事と、他の園児が家庭で感染。②2月21日(月)～2月25日(金)園児が感染。③3月5日(土)～3月10日(木)園児が感染。その都度、

保護者と職員には緊急連絡アプリにて速やかに園の対応を伝え、大きな混乱はありませんでした。その後、幸い他の園児、職員への感染の広がりはありませんでした。

その他の感染症としては、RSウイルスが2名と溶連菌が1名でした。

職員については、産業医に健康診断結果とストレスチェックの状態を確認してもらいました。

厨房の衛生状態を確認するために、ソーレ平塚の小山内管理栄養士が来園し、当園の厨房内を視察しました。衛生状態は良好とのことでしたが、水道の蛇口は非接触型が良いという助言があり、厨房と職員トイレの蛇口を交換しました。

(2) 安全面・防災面について

労災認定された職員の怪我が2件ありました。

- ①高所から飛び降りた園児が背中に乗り、腰付近を打撲したことによるもの。
- ②出勤時に雪道にてバイクで転倒し、右肩を打撲したことによるもの。

7 関係機関との連携

(1) 園児に関すること

要保護児童対策地域協議会に挙げたケースが3件あり、家族についての情報共有会議を関係者間で行いました。そのうち2ケースは児童相談所とも連携しました。

(2) 就学について

春季には教育委員会職員を講師に招き、当園にて集団説明会を実施しました。夏季には教育委員会の職員や居住地の小学校教員が対象児の様子を見学し、就学先決定後には秦野養護学校および伊勢原養護学校から教員が引継ぎのために来園しました。

(3) その他

秦野市については、自立支援協議会こども部門会、就学支援協議会および社会福祉協議会施設部会に、職員が委員として出席しました。子ども部門会にて施設間交流について検討され、当園と「たんぼぼ教室」、「すきっぷ」の3施設で相互見学を予定しました。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により、今年度の実施は延期されました。

地域貢献として、高齢者対応の市事業で、秦野市菩提地区買物支援事業の車の貸し出しに協力しました。

8 その他

(1) 神奈川県指導監査について

10月20日に県の指導監査を受け、口頭にて事故報告についての指導がありました。

(2) 当園への入園希望者について

令和4年度に当園への入園を検討している保護者を対象に、集団見学会を実施しました。入園決定後に予定していた『新入園児グループ療育』のうちの1回と『新入園児説明会』が新型コロナウイルス関連の休園に伴い中止となり、一家庭ずつの面談で入園についての説明をしました。

(3) 保護者主体の集まりについて

親の会である『いずみ会』が令和元年度末で休止されましたが、残念に思った保護者の一人が自分で企画を提案し、～花コミュ～（話すコミュニケーション）が発足しました。園の会議室を利用して活動しており、役員選出を規定としないことで、いずみ会よりも気軽に運営ができたようです。企画した保護者は卒園となりましたが、在園の保護者が引き継ぎ、次年度も運営を続けることになりました。

(4) ボランティアについて

①保護者の有志に園庭や園舎周りの草刈りに協力をしてもらったり、卒園式で卒園児保護者から卒園記念品の贈呈をしてもらいました。

②北地区民生委員児童委員やおはなしボランティアの来園については、相談のうえ中止しました。

(5) 実習生

和泉短期大学児童福祉学科より、9月に実習生2名が2週間実習をしました。実習生2名とも、令和4年度の職員採用に応募したため、4月から採用しました。

(6) 他機関からの見学者

相談支援事業所の相談支援専門員が、モニタリングのために園児の様子を見に来ました。また、当園の卒園児が利用する放課後等デイサービス「ひろか教室」の職員も見学する予定でしたが、新型コロナウイルス関連の休園に伴い、電話での引継ぎのみとなりました。

(7) 広報活動

当園機関紙『80センチ』と卒園児文集『あけぼの』を各々年1回発行しました。

“事業所における自己評価結果”をホームページに掲載しました。

(8) その他

①寄付金 5件 総額 119,200円

資料1 利用者の状況

表1-1

居住地区別園児の状況

令和4年3月末日現在

	秦野	伊勢原	計
男	20	1	21
女	11	0	11
計	31	1	32

表1-2

年齢別園児数

令和4年3月末日現在

	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
男	0	2	8	11	21
女	0	3	3	5	11
計	0	5	11	16	32

表1-3

市町別年度内入退園状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
		秦野	入所	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15	15
伊勢原	入所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
二宮	入所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
松田	入所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
入所計		12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12
退所計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16	16

表1-4

年度内退園園児の退所先

令和4年3月末日現在

就学による卒園			その他				計
特別支援学校入学	小学校入学	その他	保育園入園	幼稚園入園	転居	その他	
3	13	0	0	0	0	0	16

表1-5

児童発達支援利用延べ人数

(単位 人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和3年度	開園日数	20	19	23	22	18	21	23	20	21	13	19	18	237
	初日在籍数	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	384
	延べ利用人数	562	526	641	537	419	587	642	552	589	314	475 (うち相談124)	519 (うち相談125)	6,363
令和2年度	開園日数	20	19	23	22	18	21	19	22	20	18	19	21	242
	初日在籍数	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	396
	延べ利用人数	475	504 (うち相談84)	659 (うち相談11)	595	508	602	563	572	562	496	532	589	6,657

表1-6

障害の状況

令和4年3月末日現在

自閉スペクトラム症	18
運動発達障害	2
ダウン症候群	3
知的障害	20
その他	1(難病)

※重複あり

表1-7

介護度(全国知的障害児通園施設実態調査による分類)

令和4年3月末日現在

		1	2	3	4	5	計
食事	食べられないため食べさせてもらう	手づかみでは食べるがスプーンは使えない	手づかみやスプーンで食べる	スプーンやにぎりばしで食べる	箸を使って食べられる		
	人	0	1	13	15	3	32
排泄	オムツを必要とする段階	大小便とも時間を決めてつれていく(失敗可)	大小便とも予告できる(失敗可)	大小便ともほぼ自立するが、後処理不完全	大小便とも自立		
	人	9	3	7	8	5	32
着脱衣	すべて解除が必要(協力動作なし)	介助すれば協力しようとする	かんたんなものは自分で脱げる	着脱はほぼできるが、ボタンかけ等は困難	着脱ができ、ボタンかけ等も自分でできる		
	人	1	2	7	11	11	32
移動	自力移動ほとんど不能	何らかの自力移動可能	独歩不能なるもつたい歩可	独歩可能なるも危なかしい	歩行可能または不自由さはあるが皆と同様に歩ける		
	人	0	1	0	4	27	32
言語	話せないし相手の言うことも分からない	話すことはできないが相手の言うことは分かる	身ぶりや声で表現しようとする	単語程度で意思交換可能	大体のことは言葉で通じあえる		
	人	2	8	2	8	12	32
対人物関係	無関心、呼ばれても反応を示さない	呼ばれれば反応を示す。特定の人や物には一応関心がもてる	人や物に関心をもち、表情や動作に表す	一方的ながら人や物に対して働きかけ、初歩的な関係がもてる	友だちの世話したり協力して遊んだりもする		
	人	2	2	6	14	8	32

資料2 施設運営の状況

表2-1-①

職員園外研修・実習・見学

月日	内容	場所	受講者
5/10	日本知的障害者福祉協会オンライン研修 『ソーシャルワークの基礎』	あけぼの園（動画配信）	武藤、村上、山崎、齋藤、今井、 遠藤、安藤、高梨、稲毛
6/1	日本知的障害者福祉協会オンライン研修 『ソーシャルワークと人権』	あけぼの園（動画配信）	武藤、村上、山崎、齋藤、今井、 遠藤、安藤、高梨、稲毛
7/6	CDS-Japan研修 『発達障害児の偏食指導について』	あけぼの園（Zoom研修）	遠藤、安藤、今井、高梨、山崎、 武藤、稲毛
7/12	強度行動障害対策研修 『支援の質の向上と組織マネジメントについて考える』	あけぼの園（Zoom研修）	遠藤、今井、村上、武藤、安藤、 山崎、稲毛
7/13	秦野養護学校末広校舎見学	秦野養護学校末広校舎	今井、山崎、市川、北村、有松
7/14	秦野養護学校落合校舎見学	秦野養護学校落合校舎	武藤、山崎、高梨、村上、安藤、 市川
9/7	CDS-Japan研修 『子どもの体の使い方とあそびへの応用』	あけぼの園（Zoom研修）	村上、山崎、今井、遠藤、安藤、 飯塚
10/12	強度行動障害対策研修 『氷山モデルシートを活用した支援計画の立て方を学ぶ』	あけぼの園（Zoom研修）	村上、山崎、今井、遠藤、安藤、 稲毛
10/25	『愛着障害をめぐって～愛着障害って何だろう？』	あけぼの園（Zoom研修）	安藤、飯塚、村上、今井、遠藤、 山崎
12/2	かながわ災害福祉広域支援ネットワーク 『令和3年度基礎研修』	あけぼの園（Zoom研修）	武藤、稲毛
12/13	『アセスメントから始める自閉症支援』	あけぼの園（Zoom研修）	今井、安藤、飯塚、遠藤、村上、 山崎、武藤
3/17	『令和3年度コーチング研修』	あけぼの園（Zoom研修）	村上、安藤、今井

表2-1-②

職員園内研修等

月日	内容	受講者
4/20	箕先生研修ビデオ視聴	市川、大村、井上、出口
4/22	箕先生研修ビデオ視聴	堂園、北村、有松
5/10	日本知的障害者福祉協会オンライン研修 『ソーシャルワークの基礎』	武藤、村上、山崎、齋藤、今井、遠藤、安藤、高梨、稲毛
6/1	日本知的障害者福祉協会オンライン研修 『ソーシャルワークと人権』	武藤、村上、山崎、齋藤、今井、遠藤、安藤、高梨、稲毛
7/17	保護者講演会ビデオ視聴	村上、安藤、今井、山崎、遠藤、高梨
8/16	保護者講演会報告	市川、北村、有松、出口、井上、高橋、大村
9/22	大屋医師保護者勉強会報告	園長、武藤、村上、山崎、今井、遠藤、安藤、飯塚、市川、 大村、北村、堂園、井上、有松、出口、深津、稲毛
10/8	虐待防止研修	園長、武藤、村上、山崎、今井、遠藤、安藤、飯塚、市川、 大村、北村、堂園、井上、有松、出口、深津、稲毛
10/8	産業医による職員ストレスチェック	全員対象
3/30	虐待防止研修	園長、武藤、村上、山崎、今井、遠藤、安藤、高梨、市川、 大村、北村、堂園、井上、有松、出口、深津、大井、稲毛

※大屋医師カンファレンス…毎月1回実施、坂倉作業療法士カンファレンス…各クラス年4回実施

表2-2

防災訓練

月日	訓練	出火想定場所	内容
4/22	火災	外倉庫	消防本部への火災発生模擬通報訓練、避難経路を経て玄関前へ避難、避難誘導・点呼・出火場所への模擬消火訓練
5/25	火災	外倉庫	消防本部への火災発生模擬通報訓練、避難経路を経て玄関前へ避難、避難誘導・点呼・出火場所への模擬消火訓練
6/22	火災	厨房	消防本部への火災発生模擬通報訓練、避難経路を経て南空地へ避難、避難誘導・点呼・出火場所への模擬消火訓練
7/19	火災	職員室	消防本部への火災発生模擬通報訓練、避難経路を経てミニ園庭へ避難、避難誘導・点呼・出火場所への模擬消火訓練
8/23	火災	厨房	消防本部への火災発生模擬通報訓練、避難経路を経て玄関に避難、避難誘導・点呼・出火場所への模擬消火訓練消火器訓練を実施（消火器3本を消防署から借用して、別の時間にクラスごとの水消火器訓練を実施し、園児に見せる）
9/16	地震 火災	厨房	消防本部への火災発生模擬通報訓練、避難経路を経て南空地に避難、避難誘導・点呼・出火場所への模擬消火訓練
10/15	火災	厨房	消防本部への火災発生模擬通報訓練、避難経路を経て玄関前に避難、避難誘導・点呼・出火場所への模擬消火訓練、園外活動中のクラスには電話連絡にて注意喚起
11/12	火災	職員室	消防本部への火災発生模擬通報訓練、避難経路を経てミニ園庭へ避難、避難誘導・点呼・出火場所への模擬消火訓練
12/14	地震 火災	厨房	消防本部への火災発生模擬通報訓練、避難経路を経て玄関に避難、避難誘導・点呼・出火場所への模擬消火訓練
1/25	火災	外倉庫	消防本部への火災発生模擬通報訓練、避難経路を経てミニ園庭へ避難、避難誘導・点呼・出火場所への模擬消火訓練、園外活動中のクラスには電話連絡にて注意喚起
2/14	地震 火災	厨房	消防本部への火災発生模擬通報訓練、避難経路を経て南空地へ避難、避難誘導・点呼・出火場所への模擬消火訓練
3/14	地震 火災	厨房	消防本部への火災発生通報訓練、避難経路を経て南空地へ避難、避難誘導・点呼・出火場所への模擬消火訓練

表2-3

行事

月日	事業項目	付記
4/3	入園のつどい	31家族参加（1家族体調不良で欠席）
4/11, 13, 15	新入園児保護者勉強会 『あけぼの園の活動説明』	1～4名ずつ実施
4/26, 27, 28	面談日	26日たんぼぼ、27日あじさい、28日なでしこ
4/14	内科健診	
5/6	保護者集会～花コミュ～	
5/10	保護者座談会（年長児①）	5名参加
5/12	保護者座談会（年長児②）	5名参加
5/14	保護者勉強会 『秦野市の就学システムについて』 講師：教育委員会教育指導課職員	年長児保護者対象
5/17	保護者座談会（年中児①）	2名参加
5/20	保護者座談会（年中児②）	6名参加
5/22	保育参加	クラスごとに実施
5/26	保護者座談会（年少児）	4名参加
6/2	あじさいクラス保護者勉強会	7名参加
6/7	親子登園日期間開始 ～7/2	2年日以降児対象期間
6/9	なでしこクラス保護者勉強会	4名参加
6/17	歯科検診	秦野伊勢原歯科医師会より5名来園
6/23	たんぼぼクラス保護者勉強会	6名参加
7/1	保護者集会～花コミュ～	9名参加
7/5	親子登園日期間開始 ～7/31	新入園児対象期間

8/2	令和4年度入園希望児集団見学会①	
7/21	なつまつり	園児行事
8/17, 19, 20	面談日	17日なでしこ、19日たんばぼ、20日あじさい
8/24	令和4年度入園希望児集団見学会②	
9/2	令和4年度入園希望児集団見学会③	
9/15	令和4年度入園希望児集団見学会④	
9/24	令和4年度入園希望児集団見学会⑤	
9/28, 29, 30	面談日	28日たんばぼ、29日あじさい、30日なでしこ
10/13	内科健診	
10/18	保護者集会～花コミュ～	
10/26	ハロウィン	園児行事
10/30	運動会	北公民館にてクラスごとに時間を分けて実施
11/11	年長児座談会①	3名参加
11/15	年長児座談会②	5名参加
6/17	歯科検診	秦野伊勢原歯科医師会より4名来園
11/25	年中児座談会	6名参加
11/30	年少児座談会	3名参加
12/8	クリスマス会予行練習	
12/13	保護者集会～花コミュ～	
12/18	クリスマス会	北公民館にてクラスごとに時間を分けて実施
1/6	正月ししまい	園児行事
2/3	豆まき	園児行事
2/15, 17, 18	面談日	15日あじさい、17日なでしこ、18日たんばぼ
3/11, 18	卒園式予行練習	
2/15, 16, 17	面談日	15日なでしこ、16日たんばぼ、17日あじさい
12/24	保護者集会～花コミュ～	
3/25	卒園式	クラスごとに時間を分けて実施

※誕生会…毎月1回実施。 ※身体測定…2ヶ月に1回実施。

表2-4

外部会議・説明会等

月日	会議名	場所	出席者
4/1	新採用職員オリエンテーション	ソーレ平塚	斎藤
4/2	新採用職員オリエンテーション	ソーレ平塚	大村、堂園、高橋
5/7	法人機関紙編集委員会	ソーレ平塚	今井
5/19	本町小学校授業参観	本町小学校	村上
5/26	渋沢小学校授業参観	渋沢小学校	遠藤
5/26	要対協ケース検討会	秦野市福祉センター	園長、安藤
5/28	法人理事会	ソーレ平塚	園長
6/21	秦野市子ども部門会	弘済学園	園長
6/22	要対協ケース会議	末広小学校	園長、村上
6/25	たんばぼ教室説明会	保健福祉センター	稲毛
6/28	要対協ケース会議	保健福祉センター	園長、今井
7/9	法人機関紙委員会	ソーレ平塚	今井

8/23	法人機関紙委員会	ソーレ平塚	今井
8/27	法人コンプライアンス委員会	ソーレ平塚	園長
9/3	秦野市子ども部門会	弘済学園	園長
9/24	要対協ケース会議	保健福祉センター	園長、安藤
9/29	菩提地区買物支援検討会	菩提上会館	園長
9/30	要対協ケース会議	保健福祉センター	園長、村上
10/7	秦野市教育支援協議会	秦野市役所	園長
10/14	ケース会議	渋沢小学校	安藤、飯塚
10/20	県指導監査	あけぼの園	園長、山田、武藤、稲毛
10/28	秦野市教育支援協議会	秦野市役所	園長
10/29	秦野市菩提地区買物支援事業に関する協定締結式	秦野市役所	園長
11/5	理事会	ソーレ平塚	園長
11/13	評議員会	ソーレ平塚	園長
11/26	秦野市子ども部門会	弘済学園	園長
11/29	湘南西地区施設長会(秦野地区)	あけぼの園 (Zoom)	園長
12/1	臨時経営会議	ソーレ平塚	園長
12/6	秦野市高齢福祉課職員来園	あけぼの園	園長
12/7	安全衛生委員会	ソーレ平塚	園長
1/11	施設部会	保健福祉センター	園長
1/11	地域公益事業連絡会	保健福祉センター	園長
1/13	法人表彰懲戒委員会	ソーレ平塚	園長
1/13	教育支援協議会	秦野市役所	園長
2/18	要対協ケース会議	保健福祉センター	園長、安藤
2/25	法人システム委員会	あけぼの園 (Zoom)	山田、稲毛
3/3	ファミサポ研修	保健福祉センター	稲毛、武藤
3/4	理事会	ソーレ平塚	園長
3/19	評議員会	ソーレ平塚	園長
3/22	たんぼぼ教室引継ぎ	たんぼぼ教室	村上、飯塚、今井、山崎、安藤、遠藤、稲毛
3/22	伊勢原養護学校教諭来園	あけぼの園	遠藤
3/23	秦野養護学校教諭来園	あけぼの園	山崎、遠藤、今井

※法人経営会議…毎月園長が参加（臨時開催のみ特記）。

※法人施設運営会議…法人経営会議の中で実施。

表2-5

設備、修理、点検、美化等

月日	内容	付記
4/10	園庭剪定	
5/17	非常灯交換	
5/18	屋根修繕	
5/29	園庭草刈り	卒園児保護者のボランティアあり
7/3	Wi-fi設定	

7/23	ホール手すり設置	
10/16	ワックスがけ	
10/23	園庭草刈り	
10/21	漏電箇所修繕	
11/9・14	教室手洗い場修繕	
12/1	門扉修繕	
12/3	バス3ヶ月点検	
12/8	厨房害虫駆除	
12/24	ホール手すり修繕	
1/12, 13, 18	デコレーションボード設置	
2/5	ワックスがけ	
2/5	園庭剪定	
3/14	園庭遊具修繕	
3/27～30	教室ロッカー塗装	
3/27～	トイレの改修、厨房、職員トイレの蛇口交換	
3/29	バス修理点検	



令和3年度
事業報告書

社会福祉法人 至泉会
精陽学園

I 福祉型障害児入所施設『精陽学園』

1 概況

年度当初の在籍人数は、44名（措置35名（内措置延長1名）、契約8名、成人契約1名、措置停止中1名）で始まり、年間を通じて5名の入所と6名の退所がありました。年度末の在籍は同じく44名（措置37名、契約7名）、年間の入所率は93.5%（昨年度94%）でした。本年度の特徴としては、一時保護の受け入れが19件延べ日数702日と多くあり、昨年度（6件70日）と比較すると10倍の利用増となりました。また、最後の成人契約者の移行支援が完了し、障害者支援施設の事業は、年度末を持って廃止しました。通学・通園先は、平塚養護学校、城島小学校、大住中学校、ひばり幼稚園の3校1園です。年度途中に入所した幼児1名は、幼稚園への通園希望を出しましたが、障がい児支援枠が埋まっており、入園できませんでした。

2月20日に新型コロナウイルス感染症の集団感染が始まり、在籍児童49名中（内2名長期外泊）、みなし陽性を含めた陽性児童が41名、職員の陽性者は12名となり、感染対応期間は32日間と長期に渡りました。学校・幼稚園は、休むことになり、日々の健康観察、感染児童の状況によるゾーニング、N95マスク・アイソレーションガウン・フェイスシールド・プラスチックグローブの着用と各所消毒、簡易キットによる抗原検査、スクリーニングによるPCR検査、使い捨てお弁当箱及び紙コップによる食事の提供等、試行錯誤しながら感染対応を行いました。対外的には、神奈川県医療危機対策本部（クラスター対策班）からは、物資（N95マスク、ガウン、フェイスシールド）の提供及びゾーニング等の助言を頂きました。平塚保健福祉事務所からは、PCR検査の実施、陽性者の療養期間・濃厚接触者の健康観察期間の認定、病院への救急搬送及び重症化予防のための入院対応等を行って頂きました。法人内からは、物資の提供及び職員が重複して休養した5日間に毎食の配膳及び陽性児童の対応等に協力を得ました。

職員体制としては、今年度よりソーシャルワーカー加算が新設され、内部の役割変更を行い登録しました。そのため、心理担当職員の配置は見送りました。常勤職員及び準職員の採用は、保育士1名・児童指導員2名・管理栄養士1名・栄養士1名、調理2名の7名、常勤職員及び準職員の退職は、保育士1名・栄養士1名・調理員2名の4名でした。また、育児休業明けから1名が復帰しました。課題としては、保育士・児童指導員の採用に時間を要したこと、調理場の職員体制が落ち着かなかったことが上げられます。

施設整備では、「令和2年度障害福祉施設等施設整備費補助金」の助成決定を受け

て、7月に非常用自家発電設備の更新工事を行いました。これにより、給水ポンプに電力供給が行えることになり、停電時に水の供給が可能になりました。同時に、経年劣化によるエアコン、業務用冷蔵庫、業務用乾燥機の更新、個室化工事に伴う倉庫の設置、外壁及び床の改修、防犯カメラの設置等を行い、大きく予算を上回りました。

令和3年度報酬改定では、ソーシャルワーカー加算、幼児加算、知的障がい児の人員配置基準の見直しが認められ報酬の増加がありました。しかし、肢体不自由児の職員配置基準は現状維持となり、3年後の報酬改定に向けて、日本肢体不自由児療護施設連絡協議会として、厚労省への新たな要望案を検討していく必要があります。

2 運営課題

(1) 令和3年度運営目標の経過

①子どもの受け入れと高等部卒業後に向けた移行支援

平均在籍数は、46.6人（上半期、47.0人）でしたが、一時保護の利用が多かったため、一時保護を加えた平均在籍数は、48.4人です。入所児童は5名で、入所前の所在は、在宅4名（一時保護含む）、乳児院1名でした。入所理由は、身体的虐待2名、母子家庭の母親の入院1名、父子家庭の養育困難1名、父親の逮捕1名でした。退園児童は6名で、退園理由は、母親の疾患の回復による家庭引取り1名、障害者支援施設（知的・身障）への移行2名、家庭引き取り2名、措置変更1名でした。また、性的事故による1名は、措置停止（3月20日～4月5日までの17日間）になりました。

高校3年生は3名在籍しており、進路先として障害者支援施設の身障施設を1名、知的施設を2名が希望していましたが、身障施設を希望した1名は、卒業前に退園しました。知的施設を希望した2名は、新型コロナウイルス感染症の集団感染により、体験利用や手続きが遅れ、年度内の移行は出来ませんでした。また、就学時期に合わせて家庭復帰に取り組んでいた幼児2名については、新型コロナウイルス感染症の集団感染により長期外泊を行っており、関係機関と連携することでそのまま退園しました。

一時保護は、19名延べ702日（昨年度、6名70日）でしたが、このうち4名は、措置入所に移行しました。一時保護の理由は、父親の新型コロナウイルス感染症による長期療養、母親の緊急入院、出産、両親の入院（生体腎移植）、同居親族による虐待、父親の入院、性的虐待、母の疲労等、多様になっており、複数の施設を継続利用するケースもありました。

②個別支援計画の推進と療育の実践

個別支援計画は、本人や家族の意向を丁寧に確認し、確認の取れない場合は、本

人の状況に配慮して考えることにより策定しました。本人の「やりたい」という思いを尊重し、具体的で実現可能な支援を行い、達成感を得られるようにクラスを中心として日々の生活の中で実践しました。また、本人に分かる言葉で策定することで、より主体的に取り組めるようにしました。同時に身体拘束についても検討し、安全を守る上で必要な内容について同意書を作成しました。

ケース会議については、卒業後の進路、進学先、家庭引取り、個々の課題、家族支援について等、毎月カンファレンスを開催しました。移行支援については、児童相談所、福祉事務所、相談支援事業所、学校等の関係機関が参加し、一人当たり複数回の会議を開催し、施設見学を実施しました。施設見学は、緊急事態宣言等により断られることもありました。

③早期発見、早期対応の健康管理

児童の健康面では、保育士、児童指導員、看護師、栄養士、理学療法士の連携により、一人ひとりの症状や状態の変化を確認し、早い時点での対応を心掛けるとともに、回復後のフォロー、リハビリ体制の充実に配慮しました。通院件数は、1日平均3名以上ありました。入院は、5名(6回)延べ72日でした(昨年度は、5名25日)。入院の理由は、声門後部癒着切除・Tチューブ留置術、神経筋性側彎術、左真珠腫性中耳炎再発による鼓膜形成術、神経筋性側弯症、新型コロナウイルス感染重症化予防であり、障がいによる身体機能を回復させるための手術が中心でした。

新型コロナウイルス感染症以外については、溶連菌等の発症は1件のみでした。疥癬の発症者が2名おり、治療するとともに、居室にベッドを揃え、床から布団との距離を離す等の対応を行ったことにより、再発はありませんでした。

学校関係では、新型コロナウイルス感染症への対応により、発熱等の体調不良者が一人でも出た際、全校の休みが16回ありました。

④人権と権利擁護

子ども同士で自分たちの生活を考える「なかよし会(子ども会)」では、仲間たちが困っていることや希望を聞いてそのことについて話し合い、自分たちの生活をより良くしていくことを目的に活動しました。プライムビデオ、夏休みの過ごし方、遊び、イベント等の項目が上がりました。話し合いの進行や自分の意見を述べたり、人の話を聞いたりする等、コミュニケーションを学ぶ場になりました。

職員間では、地域で起きている事件をピックアップして周知するとともに、虐待セルフチェックを行い、回答を集計してフィードバックしました。また、身体拘束の必要性について検討し、不必要な身体拘束を防止するようクラス会議等で検討しました。必要な拘束については個別支援計画に沿ってご家族の同意を頂き、定期的にモニタリングも行いました。

生教育では、性的な問題以外にも他者との関わり方や他者への思いやり等を学ぶための機会が必要であり、県平塚児童相談所と連携して「いきいきタイム(生教育)」を継続して実施しました。仲間意識を育てる。思いやりの気持ちを育む。相手の気持ちを考えられるようになる。命の大切さを伝える。これらのことを体感するために、毎月ゲーム形式で活動しました。命の大切さを伝える機会では、ドキュメンタリー動画、人形を素材として活用しました。

⑤家族支援と関係機関との連携

入所児童の家族との関わりについては、進路相談、家族の状況確認、兄弟姉妹との関係維持、定期的な面談、心理判定、性教育、保険証の更新等、児童相談所、福祉事務所と連携を取りながら進めました。

⑥子ども達にとって住みやすい環境に向けた取り組み

南棟(男子棟)の個室工事は、体調不良者の隔離、精神的に不安定になった児童のクールダウン、1人から少人数での遊びの場、勉強部屋等、有効に活用することが出来ました。北棟(女子棟)の個室は、経年劣化から外壁から雨水が侵入し、内壁及び床の木材が腐食し、白アリが発生したので、急遽改修工事を行いました。また、タイルカーペットを使用していた居室は、衛生面と安全面からクッションフロアに張替えました。課題であったスプリンクラー用の非常用自家発電設備も国庫補助を受けて更新することが出来ました。経費は掛かりましたが、現状の建物、設備を有効に改修することで、生活しやすい環境になりました。

⑦職員の働き方に関する改革

ライフワークバランス委員会を設置し、働き方の改善策や業務を整理し、働く上での意欲につながるよう検討を行いました。職員の採用が滞り、個々の負担も増えましたが、子ども達と関わる時間や事務的な時間を作る等、時間の有効活用を図りました。

⑧行政への働きかけ

日本肢体不自由児療護施設連絡協議会として、厚労省から依頼を受けて『児童福祉施設等の感染拡大防止・指導監査の在り方に関する研究会』で検討している「感染拡大防止と両立した児童福祉施設の指導監査の在り方について」の意見を提出しました。各地域における指導監査の実施状況を確認し、1年に1回以上としてある監査について、書面による監査を可能とするとともに、少人数での実施及び書面等を活用した時間短縮の配慮が望ましいことを要望しました。

県知的障害福祉協会(県身障協、神奈川セルフセンターの3協会連名)、平塚市障がい福祉施設連絡協議会は、それぞれ神奈川県、平塚市に対して、要望書の内容に過齢児の移行対策についての意見を盛り込みました。

3 事業内容

(1) 生活

①児童の成長、発達に応じた支援

一人ひとりの発達に合わせた療育を行う上で、担当が中心として作成する個別支援計画及び、理学療法士、看護師、栄養士、主治医、児童相談所（心理判定）、カウンセラー、教員との情報交換、家族との面談に加え、本人の希望を元に生活を考え、必要に応じて適宜カンファレンスを行い、方針の決定、情報の共有化を図りました。

②理学療法士による機能訓練

子どもの日常生活を見極めると同時に将来の生活を見据えることで、必要な支援やそのために工夫できることを保育士等と情報を共有し、子ども自身に働きかけながら、運動、生活空間の使い方、食事のマナー等、身体機能の維持・向上に努めました。また、一人ひとりの身体機能を評価し、補装具の作成及び必要に応じて個別プログラムを実施しました。学校の教員とも連携し、授業や摂食等に活かせるよう情報交換を行いました。

口腔機能に障がいのある児童も多く、歯科医師のアドバイスを受け、摂食指導の実践的なアプローチを行い、保育士、栄養士、看護師等と連携して個々の発達に沿った摂食指導を行いました。嘱託医（整形外科）は、月に1回来園し、初診6件、補装具関連31件、身体障害者手帳関係3件、定期健診24件、身体関係（手術関係、側彎、外反膝、ボトックス、装具終了）の相談受診経過報告12件、ケガの診察1件、移行関係の報告3件を行いました。

(2) 衛生管理

一人ひとりの基礎疾患、障がい特性、病状の変化に細心の注意を払い、保育士等との情報交換を元に一歩先を見越した対応を心掛けました。緊急通院等においては、入院することも念頭に置き、最善の対応ができるようにしました。新型コロナウイルス感染症に対しては、緊急事態宣言中は主治医と相談し、通院の件数を抑えました。また、服薬管理における体制、個々の健康面における対処方法、書類管理等、新たな視点で見直しを行い、効率的な業務が出来るようにしました。

健康診断は、協力医である小児科医及び歯科医により年に2回ずつ、合計4回実施しました。

感染予防対策としては、継続して食事前や外出後の手洗い・手指消毒、毎日の体温測定、建物内の消毒、公用車運転後の消毒、車いすの消毒、マスクの着用等を行いました。

(3) 栄養管理

本人の成長や健康状態の変化に日々対応できるように、一人ひとりの口腔機能に
適した食事形態を提供しました。芳賀歯科医による摂食指導や研修会及び受診時に
個別対応の助言を受け、介助方法、食事形態の工夫を重ねました。

献立の作成では、季節の食材を多く取り入れ、美味しいと感じられる食事を目指
しました。残食の量は平均的に少なく、一人ひとりがしっかりと摂取出来ていると
考えられます。身長、体重等の変化に対しては、食事委員会を中心に現状の評価を
行い、食事量や形態の変更には、主治医、家族の確認を取り実施しました。

毎月、栄養士が子どもたちと食育に関する話合いの機会を持ち、季節の野菜の栄養
の必要性、外食の栄養のバランス、カルシウム等必要な栄養素等を分かりやすく説明
し、食育指導に努めました。個別に指導が必要な児童には、個別に合わせて話をしま
した。また、自立生活に向けた食事の相談や調理体験も行いました。長期休暇中には、
食事、おやつ作りを行い、家庭で体験できることを行いました。行事食では、慣習行
事を中心に目で見えて楽しみ、味わって楽しみ、心が潤うように工夫を重ねました。誕
生会や選択食を毎月行い、楽しんで食事が出るようにしました。

(4) 幼児教育・学校教育

通園・通学先は、ひばり幼稚園、城島小学校、大住中学校、平塚養護学校の3校・
1園です。送迎時の情報交換、連絡帳の交換、電話連絡等、日頃の関係を大切にして
きました。また、業務連絡会も開催し、情報交換、課題事項の検討を行いました。新
型コロナウイルス感染症により電話やリモートによる面談の機会も増えました。また、
施設は一つの家族ととらえられ、職員、児童を含めて1名でも発熱者がした場合、全
校が休校になる措置が取られました。

(5) 幼児デイケア（未就学児）・日中活動支援（過齢児）

幼児は、年間9名在籍し、1名は短期間措置、3名は幼稚園に通園したので、幼児
療育としては5名を対象として行いました。室内では、集中して行える活動や運動、
感覚統合、音楽リズムを取り入れました。室外では、散歩や公園、遠足に行き、体力
を使うことや色々な遊具を使って遊ぶことを行いました。外部との交流は、新型コ
ロナウイルス感染症の影響により実施していません。

過齢児の日中活動対象者は2名ですが、1名は移行準備のために短期入所を行い5
月6日に退園したため、実質的には1名で活動しました。利用者の好きな活動に重点
を置き、運動、散歩、製作等、プログラムを組み合わせで行いました。外部との交流
は、新型コロナウイルス感染症の影響により実施していません。

(6) 行事

地域行事は、新型コロナウイルス感染症により全て中止になりました。施設内行
事も恒例の秋まつり、日産労連ふれあい夏まつりも中止となり、地域の方と関わる

機会が減少しました。施設内では、慣習行事等を短時間で実施しました。秋の保護者会は、各棟で時間を分けて開催し、密にならないよう実施しました。

(7) 家族への援助

新型コロナウイルス感染症への対策により、外泊、面会、外出の制限等があり、家族との交流場面は大変少なくなりました。毎月面会や外出が実施できている家庭は27%（昨年22%）です。年間1回～10回程度の面会又は外出が実施できている家庭は53%（昨年55%）、保護者不在も含めて実施できていない家庭は20%（昨年22%）となっています。昨年度よりも実施回数が減少していることはやむを得ないことですが、新型コロナウイルス感染症を理由に面会に来ない家族もあり、家族との情報交換は、電話、メール以外にもホームページ、家族向け機関紙の発行等で行いました。

三日里親と関わりも持っている児童は2名おり、1名は双子の妹が里親委託されていて、妹も含めた定期的な交流となっています。1名は、これから関わりを深めていく目的で定期的に面会、外出を行いました。

(8) 心理担当職員の配置

今年度、心理担当職員の配置は見送りましたが、公認心理師によるカウンセリングは月に2回行いました。日常生活の中から子どもの状態を観察し、カウンセリングを通じて、心の状態や必要な支援の相談を行い、とても楽しんで参加できています。カウンセリング手法として、箱庭療法も取り入れ、それぞれの担当職員にフィードバックを行い、個別支援に活かしました。

(9) ソーシャルワーク

新規入所相談、生活相談、移行支援、家庭復帰支援、諸手続き、傾聴等、ソーシャルワークに関わる業務は多方面に渡り、一人ひとりの現状に沿って対応しました。移行支援に関しては、過齢児2名、高等部3年生3名を中心として、保護者・本人の意向の確認（アセスメント）及び関係機関とのカンファレンスを実施し、他に施設見学、短期入所、障害支援区分認定、成年後見人の選任、アフターフォロー等の対応を行いました。

入所児童に関しては、児童相談所とのカンファレンス48件、情報交換等195件、移行支援関連31件、心理判定12件、家族（兄弟姉妹）交流38件、新規入所対応（一時保護含む）26件等、必要に応じた対応を行いました。

4 事故報告

行政機関に提出する事故報告は、性的事故と転落事故、用水路への雑排水の排出事故の3件ありました。夜間、高校生の男子が隣の同学年の男子の腹部を触って、舐め

ていた行為が発覚しました。大雨特別警報の外部放送が流れ、不安になっていたことがきっかけでした。当面、日々の隔離対応と一日の振りかえりの時間を設け、自分の気持ちをどう表現するのか、相手の気持ちをどう理解するのか等、話し合う機会を設けています。転落事故は、オムツ交換を行う際、トイレの台から約 60 センチ下の床に転落したものです。額の傷口を 3 針止めました。動きのある児童なので、職員の不注意が原因でした。どちらも再発防止対策を講じています。

また、厨房の雑排水がグリストラップから配管への詰まりにより、用水路に流失しました。排水管の清掃を行うとともに、平塚市環境保全課へ報告し、用水路に流れた油脂の清掃を行うよう指示されました。オイルシート及び汲み取りにより清掃を行い、平塚市へ事故報告書を提出しました。

5 その他

(1) 防災・防犯・事故対策

事故報告書、ヒヤリハット報告書は 120 件（令和 2 年度 105 件）あり、委員会を開催して原因の分析及び改善策を講じました。内容は、嘔みつき、異食、転倒、服薬、食事形態、性的事故、物損、所在の確認等でした。毎月集計し、対応策を検討しました。入浴では、個々のリスクを評価して、同じ時間に入る組み合わせや順番等を考慮しました。服薬介助マニュアルも見直しを行いました。

防犯対策については、各所の見回り、夜間の閉門、玄関の施錠等を継続的に実施しました。土日祭日及び夕方以降は、職員室に人がいない時間が出るので、玄関は常に施錠し、外来者にはインターホンで対応しました。3 月に玄関前に防犯カメラを設置しました。

(2) 社会貢献活動

社会貢献活動として、昭和 60 年から平塚市城島地区民生委員児童委員協議会と連携して、一人暮らしの高齢者にお弁当を作っていましたが、新型コロナウイルス感染症への対応や日常的に安価でお弁当が購入できるようになり、昨年度で本事業は廃止になりました。

(3) 寄付等

現金 534,000 円（理事長、ゲーム同好会、個人及び匿名希望者）。物品等は、荒井商事から消毒液、湘南小巻ファームから野菜、NPO 法人気持ちを届ける会からランドセル、平塚市理容組合から果物、関東アイスクリーム協会からアイスクリーム、「きいろいおうち」からは絵本。個人からは、洗剤、タオル、花、ケーキ、衛生用品、お菓子等の寄付を頂きました。適宜、法人のホームページを活用して紹介しました。

(4) 施設・設備の管理

①助成金

「令和2年度障害福祉施設等施設整備費補助金」の助成を受け、非常用自家発電設備の更新工事を行いました。停電時にスプリンクラーを稼動するとともに貯水槽ポンプにも活用できるため、水の使用もできるようになりました。

工事費用 5,071,000円(株式会社 イーエイチケー)

設計管理料 330,000円(株式会社 新環境設計)

助成金 3,547,000円(国 1/2、神奈川県 1/4)

自己資金 1,854,000円(施設整備積立金から支出)

完成検査(神奈川県障害サービス課の立ち会い) 令和3年7月28日(水)

②設備・備品の更新、修理、改修等

防犯対策の一環として、玄関に防犯カメラの設置を行いました。また、経年劣化等による設備・備品の修理及び更新を行いました。内容は、職員室と厨房の業務用エアコン、業務用冷蔵庫2台、業務用乾燥機の更新。個室の外壁内壁及び床、居室床のクッションフロアへの改修。多目的棟トイレのアコーディオンドア及び鍵の取り付け。日用品用プレハブ倉庫の設置。消化水槽給水管、窓ガラス、公用車自損事故の修理。調理場排水溝の高圧洗浄等を行いました。

(5) 安全衛生管理

職員の健康診断の実施、毎月の産業医による相談及び巡回指導を受けました。労災は、2件ありました。調理員が温冷配膳車の清掃をしていた際、側面のステンレス部分で右手小指に切傷による出血があった。児童指導員が出勤の際、前日の降雪で路面が凍結しており、原動機付自転車が転倒し、右肩を打撲しました。また、育休明けの職員が復帰し、妊娠中の職員2名は、業務への配慮を行いました。私傷病欠勤の職員2名が休養しました。

(6) 労務管理

労務関係において、令和2年11月1日に採用し、令和3年2月25日に退職した元職員から、神奈川県労働局へ個別労働関係紛争のあっせんがあり、調整の結果15万円の補償金を支払うことで和解しました。

(7) その他

保育・社会福祉士実習生の受け入れに際しては、新型コロナウイルス感染予防のため、公共交通機関を利用しない学生に限定し、介助場面の制約、健康状態の把握等に配慮して受け入れを行いました。

ボランティアについては、受け入れを中止しました。但し、理容に関しては、必要性が高いため、感染予防の配慮を行った上で実施しました。

Ⅱ 障害者支援施設『精陽学園』

1 概況

日中活動「はばたき」は、成人契約者1名、児童契約延長者1名の2名を対象としました。成人契約者は、移行準備のために短期入所で不在の期間が多くあり、5月6日に障害者支援施設（知的）に移行できたことにより、実質的には児童契約延長者1名での活動になりました。

成人契約者が退園したことにより、事業開始後初めて登録者はいなくなりました。本事業は、平成24年度の児童福祉法の改正に伴い、18歳以上は原則在籍できないとされたことにより、平成30年度末までの経過措置としての事業でしたが、平成30年度より3年間、令和3年度に1年間、令和4年度以降2年間と経過措置が延長されました。今後の移行支援は、20歳までの間に行うことを前提としているので、今後この事業を利用する対象者がいなくなるため、令和3年度末で事業を廃止しました。

2 事業内容

(1) 日中活動「はばたき」

本人の障がい特性から、音楽を聴いて落ち着いて過ごすこと、散歩やバランスボール等を活用して身体を動かすことを中心に活動を行いました。一時保護の児童達とも一緒に過ごす機会も多くありました。新型コロナウイルス感染症の対応により、地域活動支援センター「平塚二葉会」との交流は控えました。

(2) 移行支援

成人契約者1名は、高等部卒業から5年が経過してようやく障害者支援施設（知的）へ移行することができました。家族が納得できる施設が中々見つからなかったこと及び新型コロナウイルス感染症により、体験利用等の機会を得ることに大変時間がかかりました。

今春卒業した児童契約延長の1名は、障害者支援施設への移行を進めていますが、肢体不自由（視覚障害、聴力障害、体幹機能障害、両上肢機能の著しい障害）、重度知的障害、食物アレルギー対応等の重度重複障害があり、受入可能な施設を探すことも厳しい状況です。成人施設では、身障、知的、精神、重心の障害区別がはっきりしているため、重度重複している利用者の移行支援は、とても厳しい状況です。なお、児童契約の延長は、最大20歳の誕生日の前日までとなっています。

Ⅲ 短期入所事業・日中一時支援事業『精陽学園』

1 短期入所事業

(1) 受け入れ状況

短期入所の定員は2名で、契約者数は27名（男子17名、女子10名）です。今年度の受け入れは、新型コロナウイルス感染症の対応により制限を行い、7件25日となりました（昨年度、3件11日）。制限の内容は、緊急事態宣言中及びまん延防止等重点措置地域からの受け入れは、原則として行わないことです。

年度当初より一時保護の受け入れが多く、7月、8月は利用定員が満床になり、受け入れが出来ない期間もありました。しかし、緊急度の高いケースは、感染防止対策を十分に行い、受け入れを行いました。

(2) 入所理由

昨年度、家庭復帰した児童へのアフターフォローを中心に行いました。主な理由は、母親の介護負担の軽減でした。

2 日中一時支援事業

(1) 受け入れ状況

学齢児の放課後支援、休日等の日帰りでの利用形態です。対象地域は、平塚市と秦野市と契約しています。契約者は、男子1名です。新型コロナウイルス感染症の影響により、昨年度以降、受け入れを行いませんでした。

(2) 利用理由

新型コロナウイルス感染症の影響により、受け入れを行いませんでした。

3 短期入所の利用状況

(1) 過去10年間の利用状況表

年度	件数	日数
平成24年度	128 件	354 日
平成25年度	124 件	381 日
平成26年度	103 件	335 日
平成27年度	112 件	429 日
平成28年度	126 件	421 日
平成29年度	102 件	365 日
平成30年度	104 件	306 日
令和1年度	106 件	319 日
令和2年度	3 件	11 日
令和3年度	7 件	25 日

(2) 理由別・日数別 件数表

理由/日数	2～5日	6～10日	11～15日	合計
家族の休養	7	0	0	7
体験利用	0	0	0	0
家族の仕事	0	0	0	0
その他	0	0	0	0
合計	7	0	0	7

(3) 月別・市町村別 件数表

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
厚木市	0	0	1	0	1	1	1	1	0	1	0	0	6
茅ヶ崎市	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
合計	0	0	1	1	1	1	1	1	0	1	0	0	7

4 日中一時支援の利用状況

(1) 利用日数表

年度	日数	年度	日数
平成26年度	62	平成30年度	0
平成27年度	58	令和1年度	38
平成28年度	48	令和2年度	0
平成29年度	38	令和3年度	0

(2) 理由別・日数別 件数表

理由/日数	4時間未満	4～8時間	8時間以上	合計
家族の休養	0	0	0	0
父子家庭	0	0	0	0
その他	0	0	0	0
合計	0	0	0	0

(3) 月別・市町村別 日数表

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平塚市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
秦野市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

関係資料

1 入所児童の状況 (入所時の年齢)

	入所日	性	年	形態	氏名	児童相談所	入所理由	入所前の所在
1	4月9日	男	4	措置	Y.H	県厚木	母親の入院、5/1措置	家庭
2	4月8日	男	12	措置	I.Y	横浜市西部	父親の収監、8/1措置	家庭
3	6月25日	女	4	措置	I.Y	県厚木	母親の身体的虐待、8/1措置	家庭
4	7月21日	男	4	措置	U.Y	県中央	継父の身体的虐待、8/1措置	家庭
5	8月1日	女	4	措置	Y.I	横浜市中心	養育困難	乳児院

2 退所児童の状況 (退所時の年齢)

	退園日	性	年	形態	氏名	援護機関	退所先	退所理由	在所期間
1	5月6日	女	23	契約	E.F	伊勢原市	障害者支援施設	移行支援	16年0ヵ月
2	6月30日	男	5	措置	Y.H	県厚木	家庭	母親の退院	2ヶ月21日
3	1月7日	男	18	措置	O.M	県厚木	障害者支援施設	移行支援	15年3ヵ月
4	3月27日	男	6	措置	H.R	横浜市西部	家庭	家庭引取り	2年10ヵ月
5	3月29日	女	6	契約	M.R	県平塚	家庭	家庭引取り	3年10ヵ月
6	3月30日	男	12	措置	N.A	相模原市	福祉型障害児	措置変更	7年1ヵ月

3 年齢 (令和4年3月31日現在)

	2才	3才	4才	5才	6才	7才	8才	9才	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	合計
男	0	0	0	3	1	3	1	1	3	2	2	1	2	1	4	2	1	0	0	27
女	0	0	1	1	1	1	0	1	0	1	0	4	1	2	0	2	1	1	0	17
計	0	0	1	4	2	4	1	2	3	3	2	5	3	3	4	4	2	1	0	44

4 通学・通園児童 (令和4年3月31日現在)

	幼	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	合計
男	2	3	1	0	4	2	2	1	3	0	4	2	1	25
女	1	1	0	1	0	1	0	4	1	2	0	2	1	14
計	3	4	1	1	4	3	2	5	4	2	4	4	2	39

5 就学先 (令和4年3月31日現在)

	幼	小	中	高	合計
県立平塚養護学校		11	8	10	29
市立大住中学校			3		3
市立城島小学校		4			4
市立ひばり幼稚園	3				3
合計	3	15	11	10	39

6 措置・契約機関 (毎月1日現在の人数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10	11	12	1月	2月	3月	合計	備考
県中央	7	7	7	7	8	8	8	8	8	8	8	8	92	措置
	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	36	契約
県鎌倉三浦	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	措置
県小田原	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	措置
	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	契約
県厚木	5	6	6	5	6	6	6	6	6	6	5	5	68	措置
県平塚	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	36	措置
	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	48	契約
相模原市	3	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	47	措置
横須賀市	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	36	措置
横浜市中心	2	2	2	2	3	3	3	3	3	3	3	3	32	措置
横浜市南部	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	措置
横浜市北部	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	措置
横浜市西部	5	5	5	5	6	6	6	6	6	6	6	6	68	措置
川崎市こ	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24	措置
川崎北部	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	措置
川崎中部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	措置
伊勢原市	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	成人契約
合計	44	46	45	44	48	48	48	48	48	48	47	47	561	

※入所率 93.5% (前年度94.0%)

7 緊急一時保護

	氏名	援護機関	性	年	入園日	入園理由	退園日	退園先	在園期間
1	K. A	県中央	女	16	3月26日	母の疾患	4月2日	家庭	8日
2	I. Y	横浜西	男	12	4月8日	父の収監	7月31日	措置入所	115日
3	Y. H	県厚木	男	4	4月9日	母の入院	4月30日	措置入所	22日
4	I. K (1)	県厚木	男	12	4月20日	体験利用	4月22日	家庭	3日
5	N. R	県中央	男	4	4月28日	母の疾患	5月7日	家庭	10日
6	O. H	横浜南	男	11	5月10日	父の入院	8月23日	家庭	106日
7	I. K (2)	県厚木	男	13	6月25日	体験利用	6月29日	家庭	5日
8	I. Y	県厚木	女	4	6月25日	身体的虐待	7月31日	措置入所	37日
9	N. N	県綾大	女	12	7月28日	父母の入院	9月29日	家庭	64日
10	I. K (3)	県厚木	男	13	7月15日	母の入院	9月29日	家庭	77日
11	U. Y	県中央	男	4	7月21日	身体的虐待	7月31日	措置入所	11日
12	S. A	県平塚	女	15	8月13日	心理的虐待	8月18日	重心施設	6日
13	N. S	県綾大	女	11	8月19日	母の入院	10月13日	家庭	56日
14	H. S (1)	県厚木	男	10	11月3日	父の入院	12月6日	家庭	34日
15	H. S (2)	県厚木	男	10	1月24日	父の入院他	継続		67日
16	A. S	県厚木	女	9	1月28日	兄の受験	2月7日	家庭	11日
17	O. Y	県小田	女	10	2月3日	性的虐待	2月14日	家庭	5日
18	Y. K	県鎌三	男	5	2月10日	母の疲労	継続		57日
19	S. M	県中央	男	14	3月24日	初'ワト、母の入院	継続		8日
	合計								702日

※前年度 6件70日

8 身体障害者手帳（令和4年3月31日現在）

	1級	2級	3級	4級	無	合計
男	6	7	3	2	9	27
女	5	4	1	0	7	17
計	11	11	4	2	16	44

9 療育手帳（令和4年3月31日現在）

	A1	A2	B1	B2	無	合計
男	17	0	2	5	3	27
女	6	3	4	2	2	17
計	23	3	6	7	5	44

10 入所前の所在（令和4年3月31日現在）

障害名	男	女	合計
家庭	6	7	13
乳児院	13	7	20
知的障害児施設	1	0	1
肢体不自由児施設	0	0	0
肢体不自由児療護施設	0	0	0
重症心身障害児施設	2	0	2
児童養護施設	1	0	1
病院	1	3	4
一時保護所	3	0	3
その他	0	0	0
合計	27	17	44

11 主たる入所理由（令和4年3月31日現在）

入所理由	男	女	合計
虐待	16	9	25
養育困難	11	8	19
合計	27	17	44

虐待内訳	男	女	計
身体的虐待	7	4	11
ネグレクト	8	4	12
心理的虐待	1	0	1
性的虐待	0	1	1
合計	16	9	25

養育困難世帯	男	女	計
母子家庭	4	2	6
父子家庭	3	0	3
両親	4	8	12
その他	0	0	0
合計	11	8	19

12 主たる障害（令和4年3月31日現在）

障害名	男	女	合計
脳性まひ	2	2	4
脳室周囲白質軟化症	1	1	2
硬膜下血腫後遺症	3	1	4
小脳欠損	1	0	1
水頭症	2	1	3
先天性筋緊張性ジストロフィー症	2	0	2
先天性多発腸閉塞症	0	1	1
急性脳症、急性脳炎後遺症	2	0	2
髄膜炎後遺症	1	0	1
裂脳症	1	0	1
肺動脈閉鎖エプスタイン奇形	1	0	1
ファロー四徴症	0	1	1

障害名	男	女	合計
甲状腺機能低下症	1	0	1
多発奇形症候群	1	0	1
ダウン症	1	1	2
てんかん	0	1	1
SBS（揺さぶられっこ）症候群	0	1	1
二分脊椎	1	0	1
知的障害	4	4	8
自閉症スペクトラム	2	0	2
軟骨無形成症	0	1	1
プラダーウィリー症候群	0	1	1
大理石骨症による視覚障害	0	1	1
診断無し	1	0	1
合計	27	17	44

13 日常生活動作（令和4年3月31日現在）

	移動					食事			着脱衣			入浴			排泄				
	自力歩行	一部介助	全介助	(補装具)	(車いす)	自立	一部介助	全介助	自立	一部介助	全介助	自立	一部介助	全介助	自立	一部介助	全介助	(オムツ)	(夜オムツ)
男	16	5	6	14	10	14	8	5	9	9	9	5	5	17	6	6	15	18	1
女	10	2	5	9	4	7	7	3	6	5	6	4	3	10	5	3	9	11	2
計	26	7	11	23	14	21	15	8	15	14	15	9	8	27	11	9	24	29	3
	44					44			44			44			44				

14 食事形態の状況（令和4年3月31日現在）

形態/kcal	900	1100	1300	1500	1700	1900	2000	2500	合計
ミキサー	1	0	0	3	2	0	0	0	6
ソフト	0	3	2	1	0	0	0	0	6
一口大	2	6	4	3	1	4	0	0	20
普通食	0	0	2	1	5	0	2	2	12
合計	3	9	8	8	8	4	2	2	44

ご飯の形状

普通	お粥	粥ミサー	合計
0	6	1	7
0	6	0	6
17	3	0	20
12	0	0	12
29	15	1	44

15 在籍年数（令和4年3月31日現在）

	0年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	合計
男	2	2	3	2	2	2	1	3	4	2	0	2	1	1	0	0	27
女	2	2	2	3	0	1	2	1	0	0	1	1	2	0	0	0	17
計	4	4	5	5	2	3	3	4	4	2	1	3	3	1	0	0	44

16 帰宅、面会の状況（令和4年3月31日現在）

頻度	男	女	合計
月に1回以上、帰宅・面会あり	3	3	6
月に1回以上、面会のみ	1	4	5
月に1回未満、帰宅・面会あり	3	3	6
月に1回未満、面会のみ	15	3	18
里親交流	1	1	2
帰宅面会なし	4	3	7
合計	27	17	44

里親、兄弟姉妹との交流（別掲）

	氏名	相手	内容
1	N. S	里親及び姉妹	自宅訪問等、4回
2	U. S	里親	面会・外出、9回
3	N. Y	兄、姉	実施せず
4	K. R	兄弟	実施せず

17 職員の採用・退職状況（令和3年4月1日～令和4年3月31日）

	採用										退職											
	常勤		準職員		パート		アルバイト		委託		合計	常勤		準職員		パート		アルバイト		委託		合計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
施設長											0											0
児発管											0											0
児童指導員											0								1			1
保育士		1									1	1										1
児童指導員		1		1							2											0
看護師											0											0
理学療法士											0											0
管理栄養士		1									1											0
栄養士		1									1	1										1
調理員				2							2			2		2		1				5
事務員											0											0
介助員								2			2							1				1
用務員								1	1		2							1		1		2
公認心理師											0											0
合計	0	4	0	3	0	0	0	3	0	1	11	1	1	0	2	0	2	0	4	0	1	11

18 令和4年4月1日現在の職員

	常勤		準職員		パート		アルバイト		委託		合計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
施設長	1										1
児童発達支援管理責任者	1										1
ソーシャルワーカー	1										1
心理担当	1										1
児童指導員	5	5		2				2			14
保育士	1	10		1				1			13
介助員						1		6			7
看護師		1				2					3
理学療法士		1									1
医師、産業医									2		2
公認心理士								1			1
管理栄養士			1								1
栄養士			1								1
調理員					2			8			10
事務員			1			1					2
用務員						1		2		2	5
合計	10	20	0	5	0	5	0	20	2	2	64

※常勤女性保育士1名育児休業中含む

19 入院状況 (入院時の年齢)

	氏名	性	年	入院理由	病院	入院日	退院日	入院期間
1	K.Y	女	15	気管切開後両側声帯麻痺	北里大学病院	5月26日	6月3日	9 日
2	K.Y	女	15	咽頭狭窄症	北里大学病院	6月5日	6月21日	17 日
3	F.K	女	12	神経筋性側弯症	こども医療センター	6月21日	7月9日	19 日
4	I.A	女	14	真珠腫性中耳炎再発	東海大学病院	7月14日	7月20日	7 日
5	T.A	女	13	神経筋性側弯症	こども医療センター	11月15日	12月3日	14 日
6	H.I	男	7	新型コロナ感染重症化予防	藤沢市民病院	3月2日	3月7日	6 日
	合計							72 日

20 休校児童数 (病気及び通院等)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
人数	10	10	18	25	14	19	22	19	37	8	5		187
コロナ関連での休校日数	1	1	1	1	3		5		2	2			16
新型コロナ感染期間での休校日数										9	23		32

2/20~3/23

21 通院状況

病院	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
東海大学	6	11	10	13	10	12	7	7	7	8	8	12	111
神奈川リハビリテーション	4	3	4	1	4		4	3	1	2	1		27
平塚市民病院	3	1	4		3	4	1	5	6	1	2	3	33
県立こども医療センター	3	1	2	8	2	4	2	2	3	5	3	1	36
北里大学病院		1	5		1	1			1		1		10
茅ヶ崎市立病院	1	1	1	2	4				1	3		2	15
おしげ皮膚科	10	9	7	6	5	7	10	8	9	3	1	5	80
四ノ宮耳鼻咽喉科	3	2	1	11	12	2	8	4	6	7	1		57
平塚共済病院											1		1
藤多パークサイドクリニック	9	11	8	7	26	13	6	15	8	18	9	5	135
芳賀デンタルクリニック	9	8	5	3	1	16	16	12	4		5	2	81
たかはし眼科	1	1	7	3	2	2		2	5		3	2	28
久保田整形外科								1					1
県立総合療育相談センター	1		1	2	2	4	1	1	1			2	15
休日診療所												1	1
横浜市大センター病院		1	1			1			2		1		6
横浜市西部療育センター	1	1	1										3
ありがとうファミリークリニック	1	1		1		1		1		1			6
伊勢原協同病院			1		1			1					3
もりた眼科		1				1	1						3
みずきクリニック							2						2
倉田クリニック										2			2
かとう腎・泌尿器内科クリニック										2			2
聖マリアン西部病院						1							1
城所整形外科			1										1
合計	52	53	59	57	73	69	58	62	54	52	36	35	660

22 実習生の受入

	学校名	年 数		実習期間			
		年	数	開始日	～	終了日	日間
1	大原医療秘書福祉保育専門学校	2	1	5月31日	～	6月10日	10 日間
2	聖ヶ丘教育福祉専門学校(二部)	3	2	6月12日	～	6月23日	11 日間
3	桜美林大学	3	2	7月27日	～	8月8日	12 日間
4	関東学院大学	3	1	8月3日	～	8月15日	12 日間
5	YMCA健康福祉専門学校 2, 3年		1	8月9日	～	8月21日	11 日間
6	田園調布学園大学	3	1	8月24日	～	9月12日	24 日間
7	小田原女子大学短期大学部	2	1	8月16日	～	8月27日	11 日間
8	聖徳大学(通信教育部)		1	8月21日	～	9月1日	11 日間
9	鎌倉女児大学短期大学部	2	1	9月4日	～	9月16日	12 日間
10	和泉短期大学	1	2	1月14日	～	1月26日	12 日間
11	横浜創英大学		2	1月28日	～	2月9日	12 日間
12	和泉短期大学	1	2	2月10日	～	2月14日	5 日間
13	関東学院大学		2	3月24日	～	4月5日	12 日間
14	湘北短期大学	1	2	3月24日	～	4月3日	10 日間
15	聖ヶ丘教育福祉専門学校(一部)	1	2	コロナ対応期間のため、6月に延期			日間
16	武蔵野大学	2	2	コロナ対応期間のため、8月に延期			日間

23 見学者等の受入

	来園者	人数	見学日
1	柿生学園職員	4名	9月14日
2	平塚市議会議員他	5名	10月4日、11月24日
3	東海大学体育学部教授他	4名	11月27日
4	きいろいおうち代表他	2名	12月22日

日本肢体不自由児療護施設連絡協議会 交換研修

	施設名	人数	性	職種	研修期間	
					開始日	日間
1	実績なし					日間

24 防災訓練

	日時	内容
1	4月29日	ボイラー室からの火災を想定した避難誘導、初期消火訓練
2	5月28日	緊急地震速報発令。地震による調理場からの火災を想定した避難誘導、初期消火訓練
3	6月27日	緊急地震速報発令。地震によるボイラー室から火災を想定した避難誘導、初期消火訓練
4	7月29日	地震により、多目的棟からの出火を想定した初期消火訓練。(夜間想定)
5	8月28日	ボイラー室からの火災を想定した避難誘導、初期消火訓練
6	9月18日	食堂からの火災を想定した避難誘導、初期消火訓練
7	10月31日	緊急地震速報発令。地震によるボイラー室から火災を想定した避難誘導、初期消火訓練
8	11月21日	多目的棟からの火災を想定した避難誘導、消火訓練訓練
9	12月29日	ボイラー室からの火災を想定した避難誘導、初期消火訓練
10	1月29日	地震により、多目的棟からの出火を想定した初期消火訓練。(夜間想定)
11	2月	新型コロナウイルス感染のため、実施できなかった
12	3月29日	ボイラー室からの火災を想定した避難誘導、初期消火訓練

令和3年度
事業報告書

社会福祉法人 至泉会
ソーレ平塚

I 障害者支援施設（施設入所支援・生活介護）『ソーレ平塚』

1 概況

(1) 利用者の高齢化、障がいの重度化への対応（入所者の動向）

入所者は、3月31日現在50名（男性29名：女性21名）、入所待機者は27名（男性19名：女性8名）となっています。入所者の平均年齢は57歳で、最高年齢は82歳、最少年齢は18歳です。65歳以上の方が22名で、全体の44%を占め、利用者の高齢化、障がいの重度化に合わせたサービス内容の見直しを随時行いました。また、入退所関係では、6月から9月にかけて2名が療養型病院へ移行しました。新たな入所者（男性）を9月に2名、1月に1名受け入れましたが、新規入所者は男性が多いため、8月から男性フロアの居住者2名に女性フロアへ移ってもらい、女性職員が男性居住者の支援も行うように体制を変更しました。

(2) 感染症への対策

今年度も新型コロナウイルス感染拡大の影響により、施設内の感染対策の徹底、アクティビティ活動の休止、利用者の外出・外泊制限、家族の面会制限、リモート面会の推奨等を継続的に行いました。昨年度より新型コロナウイルス感染防止対策本部をソーレ平塚地域支援センター及び法人本部と立ち上げ、毎週月曜日に定例会を開催し、感染状況等の情報共有と対応の検討を適宜行いました。利用者へのワクチン接種については、近隣の「ありがとうみんなファミリークリニック平塚」の協力を得て、初回および2回目接種を6月～8月にかけて行い、3回目接種を2月～3月に行いました。職員は、6月以降に職域接種が始まり、希望者全員の接種が完了しました。3回目接種については、接種時期に合わせて、職員個々で対応しました。6月下旬には、神奈川県が職員を対象に感染者を早期に発見し、速やかに感染を阻止するために実施したPCR検査を受け、職員全員が陰性と結果が出ました。

家族面会については、まん延防止等重点措置期間および緊急事態宣言中は制限しましたが、それ以外は、地域の感染状況を確認しながら、30分以内の条件付きで面会を再開しました。

(3) 職員採用・人材育成

職員体制は、昨年度に引き続き必要な職員数の確保が困難であり、常時求人をしている状況でした。生活支援員（常勤）の採用については、5名採用しましたが、3月31日現在1名の欠員となっています。また、昨年度は欠員に加え、産休・育休を取った職員や病休の職員が出たため、常勤職員の補充が追い付かず厳しい状況が続き、人材紹介、人材派遣等の活用、変則勤務が可能な非常勤職員の採用を順次

進めました。

女性職員の欠員をカバーするために8月～12月と3月に朝夕の介助にソーレ平塚地域支援センター及びあけぼの園より職員を派遣してもらいました。また、365日夜間にも看護師が勤務している体制をとるために夜勤専従看護師を新たに4名採用し、夜間における吸引や体調管理等の対応できるように努めました。

(4) 短期入所者への対応

Ⅱ. 短期入所事業「ソーレ平塚」(P10)を参照。

2 運営課題に対する評価

(1) 安全で安心な生活空間

手洗い、消毒、うがい、マスク着用、3密の回避等の標準予防策を念頭に置き、利用者が日々安心して生活できるように努めました。家族との面会、趣味活動や外出等は一部制限を設けながら実施しました。

また、体調不良から通院、入院に繋がりがやすいケースが多く、高齢化や障がいの重度化に伴う影響が顕著に表れました。そのため、退院後の体調管理を始め、日常生活動作の見直しや食事面、居室環境等の必要な改善に努めました。医療面においては、痰の吸引を要する利用者が増えたため、吸引機を個人で購入してもらったり、や夜間専従看護師と連携しながら昼間だけではなく夜間も体調管理ができる体制にしました。

(2) 感染対策の取り組み

新型コロナウイルス感染防止対策会議においては、周辺地域や施設内の感染状況の共有、まん延防止等重点措置および緊急事態宣言時の対応について、適宜検討しました。また、利用者への速やかなワクチン接種に向けて、接種券の集約と接種医の調整等を行い、希望者すべての3回目接種が3月に完了しました。職員は、自治体の職域接種や近隣のクリニックを通じて、希望者の接種が完了しました。

その他、県によるPCR検査の実施や職員向けの意識調査「新型コロナウイルス感染者の対応に関するアンケート」を実施し、業務継続計画の作成など、感染対策に向けた取り組みを順次行いました。

(3) 事故防止の取り組み

3月31日現在の事故延べ件数は95件(昨年度比16件減)でした。事故の内訳は、転倒25件、服薬17件、転落11件、介助11件、食事1件、伝達ミス3件、医療5件、破損8件、その他14件でした。特に誤薬事故については、命にかかわることなので再発防止策を検討し、職員間で薬袋の二重確認(ダブルチェック)を徹底して行うように改めました。また、骨折事故が5件発生し、加齢に伴う骨粗鬆

症もあるため、より安全な介助方法の見直しや居室内の環境整備に努めました。

ヒヤリハットの取り組みにおいては、案件発生時に業務日誌へ直接入力し、情報共有のスピードアップを図ることで、事故防止につなげました。

(4) リハビリテーションの実施

リハビリ実施計画書に基づき、週5日セラピストを配置し、継続的にリハビリ機会を提供することができました。加齢や骨折による身体機能の低下や退院後の身体状況の変化など、適宜セラピストの評価を受けて、介助方法の見直しを図りました。また、新型コロナウイルスの影響により、部署間でリハビリ実施日や実施場所、タイムスケジュール等の見直しを行い、施設内の感染予防に努めました。

(5) 健康管理の取り組み

年々加齢に伴う心身の変化がうかがえます。良い健康状態を保つためには、栄養・睡眠・排泄など安定した体調管理とともに、感染症などの疾患の予防、罹患時の早期発見・早期対応による重症化の予防、転倒等による外傷の防止に努めました。感染予防対策や事故防止対策については、職員間で共通認識を持ち、継続して衛生管理・環境整備を行うよう努力しましたが、まだ課題も多く残されています。

新型コロナウイルス感染予防対策に伴う生活様式の変化については、心身へのストレスを考慮し、利用者への言葉かけや傾聴など日常的なコミュニケーションを大切にしながら、優しく寄り添い、居心地の良い雰囲気作りを心がけました。今後もその人にとっての健康とは何かを一緒に考え、楽しく達成できる健康管理を支援します。

(6) 楽しい食事提供

今年度もコロナ禍の状況で、気軽に外出が出来ない事で、より身近な食事について話題にする利用者が沢山見受けられ、メニューをととても楽しみにしている様子が見られました。季節が感じられる食材を取り入れた旬彩の日やスペシャルランチデイにも力を注いで提供しました。下半期の旬彩の日にはネギトロ丼を提供しました。また、スペシャルランチデイは、海鮮丼やピザトーストを提供し、普段と違う食事に利用者も大変喜ばれていました。また、行事も秋麗祭やクリスマス、正月とあり、通常とは違う特別なメニューをととても喜んでいただきました。

(7) 災害対策の強化

新型コロナウイルスの影響により、利用者の訓練参加は自粛しましたが、6月に水害想定避難訓練、8月に夜間想定避難訓練と救急搬送訓練、3月に地震想定訓練を実施しました。水害想定訓練では、避難方法の確認と緊急時の連絡ツール「マチコミアプリ」の使用の確認を行いました。夜間想定訓練では、宿直勤務者も参加し、消防隊や救急隊の誘導、場面に応じた職員間の動きの確認を行い

ました。地震想定訓練では、防災マニュアルを通じて、避難方法や避難経路、地震発生後の役割分担等を職員間で確認しました。また台風接近時は、役職者、防火管理委員が中心となって、台風情報の周知、災害対策の事前準備と確認を行い、7月の梅雨前線停滞による大雨の際には、1階の利用者は3階に避難しました。12月には防犯研修を行い、施設内の防犯対策について見直しました。

(8) やりがいの持てる職場づくり

新型コロナウイルスの影響により、外部研修については、原則参加は控え、必要な研修においては、十分な感染予防対策に努めた上で参加しました。研修機会が制限されている現状においては、オンラインによる研修参加も選択肢の一つとして学びの機会を確保していく必要がありますが、職員体制が安定せず、研修派遣の調整も困難な状況となりましたが、職員行動指針の実践や人事考課、ストレスチェック等施設内部での取り組みを中心に働きやすい職場環境づくりに努めました。

3 事業内容

(1) 生活支援

①個別支援

- a. 利用者と担当者が十分な話し合いを行い、年間の目標、課題を達成するための個別支援計画を立案、実施しました。支援目標は、それぞれの項目に評価期間を設定して、カンファレンスを行い、目標課題の評価を行いました。必要があれば再評価期間を設定しました。
- b. 課題の設定及び評価の際には、必要に応じてリハビリ実施計画（生活支援評価表）を活用し、専門職の意見または評価を取り入れながら検証を行いました。また、可能な限り当事者も参加し、グループ会議を中心に意見交換を行っています。利用者本人の希望や意見等は必ず取り入れ、個別支援計画が利用者自身のものとなるよう取り組みました。
- c. 利用者の健康管理と安全な生活を確保する上で止むを得ず身体拘束にあたる行為をする際には、記録に残しその状況を適宜カンファレンスにて見直し、不必要に身体拘束が行われないよう取り組みました。

②健康管理

- a. 利用者の健康管理については、個々の生育歴、障がいと病歴、家族背景、年齢、服薬状況、生活習慣などによる個別性を考慮し、生活支援員、各セラピスト、看護師、医師（整形外科、精神科、歯科）が連携しました。また専門科への通院継続が必要な利用者は、担当医との連携を図りましたが、状態に応じて専門的な科目への診療が必要な場合は、地域の医療機関へ通院しました

今年度の入院者は、延べ12名でした。誤嚥性肺炎を含む呼吸器感染症5名、尿路感染症4名、低カリウム血症1名、消化管出血1名、左大腿骨転子部骨折1名でした。COPD（慢性閉塞性肺疾患）の悪化による呼吸状態の悪化、難治性てんかんの方が呼吸状態の悪化により施設生活が困難となり、2名の方が療養型病院へ転院しました。急な症状の悪化で緊急通院を要する方もいましたが、新型コロナウイルスの影響から入院の受け入れが困難な場合が多く、救急搬送後に施設へ戻る方もおり、看護師が対応しました。

また、転倒による骨折が2件、介助中に生じたと思われる骨折が4件あり、骨折には至らないものの外傷による整形外科受診も多くなり、通院が増加しました。

新型コロナウイルス感染予防対策の実施により、上気道感染の減少に繋がっていると考えられ、風邪などの集団感染は発生していません。利用者への新型コロナウイルスワクチン予防接種については、「ありがとうみんなファミリークリニック平塚」に依頼し、希望した利用者49名に6月から8月にかけて1・2回目を行い、2月から3月にかけて3回目を行いました。

9月に利用者47名の胸部レントゲン撮影を行いました。歯科健診は、10月に1階居住者22名、11月に2階居住者21名を行い、個別の往診や受診に繋がりました。12月には、インフルエンザ予防接種を居住者49名・職員57名が行いました。

- b. 加齢や障がいの進行による変化に対しては、日々の体調安定を図るとともに、疾患の早期発見・早期対応、重症化の予防に努めました。食事や排泄などの生活に関わる医療的ケアについては、生活支援員と看護師が協働で取り組みました。検査データや体重の変動などの情報を共有し、摂食の見直しや補助食の導入について働きかけを行いました。

医療的ケアの提供については、安全に行えるよう配慮しました。新たに喀痰吸引等医療的ケア研修、第2号実地研修と第3号研修を各1名行いました。

- c. 利用者が自分の健康管理に関心を持ち、楽しく体調管理に取り組める具体的な方法を提案し、やりたいことの実現や参加に向けて体調維持、感染予防、事故防止対策等を行いました。感染予防対策の強化に伴う心身のストレスに配慮して、必要な生活支援と環境整備を利用者の立場に立って行いました。日々の生活の安心と安全を第一に、優しさや思いやりを感じられるよう、生活支援員・看護師は所作や言葉使いに気を配り、利用者にも目を向けた支援を行いました。

- d. 「杉山デンタルクリニック」には、往診による口腔ケア、通院による治療の協力を得ました。口腔内の衛生を保ち、適切なケアを継続することは誤嚥性肺炎等の予防のほか、安定した食事摂取に繋がりを、健康維持に欠かせない支援です。「お

しげ皮膚科クリニック」には、必要時の通院のほか、ネット再診にて継続的な診療の協力を得ました。「ありがとうみんなファミリークリニック平塚」には、発熱、腹痛、検査データの異常など臨時通院の協力を得ました。「かとう腎・泌尿器科クリニック」には、定期的なカテーテル交換、慢性腎臓病のフォローなどで通院の協力を得ました。てんかん発作の症状が安定しない利用者に対して、「田中神経クリニック」主治医による電話診療で、きめ細やかな対応をしてもらいました。また、専門科として「としクリニック」「もりた眼科クリニック」「まきの耳鼻咽喉科クリニック」「久保田整形外科医院」にも通院の協力を得ました。

③栄養管理

今年度、新たな試みとして栄養強化食を導入しました。最近の傾向として、高齢化やコロナ過のストレス等で消化吸収の悪い方が増え、著しい体重減少や体調不良者が出ました。そのため、少量で栄養価が高く、誤嚥のリスクが少ない食事が必要となり、利用者及び家族に必要性を説明し、栄養補助食品や誤嚥のリスクを軽減した栄養強化食を3名に提供しました。提供後からは、誤嚥のリスク軽減が見られ、症状が改善されました。今後も対象者は増加すると思われ、栄養改善に向けた緊急対応策として継続していきます。

④アクティビティ活動

a. クラブ活動

新型コロナウイルスの影響により、活動に携わっているボランティアの受け入れを自粛し、一部活動を休止しました。書道とパソコン活動については、職員対応にて実施しました。

b. 趣味活動

新型コロナウイルスの影響により、集団での活動は、極力避けていましたが、感染予防対策を十分取りながら、映画、調理活動などを実施しました。

c. 外出

新型コロナウイルスの影響により、人混みの多い外出先は一定の制限を設け、日用品等の買い物で利用する近隣の店舗のみ外出可能としました。

d. 喫茶アモーレ

新型コロナウイルスの影響により、営業を休止しました。

⑤行事

新型コロナウイルスの影響により、多くの行事が中止となりました。

4 苦情解決・権利擁護

(1) 職員の行動指針である「愛の12か条」をもとに、各グループで振り返り、日々の

支援で意識できるよう取り組みました。また、2月に職員対象の虐待防止セルフチェックを実施し、日頃の支援を振り返る機会としました。

- (2) 今年度、職員対応に関する苦情受付が2件ありました。
- (3) 人権擁護委員会は、施設長、生活支援課長（サービス管理責任者）、主任、副主任、看護師、管理栄養士、事務員を構成メンバーとして、月1回開催し、身体拘束の必要性の可否や拘束廃止に向けた取り組みのチェック、虐待防止や権利擁護に関する情報の共有を行いました。

5 防災・防犯訓練

防災・防犯訓練については、計6回実施しました。また、消防設備点検（業者）は、
9月に実施しました。 (P15表1-15)を参照。

6 事故報告

(1) 骨折事故

①件名：左足第5趾付け根付近の骨折

日時：令和3年8月5日（木）11:30頃

利用者：73歳女性（支給市町村：藤沢市）

概要：左足に痛みの訴えあり、患部を確認したところ内出血も見られたため、整形外科を受診し、レントゲン撮影の結果、上記の診断を受けました。

原因：明確な原因は不明ですが、ベッドから車椅子に移乗する際に使用する簡易リフターに患部をぶつけてしまったためと推測します。

対策：リフター使用時は2名体制で行うようにしました。

②件名：右足中足骨骨折

日時：令和3年8月8日（火）20:00頃

利用者：64歳男性（支給市町村：大磯町）

概要：居室にて車椅子から転倒しました。右足土踏まず付近の内出血、熱感と腫脹もあったため、整形外科を受診し、レントゲン撮影の結果、上記の診断を受けました。

原因：吸引の拒否が強く、慌てて居室を出ていこうとしたため、バランスを崩し、転倒に至りました。

対策：吸引は、ベッド上にて2名体制で行うようにしました。

③件名：左大腿骨転子部骨折

日時：令和3年9月18日（土）12:15頃

利用者：73歳男性（支給市町村：藤沢市）

概要：居室内で転倒しているところを職員が発見しました。左足の痛みの訴えが強く、大腿部に熱感もあるため、救急外来を受診し、レントゲン撮影の結果、上記診断を受けました。手術を要するため、入院となりました。

原因：居室内で何らかの動作時に転倒しました。

対策：退院後は、車椅子を使用し、移乗する際は、介助にて行うようにしました。

④件名：右足関節内踝骨折

日時：令和3年9月20日（月）6:00頃

利用者：40歳女性（支給市町村：平塚市）

概要：右足甲の痛みの訴えと内出血も見られたため、整形外科を受診し、レントゲン撮影の結果、上記の診断を受けました。

原因：ベッドから車椅子の移乗時に、職員1名で介助したことにより、患部に負荷がかかったため。

対策：移乗時は2名体制を徹底しました。

⑤件名：右脛骨近位端骨折

日時：令和3年11月17日（水）6:00頃

利用者：73歳男性（支給市町村：平塚市）

概要：居室内の窓付近で車椅子から転倒しているところを職員が発見しました。右膝に痛みがあるため、救急外来を受診し、レントゲン撮影の結果、上記診断を受けました。

原因：明確な原因は不明ですが、居室内のカーテンをまとめる際に無理な体勢となって転倒したのではないかと推測します。

対策：カーテンの開閉は職員で行うようにしました。

7 安全衛生

今年度も職員対象の健康診断やストレスチェックを例年通り実施しました。診断結果は、産業医に確認してもらい、適宜、面談の機会を設けました。

高齢化や障害の進行に伴い、各居住者の介助度が増加していますが、無理な介助は行わず、職員がリフターやスライドボードなどの介助機器を活用し、腰痛予防に努めました。

今年度は、疾病により職員2名が休職しました。

8 工事

《工事内容》 自動水栓の整備（館内17カ所）

《業者選定》 業者2社と見積もり合わせし、選定した

《選定業者》 アイエンタープライズ
《工事期間》 令和3年11月5日～12月24日
《工事費用》 総額：997,000円
内訳：997,000円『公益財団法人 JKA』による競輪補助事業「2021年度緊急的な対応を必要とする事業（新型コロナウイルス感染症の拡大防止策）」

9 その他

(1) 横浜保護観察所の社会貢献活動参加者の受け入れ

新型コロナウイルスの影響により、今年度は中止となりました。

(2) ボランティアの受け入れと地域交流の充実

新型コロナウイルスの影響により、ボランティアの受け入れは自粛し、地域交流行事の多くは中止としました。

(3) 広報活動

例年、市役所展示即売会やカップ祭りへ作品を出展していますが、いずれも新型コロナウイルスの影響により、中止となりました。

(4) 外部会議等

新型コロナウイルスの影響により、多くの外部会議が中止となりました。重心および医療的ケアを必要とする方の支援ネットワーク会議については、ZOOMアプリを利用したテレビ会議が開催され、参加しました。

Ⅱ. 短期入所事業『ソーレ平塚』

利用者の状況

(1) 安定した良質なサービスの提供

今年度の契約者は、男性 59 名、女性 56 名、合計 115 名でした。女性の短期入所を 2 月より再開し、その際に長らく利用のなかった方の状況確認をしたところ、解約した方が出たため、契約者が昨年度より大きく減少しました。

男女ともに新型コロナウイルスの感染リスクを心配して利用する方は多くありませんでしたが、在宅に戻れない方の長期受け入れが 1 件ありました。この方については、相談支援事業所と連携し、無事施設入所できるまで短期入所を提供することができました。

ベッドの稼働率は、昨年度に比べて 4.4%増の 26.5%でした。緊急事態宣言等は解除されましたが、利用自体を控える方が多かったためほぼ横ばいとなっています。利用実績は、実利用者 25 名、延べ件数 140 件、延べ日数 581 日となっています。(P19 表 3-1～3-5) を参照。

(2) 関係機関との調整

新規の相談は、12 件ありました。そのうち医療ケアの相談が 3 件、行動障害の相談が 1 件あり、「あんしんネット」として話を進め受け入れの調整をしました。両親が新型コロナウイルス陽性となった利用者の受け入れや、家族で陽性者が出た時の受け入れの相談など、昨年度に続き新型コロナウイルスに関する相談がありました。関係機関や相談事業所と情報を共有し対応しました。

(3) 障害福祉サービス等地域拠点事業（湘南西部あんしんネット事業）の実施

契約者数は、平塚 13 名、伊勢原 2 名、秦野 5 名、大磯 1 名、二宮 2 名の合計 23 名が登録していますが、実利用者数は、昨年度より 2 名増の 13 名、延べ日数は、昨年度より 36 日増の 245 日でした。「あんしんネット」の方は他のレスパイト先が少ないため、昨年度より感染状況が落ち着き利用を再開始めている傾向にあります。

本事業は、神奈川県と平塚市、伊勢原市、秦野市、大磯町、二宮町、中井町と連携した事業であり、医療的ケアや行動障害の利用者が、自宅の近くで短期入所事業を受けることができる貴重なサービスとなっています。今後の事業の継続性については、地域生活支援拠点等の整備と並行して検討する予定です。

関係資料

1. 利用者の状況

令和4年3月31日現在

[表1-1]月別、入退所状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
初日在籍	49	49	49	48	48	48	49	49	49	49	50	50
入所	0	0	0	0	0	2	0	0	0	1	0	0
退所	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
月末在籍	49	49	48	48	48	49	49	49	49	50	50	50

令和4年3月31日現在

[表1-2]機関別、利用者数

	湘南西部保健福祉圏域					湘南東部			横須賀・三浦			県央			県西	他	合計
	平塚	秦野	伊勢原	大磯	二宮	藤沢	茅ヶ崎	寒川	横須賀	三浦	葉山	清川	綾瀬	厚木	真鶴	川崎	
男性	15	2	0	2	1	2	1	1	2	1	0	1	0	0	1	0	29
女性	8	2	0	0	1	3	1	0	1	0	1	0	2	1	0	1	21
合計	23	4	0	2	2	5	2	1	3	1	1	1	2	1	1	1	50

令和4年3月31日現在

[表1-3]入退所の経路

	[入所]								[退所]							
	27年度	28年度	29年度	30年度	1年度	2年度	3年度	合計	27年度	28年度	29年度	30年度	1年度	2年度	3年度	合計
学校	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
在宅 無職	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
在宅 作業所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
在宅 就労	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
在宅 通所施設	2	0	0	1	2	2	2	9	0	0	0	0	0	0	0	0
入所施設	0	0	0	0	0	4	1	5	1	0	0	0	0	0	0	1
病院	2	1	0	0	0	0	0	3	1	2	0	1	2	5	2	13
その他	0	1	0	0	0	0	0	1	2	0	0	1	1	1	0	5
合計	4	2	0	1	2	6	3	18	4	2	0	2	4	6	2	20

[表1-4]障害別、等級別、利用者数

令和4年3月31日現在

	脳性まひ	脳血管障害	頭部外傷	頸髄・脊髄損傷	脊髄小脳変性症	多発性硬化症	てんかん	その他	合計
男性	10	5	6	3	1	0	0	4	29
女性	15	1	1	2	0	1	1	0	21
合計	25	6	7	5	1	1	1	4	50

令和4年3月31日現在

	1級	2級	3級	合計
男性	21	7	1	29
女性	16	4	1	21
合計	37	11	2	50

[表1-5]男女別、年齢表

令和4年3月31日現在

	~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~64	65~69	70~	合計
男性	3	2	1	3	4	5	5	6	29
女性	0	2	1	2	4	1	2	9	21
合計	3	4	2	5	8	6	7	15	50
平均年齢					男性 54歳	女性 60歳	全体 57歳		
最高齢					82歳	最年少		18歳	

[表1-6]障害支援区分

令和4年3月31日現在

	1	2	3	4	5	6	合計
男性	0	0	1	1	3	24	29
女性	0	0	0	0	4	17	21
合計	0	0	1	1	7	31	50

[表1-7]

令和4年3月31日現在

	起座			立ち上がり			着脱衣			整容動作			歩行			車椅子使用			
	自立	一部介助	全部介助	自立	一部介助	全部介助	自立	一部介助	全部介助	自立	一部介助	全部介助	自立	一部介助	全部介助	自立	一部介助	全部介助	使用無
男性	4	4	21	3	7	19	2	8	19	5	9	15	0	4	25	12	7	10	0
女性	2	5	14	1	6	14	1	9	11	5	4	12	0	0	21	10	3	8	0
合計	6	9	35	4	13	33	3	17	30	10	13	27	0	4	46	22	10	18	0
	食事				入浴			寝返り				おむつ使用			排泄				
	自立	一部介助	全部介助	胃ろう	自立	一部介助	全部介助	自立	一部介助	全部介助	体交	自立	一時使用	常時使用	自立	一部介助	全部介助	導尿等	摘便等
男性	12	9	7	2	2	4	23	12	4	13	8	10	1	18	2	5	22	2	7
女性	6	8	7	0	0	5	16	5	3	13	8	3	4	14	0	6	15	2	4
合計	18	17	14	2	2	9	39	17	7	26	16	13	5	32	2	11	37	4	11

※寝返り、排泄については、重複あり。

[表1-8]病院別、通院状況

令和4年3月31日現在

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平塚市民病院	7	6	5	7	7	5	2	5	3	2	4	1	54
平塚共済病院	8	2	2	7	2	7	3	3	4	2	2	6	48
東海大学伊勢原病院	5	4	8	2	1	4	2	3	4	3	2	2	40
東海大学大磯病院	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2
かとう腎・泌尿器科クリニック	0	0	0	0	1	4	4	7	7	4	4	6	37
ありがとうファミリークリニック平塚	1	0	0	12	2	5	3	1	0	3	0	4	31
おしげ皮フ科クリニック	7	11	13	16	9	16	12	12	15	18	16	3	148
杉山デンタルクリニック	4	4	12	4	4	2	7	11	8	4	4	2	66
まきの耳鼻科クリニック	4	3	3	3	5	6	4	4	6	3	0	2	43
もりた眼科クリニック	2	1	3	3	3	3	1	1	3	1	2	1	24
神奈川リハビリテーション病院	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2
静岡てんかんセンター	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
久保田整形外科医院	0	0	1	0	4	3	2	5	3	2	0	2	22
内田クリニック	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3
ごてん整形外科	0	0	0	0	2	3	2	0	0	0	0	0	7
田中神経クリニック	0	2	0	0	1	1	6	1	1	1	1	0	14
藤多パークサイドクリニック	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
平塚病院	1	1	1	2	1	1	0	0	1	0	1	0	9
芳賀デンタルクリニック	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2
しまだ眼科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
としクリニック	0	0	0	0	0	0	1	2	1	0	0	0	4
休日診療	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2
合計	42	35	50	57	43	60	50	56	57	45	36	32	563

※1回の通院で複数の科の受診あり。

[表1-9]医務室診察状況(嘱託医、協力医)

令和4年3月31日現在

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
三木医師(管理医)	48	49	45	46	48	49	50	48	50	48	51	48	580
柴崎医師(精神科)	5	5	6	6	6	5	9	8	5	5	0	6	66
渡辺医師(精神科)	6	6	6	6	6	7	7	7	7	7	7	7	79
杉山医師(歯科)	7	6	4	4	6	6	22	21	6	6	0	0	88
合計	66	66	61	62	66	67	88	84	68	66	58	61	813

[表1-10]

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	9	3	6	17	4	7	6	6	4	4	1	9	76
神経内科	7	5	2	3	1	3	8	2	2	4	2	3	42
外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
整形外科	1	0	1	0	6	6	5	7	6	3	2	3	40
歯科	4	5	12	4	4	2	7	12	8	4	4	2	68
皮膚科	8	11	13	17	10	17	12	13	15	19	16	4	155
耳鼻科	4	3	3	3	5	6	4	4	6	3	0	2	43
眼科	2	1	3	3	3	3	2	1	3	1	2	2	26
泌尿器科	3	2	1	3	2	6	5	9	7	5	4	6	53
小児科	0	1	2	0	1	2	1	0	3	2	2	0	14
脳外科	1	0	1	0	0	1	0	0	1	0	1	0	5
精神科	1	1	1	2	1	1	0	0	1	0	1	0	9
リハ科	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
婦人科	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2
救急外来	3	2	1	4	0	3	0	1	0	1	2	1	18
形成外科	1	1	5	2	6	3	1	1	0	0	0	0	20
合計	44	35	51	58	43	61	51	57	57	46	37	32	572

[表1-11]入院状況、入院理由

病院名	年間	
	延べ人数	延べ日数
平塚市民病院	4	63
平塚共済病院	7	62
東海大学伊勢原病院	1	18
小計	12	143

	氏名	性	病院	診療科	病名	入院期間
1	K.I	男	平塚市民病院	消化器内科	尿路感染症	(3/24) ~ 4/8 8日間
2	O.S	男	平塚市民病院	消化器内科	肺炎・気胸	4/8 ~ 4/15 8日間
3	K.N	男	平塚共済病院	泌尿器科	尿路感染症	4/23 ~ 4/28 6日間
4	K.A	女	平塚市民病院	内科	誤嚥性肺炎	4/26 ~ 5/7 12日間
5	K.A	女	平塚市民病院	内科	誤嚥性肺炎	5/27 ~ 6/30 35日間
6	M.J	女	平塚共済病院	内科	誤嚥性肺炎	7/15 ~ 7/22 8日間
7	H.N	男	平塚共済病院	内科	低カリウム血症	7/17 ~ 7/21 5日間
8	M.W	男	平塚共済病院	内科	吐血	7/25 ~ 7/29 5日間
9	K.N	男	平塚共済病院	整形外科	右大腿骨転子部骨折	9/18 ~ 10/4 17日間
10	U.S	男	東海大学伊勢原病院	泌尿器科	腎盂腎炎	1/10 ~ 1/28 18日間
11	K.I	男	平塚共済病院	泌尿器科	結石性腎盂腎炎	2/26 ~ 3/7 10日間
12	K.M	男	平塚共済病院	内科	誤嚥性肺炎	3/19 ~ 3/29 11日間

[表1-12]

活動種目	回数	ポラ	1回の参加者
書道教室	週1		3名
パソコン教室	週2		2名
卓上競技	—		—
映画	—		10名
陶芸教室	週1	3名	※1
華道・茶道教室	月1	3名	
七宝焼きクラブ	月1	1名	
車いすハッピーダンス	月1	10名	
コーロピアチェーレ(コーラス)	週1	1名	
ローリングバレーボールクラブ	週1		

※1 新型コロナウイルスの影響により、年度内は活動休止。

[表1-13]外出

外出手段	利用方法	利用者
単独外出	電動車いすでの外出(コンビニ、スーパー、農協等)	3名
介護タクシーの利用	日帰りでの観光、大型商業施設(買い物、食事等)	※2
職員の付き添い	近隣への散歩、買い物等 個別支援計画における外出 アクティビティ活動における外出等	10名
その他		※2

※2 新型コロナウイルスの影響により、年度内は遠方への外出自粛。

[表1-14]

	地域行事	施設行事
4月	春のてんそく(中止) 日枝神社例大祭(中止) 県陸上競技大会(不参加)	花見(近隣)
5月	Yes.愛do!(中止)	菖蒲湯 日帰り旅行①(中止) 1F懇談会(中止)
6月	金田小運動会(不参加) ローリングバレー神奈川交流大会(中止) 夏のてんそく(中止)	ソーレ杯卓上競技大会(中止) 2F懇談会(中止)
7月	湘南平塚七夕まつり(中止)	1F懇談会(中止)
8月	金田地区盆踊り(中止) カッパ祭り(中止) サンキッズ金田保育園納涼会(中止)	2F懇談会(中止)
9月	県ローリングバレー大会(中止) 精陽学園秋まつり(中止)	金田小4年生との交流(中止) 日帰り旅行②(中止) 1F懇談会(中止)
10月	赤い羽根共同募金 秋のてんそく(中止) 金田敬老福祉まつり(中止) 金田地区市民レクリエーション(中止) 社会福祉展(中止)	秋麗祭(施設内開催) 2F懇談会(中止)
11月	身障協ステージ発表(中止) 身障協卓上競技大会(中止)	インフルエンザ予防接種 金田小4年生との交流(中止) ソーレ杯卓上競技大会②(中止) 1F懇談会(中止)
12月	冬のてんそく(中止)	茶道クリスマス会(中止) クリスマス会 ゆず湯 サンキッズ保育園交流会(中止) 第三者委員との相談会(中止) 餅つき(中止) 2F懇談会(中止) アモーレイベント(中止)
1月	日枝神社歳旦祭(中止) どんど焼き(不参加) 金田公民館新春の集い(中止)	お屠蘇アモーレ(中止) 初詣外出(日枝神社) 家族懇談会(中止) 日帰り旅行③(中止) 1F懇談会(中止)
2月	身障協作品展(中止) 金田公民館まつり(中止)	節分豆まき 2F懇談会(中止)
3月	ローリングバレーぱっする杯(中止)	第三者委員との相談会(中止) ボランティア懇談会(中止)

[表1-15] 防災訓練

実施日	内容
4月19日	消防設備説明および消火訓練(新採用職員等を対象に河本防災より指導)
5月24日	防災設備点検、防災倉庫の整理整頓、防災備品チェック
6月21日	水害想定避難訓練
8月16日	夜間想定避難訓練(火災)および夜間救急搬送訓練 ※宿直者参加
12月6日	防犯研修 ※宿直者参加
3月7日	地震想定避難訓練

[表1-16]

	選択食	行事食
4月	豚カツorアジフライ	【旬彩の日】しらす丼 季節の野菜の天ぷら
5月	親子丼orハヤシライス	【スペシャルランチデイ】サイコロステーキ他
6月	鶏のハーブ焼きor鶏の生姜焼き	【旬彩の日】季節の天井(夏野菜と鱈)
7月	豚肉と夏野菜の味噌炒めor白身魚の南蛮漬け	【スペシャルランチデイ】鰻丼
8月	焼き餃子orチンジャオロースー	【旬彩の日】ひつまぶし
9月	豆腐ハンバーグor鶏と卵の甘辛煮	【旬彩の日】栗ご飯 カラス蝶の唐揚げ他
10月		【秋麗祭】 鯛めし 牛ヒレソテー 茶碗蒸し ケーキ
11月	カツ丼or牛丼	【スペシャルランチデイ】海鮮丼他
12月		【クリスマス会】 12/24夕食開催 メイン選択(ハンバーグorローストチキン) (オードブル5種) テリーヌ、ローストビーフ キッシュ、パイ包み、カルパッチョ ソフトパン、パンプキンスープ ケーキ 12/19~25 【クリスマスお楽しみ週間】
1月	ロールキャベツ(トマト味)or鶏クリーム煮	1/1~3 【正月料理】 おせち料理、赤飯、刺身の盛り合わせ
2月	メンチカツorクリームコロッケ	【節分】福ご飯(大豆入り) つみれ大根 【旬菜の日】鯖やまかけ丼
3月	豚の生姜焼きor牛肉と大根の煮物	【スペシャルランチデイ】チーズバーガー ゴブサラダ

[表1-17]食事形態

令和4年3月31日現在

	形態		摂取量	男	女	合計
	常食	そのまま	ご飯	通常 1600kcal	4	2
一口大			通常 1600kcal	4	1	5
一口大		ご飯	制限 1400kcal	1	1	2
		小計			9	4
軟菜食	一口大	ご飯	通常 1600kcal	2	1	3
			通常 1400kcal		1	1
			油脂制限食 1600kcal	1		1
			付加 1800kcal	1		1
	お粥	通常 1600kcal	2	1	3	
		通常 1400kcal	1	2	3	
		油脂制限食	2		2	
		塩分制限1400kcal		1	1	
小計			9	6	15	
ミキサー	中間食	ご飯	通常 1600kcal	1		1
			付加 1800kcal	1		1
		お粥	通常 1600kcal	3	4	7
			制限 1400kcal		2	2
	小計			5	6	11
	ソフト	お粥	通常 1600kcal		1	1
			通常 1600kcal	1	2	3
		お粥ペースト	五分粥	半量	1	
通常 1600kcal					0	
ペースト	お粥ペースト	通常 1600kcal	2	2	4	
		通常 1600kcal				
小計			4	5	9	
経管栄養	胃ろうのみ			1		1
	ソフト		嚥下訓練食	※1		1
	小計			2		2
合計			29	21	50	

※1 普段は経管栄養(胃ろう)を行い、昼食のみ訓練食を提供。

2. 施設運営の状況

[表2-1]職員採用、退職職員(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

	法人内異動		採用				退職			
	転入	転出	常勤	準職員	パート	ハイク	常勤	準職員	パート	ハイク
施設長										
事務員										
管理栄養士										
サービス管理責任者										
生活支援員/介助員			5			2	2			2
生活支援員(派遣)						2				4
看護師						3			1	4
看護師(派遣)						1				1
相談員										
医師(委託)										1
産業医(委託)										
理学療法士(委託)										
作業療法士(委託)										
臨床心理士(委託)										
言語聴覚士(委託)										
鍼灸マッサージ師(委託)										1
宿直、日直										
運転										
合計	0	0	5	0	0	8	2	0	1	13

[表2-2]施設内部研修会等

実施日	内容	講師	対象
4月1日	新採用職員オリエンテーション	施設長、本部課長	新採用職員
4月13日	全体職員会議(他26日、28日) ※リモート開催、ビデオ放映	施設長、センター長 各部署担当者	全職員
10月	摂食研修①(中止)	歯科医師	生活支援員、看護師、管理栄養士等
2月22日	摂食研修②	歯科医師	生活支援員、看護師、管理栄養士等
11月	リハビリ研修 ※各グループ会議内にて動画研修	理学療法士	生活支援員
12月6日	リハビリ講習	理学療法士	新採用職員

[表2-3]外部研修

実施日	内容	場所	出席者
6月23日	サービス管理責任者更新研修	平塚商工会議所	施設長
8月4日	サービス管理責任者基礎研修	ZOOM開催	渡部
10月7日	全国身体障害者施設協議会研究大会(他8日)(中止)	ヒルトン福岡シーホーク	
10月8日～10月25日	相談支援従事者現任研修①	eラーニング開催(映像配信)	小原・渡部・勝山
11月7日	摂食研修	ウイリング横浜	水野
11月22日	相談支援従事者現任研修②～④(他12/13、1/17)	ココテラス湘南	勝山
11月28日	喀痰吸引等基本研修(他12/11)	昭和大学	川本・武笠
11月29日	関東・甲信越地区身体障害者施設職員研修大会(他30日)(中止)	パレスホテル大宮	
11月30日	相談支援従事者現任研修②～④(他12/21、1/26)	小田原合同庁舎	小原・渡部
2月3日	強度行動障害支援者養成研修(他4日)	ZOOM開催	渡部
2月9日	感染症対応BCP策定に係る研修会	ZOOM開催	勝山

[表2-4] 外部会議、ケア会議など

実施日	内容	場所	出席者
4月15日	川崎市認定調査	ソーレ平塚	勝山
4月20日	平塚市障がい福祉課と打ち合わせ	ソーレ平塚	施設長・勝山
4月28日	秦野市認定調査	ソーレ平塚	勝山
6月15日	神奈川県企画政策委員会	ZOOM開催	施設長
6月17日	平塚市障がい者福祉ショップありがとう役員会	平塚市福祉会館	施設長
6月22日	関東・甲信越地区身障協役員会	ZOOM開催	施設長
6月26日	神奈川県障害福祉施設協議会総会	神奈川県社会福祉会館	施設長
7月2日	横須賀市認定調査	ソーレ平塚	勝山
7月5日	寒川町認定調査	ソーレ平塚	勝山
7月21日	厚木市認定調査	ソーレ平塚	勝山
7月28日	湘南西部障害保健福祉圏域自立支援協議会	ZOOM開催	小原
8月2日	移行先との面談	平塚十全病院	勝山
8月10日	当事者目線の障がい福祉の推進に係るヒアリング	足柄療護園	施設長
8月27日	関東・甲信越地区身障協役員会	ZOOM開催	施設長
9月10日	重症心身障害児者及び医療的ケアを必要とする方の支援ネットワーク	ZOOM開催	小原
10月8日	大磯町認定調査	ソーレ平塚	勝山
10月26日	平塚市認定調査	ソーレ平塚	勝山
11月5日	療育判定(総合療育相談センター職員来所)	ソーレ平塚	堀
11月10日	意思決定支援の聞き取り調査(神奈川県共生推進本部室職員来所)	ソーレ平塚	施設長・勝山
11月18日	関東・甲信越地区身障協役員会	ZOOM開催	施設長
12月17日	移行支援会議	平塚養護学校	勝山
12月29日	平塚市認定調査	ソーレ平塚	勝山
1月14日	重症心身障害児者及び医療的ケアを必要とする方の支援ネットワーク	ZOOM開催	小原
1月25日	藤沢市認定調査	ソーレ平塚	小原
2月16日	湘南西部障害保健福祉圏域自立支援協議会	ZOOM開催	小原
2月24日	あんしんネット支援協議会	書面会議	小原

[表2-5]見学、交流、一般開放など

9月21日	入所希望見学	ソーレ平塚	勝山
10月4日	入所希望見学	ソーレ平塚	勝山
11月10日	入所希望見学	ソーレ平塚	勝山
11月18日	入所希望見学	ソーレ平塚	勝山
3月23日	入所希望見学	ソーレ平塚	勝山

[表2-6]実習生の受け入れ

【新型コロナウイルスの影響により、実績なし】

3. 短期入所事業関係資料

令和4年3月31日現在

[表3-1]市町別、利用者延べ数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
湘南西部	平塚	50	31	32	35	18	42	51	47	36	12	10	12	376
	秦野	3	3	3	3	4	3	3	2		3	6	3	36
	伊勢原	10	13	17	15	11	9	14	15	16	9		3	132
	大磯													
	二宮	3	6	2	7	1	4	3	4	3				33
湘南東部	茅ヶ崎													
	寒川													
	藤沢													
県西	小田原													
横・三	中井													
	横須賀													
県央	厚木													
	綾瀬												4	4
	その他													
合計		66	53	54	60	34	58	71	68	55	24	16	22	581
稼働率(%)		37	28	30	32	18	32	38	38	30	13	9.5	12	26.5

令和4年3月31日現在

[表3-2]市町別、利用者件数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
湘南西部	平塚	9	7	6	9	5	4	7	6	9	5	3	3	73
	秦野	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	12
	伊勢原	3	4	5	5	4	3	4	4	5	3		1	41
	大磯													
	二宮	1	2	1	3	1	2	1	1	1				13
湘南東部	茅ヶ崎													
	寒川													
	藤沢													
県西	小田原													
横・三	中井													
	横須賀													
県央	厚木													
	綾瀬													
	横浜												1	1
合計		14	14	13	18	11	10	13	12	15	9	5	6	140

令和4年3月31日現在

[表3-3]入所理由・日数別、利用者数

	1日～5日	6日～10日	11日～15日	16日～20日	21日～25日	26日～31日	合計
入院・療養	85	0	0	0	0	0	85
冠婚葬祭	2	0	0	0	0	0	2
介護困難	6	2	2	0	1	3	14
外出	10	0	0	0	0	0	10
その他	29	0	0	0	0	0	29
合計	132	2	2	0	1	3	140

[表3-4]年度別、利用者数

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
件数	360	373	395	238	221	108	140
延べ人数(上)	696	696	704	381	417	209	325
延べ人数(下)	682	617	587	362	253	164	256
合計	1378	1313	1291	743	670	373	581

令和4年3月31日現在

[表3-5]市町村別、契約者数

	湘南西部					湘南東部			横須賀・三浦			県央			県西		県外	合計		
	平塚	秦野	伊勢原	大磯	二宮	藤沢	茅ヶ崎	寒川	横須賀	鎌倉	葉山	厚木	海老名	綾瀬	小田原	松田	中井		横浜	その他
男性	28	8	10	1	1	0	2	1	1	0	0	4	1	0	1	0	0	0	1	59
女性	25	7	5	0	3	0	2	0	0	1	1	5	1	0	2	0	0	1	2	55
合計	53	15	15	1	4	0	4	1	1	1	1	9	2	0	3	0	0	1	3	114

令和4年3月31日現在

[表3-6]男女別、障害支援区分

	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	不明※1	合計
男性	1	2	7	5	9	33	2	59
女性	1	2	9	3	13	27	0	55
合計	2	4	16	8	22	60	2	114

※1 障害支援区分に変更後の利用がない為、不明。

令和3年度
事業報告書

社会福祉法人 至泉会
ソーレ平塚地域支援センター

ソーレ平塚地域支援センター

1 概況

(1) 利用者の動向

ソーレ平塚ケアセンターは、令和3年4月1日付け43名の登録者で始まりました。今年度の解約者は通所先の変更と施設入所による3名でした。3月末日の登録者は、40名になり、延べ利用者数は、令和3年3月末日の4,753名から10名減り4,743名となり、出席率は89.3%でした。

一方、地域活動支援センターの延べ利用者数は、94名でした。祝日に定期利用される方が増えたため、利用者数は伸びました。【資料7】【資料12】

(2) 活動の展開

どの活動においても、達成感や向上心を感じてもらおうよう、利用者と一緒に目標を決め、自己選択の機会を増やし、時には活動の中心的役割を担ってもらうなどして実施しました。言語でのコミュニケーションが難しい利用者には、表情や手の動き、普段の様子などから本人の意思を汲み取るように取り組みました。

感染拡大防止対策で、各活動内容に制限をして3密の防止の対応が続いていますが、その中でも、各活動を通し笑顔で温かい気持ちで仲間と共に過ごせる居場所となるように努めてきました。例えばボッチャでは、活動場所における利用人数を決めて、密にならないように距離をとり、使用するボールはその都度消毒して実施を再開しました。運動をしたいという要望が多くあったため、実施方法を検討しながら体操やダンス、ストレッチを行う機会を徐々に増やしました。利用者同士で安心してコミュニケーションをとることができ、笑顔が多くみられる活動となっています。【資料8】

(3) デイサービスの役割

長期化する新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により、活動の制限、イベントの中止、地域の方との交流の中止など、さまざまな制限が当たり前の事となりつつありますが、地域で生活されている障がい者を支える為には、可能な限りの支援を継続しました。

利用者本人または家族の周辺で新型コロナウイルスの感染者が発生した場合は、状況を出来る限り詳細に把握し、必要に応じて個別対応での受け入れをしました。

また、外出機会が減り、自粛生活を続けることでのストレスが強くなっている家庭や家族での介護負担が増している利用者に対して、6月から10月にかけて月に1回程度、土日に入浴サービスを中心とした営業を実施しましたが、まん延防止等重点措置がとられている期間は実施を見送りました。

(4) 新型コロナウイルス感染拡大防止対策

新型コロナウイルス感染防止対策本部での協議に基づき、感染拡大防止対策を講じ、事業所内でクラスターが発生しない様に消毒や換気・検温・環境整備等の感染症対策を徹底して行いました。

職員の家族や関係者に感染を疑われる状況が発生した場合には、濃厚接触者に該当

しないことの確認が出来るまでは出勤を控え、水際での対策を徹底しました。

感染リスクを下げるために自主的に通所を欠席されている利用者に対しては、電話にて通所予定日に健康状態と生活の様子を確認を行い、通所再開に向けて出来る限りの支援を行いました。

(5) その他の課題

感染予防対策が長引いていることで、活動も単調になっています。少しでも充実した時間が持てるように活動の幅を広げられるように利用者の意見を聴きながら進めていく必要があります。

利用者の入れ替わり等により、今まで実施することの出来ていた活動への参加が少なくなり、活動全般を見直す時期にきています。これは、比較的障がい軽度な利用者の空き枠に、重度の方を積極的に受け入れてきたことによる影響が考えられます。今後も更に利用者の重度化が進んでいく事を想定し、障がい重度な方も軽度な方もそれぞれが楽しく過ごせる社会的居場所として、活動を工夫していきます。

2 職員研修・職員健康管理

(1) 人材育成に向けた研修体制の充実

1月以降に集合研修への参加を企画しましたが、まん延防止等重点措置と期間が重なってしまったため、オンラインで実施される研修を中心に参加をしました。

【資料5】

(2) 虐待防止委員会

毎月行われる運営会議の中で、各部署の虐待防止への取り組みの確認、身体拘束や行動制限の確認を行いました。

年2回実施した自己チェックリストから挙げた課題については、改善に向けグループ会議で検討し、センター会議の中で全体共有しました。

(3) 職員健康管理

9月にストレスチェックを行い、10月と3月に職員健康診断を行いました。安全衛生委員会と連携し、産業医からのアドバイス等も受けました。

3 防災・防犯・事故対策

(1) 4月に消防設備と消火訓練、7月に火災想定訓練ならびに消防通報訓練、2月に水害想定訓練を実施しました。

(2) 交通事故が、1件ありました。住宅街の路地を送迎中に停車中の工事車両を避けようとして、左バンパー及び左ヘッドライトが歩道の車止めポールに接触しましたが、幸いにもけが人はいませんでした。

(3) 事故報告は、1件でした。送迎中で、右側から来た車両を避けようとして急ブレーキを踏み、車いすを固定して乗車されていた利用者1名が前のめりになりました。通所後に腰の痛みを訴え、その日のうちに整形外科へ職員付き添いのもと通院しまし

たが、腰椎捻挫及び腰椎打撲と診断され、骨には異常なく、その後回復されました。

(4) 転倒報告は、5件でした。

1 件目はトイレへの誘導中につまずいてしまい、その場に座り込んでしまうことがありました。ゆっくりと座り込んだ為、けが等はありませんでした。

2 件目は通所から帰る時に、送迎車から降りた後、自宅玄関前にて膝折れがあり地面に座り込んでしまうことがありました。ゆっくり膝折れた為、けが等はありませんでした。

3 件目はリハビリ訓練後、訓練室から活動場所へ歩行にて移動中につまずき、ゆっくりと床に崩れ落ちることがありました。外傷や痛みの訴えはありませんでした。

4 件目はトイレにて立位時に、トイレの窓を閉めようとしてバランスを崩して座り込んでしまうことがありました。けが等はありませんでした。

5 件目は車椅子を足により自走中に、靴のつま先が引っかかってしまい、足が車椅子に巻き込まれるような状態で転倒がありました。けが等はありませんでした。

(5) 事故・ヒヤリハットが発生した場合は、当日中に職員間で発生した原因や課題を検討し、同じミスを発生させない様に情報共有をし、家族への報告や対応も当日中に対応するようにしました。

4 苦情解決

苦情の申し立てはありませんでしたが、コロナ関連での休業や自宅待機で通所が出来なくなってしまうことについて、利用者家族より「何とかならないか」との要望がありました。集団感染を発生させないための対応であることと利用者一人ひとりの健康を守るためであることや、国や県の指針、保健所の助言に基づいた対応であることを説明し、理解が得られるように努めました。

5 委員会・会議

(1) 運営会議

月1回 役職者により、課題の整理・検討、外部研修の調整、センター会議の内容の検討等を行いました。

(2) サービス推進会議

月1回 常勤により、課題の具体的な検討、新規利用者の受け入れの検討、行事の実施計画の打合せ等を行いました。

(3) センター会議

月1回 職員全体で個別支援計画及びモニタリングの検討、課題の検討、身体拘束の検討、研修報告等を行いました。

(4) グループ会議

月1回 個別支援計画及びモニタリングの検討、充実した支援を目指すため、活動グループごとに当月の活動の反省と翌月の予定の打合せ等を行いました。

(5) 虐待防止委員会

月1回 役職者により虐待防止に関する検討、課題の提示、身体拘束廃止の検討、自己チェックリストの実施と集計。チェックリストで挙げた課題を各種会議にて職員全体に周知し、課題の検討や改善に向けた取り組みを行いました。

(6) 幹部打ち合わせ

毎週月曜日の午前中、地域支援センターセンター長、ソーレ平塚施設長、生活支援課長、法人本部課長で週の予定、その他当面の懸案事項について協議しました。

(7) その他

ソーレ平塚と合同で行っている委員会と係は、感染拡大防止対策の一環でリモートにて会議を行いました（防火管理委員会、編集図書委員会、安全衛生委員会、食事・摂食委員会、販売係）。フロア連携会議は対面にて行いました。

ヒヤリハット委員会、リハビリ委員会、アクティビティ委員会はそれぞれの部署で課題が異なっている為、部署ごとで会議を行ないました。

新型コロナウイルスの感染予防対策の検討、情報交換の場として、「新型コロナウイルス感染防止対策本部」を週に1回、ソーレ平塚施設長を本部長として、ソーレ平塚、ソーレ平塚地域支援センター、法人本部、調理場の担当職員にて会議を開催しました。

(8) 外部会議等

平塚市障がい者自立支援協議会企画運営部会、身障分科会、YES、愛DO！実行委員会、湘南西部圏域重症心身障害児者及び医療的ケア支援ネットワーク会議（リモート）、湘南西部圏域相談支援ネットワーク会議（リモート）、県サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者基礎研修検討部会（リモート）、県サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者実践研修検討部会（リモート）に参加しました。【表 5-3】【表 13-3】

6 その他

(1) 工事

「浴室壁面修繕工事」

【業者】 (株)小島組

【工事期間】 令和3年8月7日～8月15日

【工事費用】 891,000円

(2) 寄付

「HONDA カセットボンベ式発電機 エネポ」

【寄付日】 令和4年3月18日

【寄付者】 利用者家族

I 生活介護事業『ソーレ平塚ケアセンター』

1 運営課題

(1) 活動の充実

- ① A グループ（知的障害・重度重複障害）では、コロナ禍でグループのメイン活動である音楽活動や外出が制限される状況は続いています。通所者に好評である散歩や年間を通して行ったカレンダー制作で、季節を感じられるような活動を展開しました。また、紙を丸める、画用紙をちぎる、色を塗る、紙を貼る、紙を容器に入れるなど、それぞれの得意な作業や好きな作業を発見し、取り組むことが出来ました。
 - ② B グループ（中途障害）では、利用者が中心となって、毎月の活動内容を決めています。密にならない様に工夫し感染症拡大防止に努めながらも、利用者が季節を感じられる壁面制作を自分達で考える活動を中心に展開しました。季節の花紙制作やすごろく作りを行い、作品を廊下に掲示するなどして他グループの人にも楽しんでもらうことが出来ました。【表 8-2】
 - ③ 陶芸を年間の全体活動として実施しています。制作工程のなかで、それぞれが出来てくることを行って、達成感を得られるように進めました。完成した作品は、クリスマスの時期に個々のプレゼントにし、市役所の福祉ショップにて作品を販売することが出来ました。
 - ④ 午後の活動は、個々のニーズにより即した活動を提供し、音楽活動、陶芸、ちぎり絵、花紙制作、ゴロ卓球、双六、散歩、ダンス等を行いました。個々のニーズに即した活動を提供しました。
 - ⑤ 七宝、コーラス、華茶道、陶芸、囲碁のアクティビティでは、ボランティアの講師は来所する事は出来ませんでした。職員で行える範囲で活動を実施しました。
 - ⑥ パソコン教室では、午後の活動のみに制限をして 3 密を避け、個別対応が出来る範囲で実施しました。
 - ⑦ 毎週月曜日に活動しているローリングバレーボールクラブ（ベルソーレ平塚）は、参加者が制限されている事や活動スペースにも制限がありますが、その中で楽しみながらボールの感触を確かめ、試合感覚を養いました。
 - ⑧ 小グループでの日帰り外出は、長時間の車移動や外出先での感染のリスクが高いことから、今年度も中止としました。外出機会の確保のために、日々の活動の中で近隣への散歩を多く取り入れました。
- #### (2) 専門職との連携とスーパーバイズの充実
- ① リハビリについては、整形外科の医師による診察のもと、リハビリ実施計画を作成しました。支援職員が中心となり、看護師、理学療法士、言語聴覚士、医師、鍼灸按摩マッサージ師等の専門分野からの意見を取り入れ、支援に活かしました。
 - ② 理学療法士と連携し、介助の困難な方への介助方法を検討し、職員間で介助方法

の統一を図りました。また、会議で報告し、チームアプローチによる支援の方向性を明確にしました。

- ③ リハビリのニーズが高まる中、理学療法士による個別のリハビリ時間を毎月設定し、1日7名程度の利用者に対しリハビリを提供しました。
- ④ 食事形態について、言語聴覚士に評価を依頼し、管理栄養士に相談しながら利用者に合わせたものを提供できるように取り組みました。
- ⑤ 複数のサービスを利用している方に関しては、しせん相談室ひらつか（相談支援事業所）と連携して他機関からの情報収集を行い、支援の統一を図り、サービスの向上に努めました。
- ⑥ 介護者の負担軽減や単身での生活が困難な方への対応としては、通所回数を増やし個別対応をした事で精神面の安定につながりました。

（3）個別支援計画

- ① サービス等利用計画と利用者の希望をもとに個別支援計画を作成し、日々の支援に活かしています。また、サービス管理責任者の指示のもと、各グループに1名の個別支援計画担当者を設け、サービス内容の確認を行い、適切なサービスの提供に努めました。記録ソフト「タスクウェア」内で作成できる個別支援計画及びモニタリングの書式に移行しました。
- ② 自己選択、自己決定の困難な利用者には、家族を含めた話し合いの中で、本人が望むもの、好きなことを探し実践しました。

（4）土日営業の検討と実施

自宅での入浴が困難で希望がある方に対して実施しました。感染者数拡大が著しい時期は、実施を見合わせた事もあり5日間の実施となりました。

（5）感染症対策

- ① 通所時の検温及び体調の確認については看護師が中心となり取り組みました。手指消毒に関しても各活動場所に消毒用ボトルを配置し手指消毒が出来る環境を整えています。
- ② 3密を避ける事を意識し活動を計画し取り組みました。
- ③ 共用場所の消毒を1日2回（午前・午後）に分けて消毒しました。洗面台に関しては1回利用毎に消毒を実施しました。
- ④ 飛沫による感染防止対策として、アクリル板を活用し食事の席が向かい合わせにならない様に配置を行いました。
- ⑤ 送迎車両内で密閉された空間にならない様に、換気を行い送迎を実施しました。

Ⅱ 平塚市地域活動支援センター事業『ソーレ平塚地域活動支援センター』

1 運営課題

(1) 利用者の受け入れ

月曜日と水曜日を中心に受け入れを実施しました。家族のニーズに合わせて、受け入れ時間や活動内容など柔軟に対応し、医療的ケアが必要な利用者には看護師を配置して対応しました。

(2) 活動の充実

重症心身障がい者の方の利用が多い為、マンツーマンでの支援が中心となり、活発な活動の提供では無くゆっくりと安全に過ごす様にしました。利用者のニーズによって過ごし方は多様になりますが、家族や本人の要望に合わせて取り組みました。

(3) 関係機関との連携

受け入れに当たっては、家族及び相談支援事業所からの依頼が主となっています。その為、相談支援事業所と連携を密に取り、家族のニーズに細やかに応えられる対応が求められます。

Ⅲ 平塚市障がい児者相談支援事業『しせん相談室ひらつか』

1 概況

今年度より記録ソフト「タスクウェア」を導入しました。これにより情報共有が迅速になり、業務の効率化につながりました。一方で、相談件数の自動集計の数字に誤差が生じるなどの課題もあり、業者と連携しながら、必要な修整を行いました。

今年度の相談件数は延べ 6,946 件でした。また、モニタリングを含むサービス等利用計画の作成件数は 812 件でした。

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、長期間に渡り緊急事態宣言が発令されましたが、対面での相談が必要なケースには、基本的な感染予防対策をとり、本人、家族の了解を得ながら支援を進めました。

虐待に関連するケースや退院後の居場所を早急に探さなければならないケース、外国籍で日本語での理解が難しく、コミュニケーションに時間を要すケース、介護保険の事業者やケアマネージャーと連携するケース等、支援内容は多岐に渡りました。【表 13-3】【表 14-1】

2 支援の状況

今年度の相談支援実績は、実人員 294 名、相談件数は延べ 6,946 件でした。そのうち、17 歳以下が 319 件、18 歳以上が 6,277 件、65 歳以上が 344 件、年齢不明が 6 件でした。新規相談者は 77 名で、新たにサービス等利用計画を作成した方は 12 名です。主な相談内容としては、就労先、利用出来るサービス内容、福祉用具、通所先、入所先、医療費等に関してでした。

相談者の割合は、医療・福祉関係者が約 42%、次いで本人が約 27%、家族が約 20%、行政との相談が約 11%で、医療・福祉関係者からの相談が多くを占める傾向に変わりはありませんでした。内容は、利用調整が 39%、次いで保健・医療・健康管理関係が 11%、福祉サービスの問い合わせが 8%でした。

今年度の相談内容の特徴としては、新型コロナウイルス感染症の影響により、今まで問題なく利用出来ていたサービスが突然利用出来なくなることにより不安になる相談や、平塚市内にグループホームが開所し、市外からの入居希望による計画作成の依頼の相談がありました。

【表 14-1】【表 14-3】【表 14-5-1】【表 14-5-2】

3 運営課題

(1) 相談員の質の確保と向上

始業時と終業時に打ち合わせと月に 2 回ミーティングを行い、相談内容の共有を小まめに行いました。特に虐待に関連する案件については、各相談支援専門員が意見を出し合い、支援の方向性を確認しました。また、対応に関して児童相談所

や障がい福祉課、高齢福祉課などと密に連携し、適切に対応することを心掛けました。各担当を窓口としながらもチームアプローチに必要な「情報を収集する力」と「発信力の向上」を意識しました。

(2) 一般的な相談と利用計画のバランスに配慮した業務の推進

年々計画相談件数は増加傾向にあります。その一方で、一般相談として対応している虐待に関連する相談件数が実人員 6 名で延べ 161 件ののぼり、迅速な対応と、関係機関との綿密な連携、利用者やその家族に対する繊細な配慮などを求められました。計画相談業務が緊急対応時の動きを圧迫する懸念もあり、課題となっています。何を優先すべきかを見極め、チーム内で役割分担をしながら対応し、今必要とされる相談支援に適切に対応できるよう、引き続き取り組んでいきます。

(3) 地域ネットワーク化の推進

新型コロナウイルス感染拡大防止のために中止となった会議もありましたが、リモートや広いスペースで換気を十分に必要会議を開催しました。地域包括支援センターや特別支援学校、民生委員、地域の自治会等との連携に引き続き取り組み、利用者を中心としたネットワークづくりに取り組みました。【表 13-3】

(4) 平塚市障がい者自立支援協議会の運営

新型コロナウイルス感染防止対策をとりつつ、平塚市障がい者自立支援協議会の身障分科会を再開しました。今年度は生活介護事業所による情報交換会を企画し、10 月に開催しました。また、企画運営部会では、基幹相談支援センター設置へ向けての協議も再開しました。

(5) 当事者の声を反映させる支援の模索

当事者の声を地域課題として取り上げていくために、平塚市障がい者自立支援協議会の身障分科会にて、日頃から当事者と接して課題を把握している事業所の情報交換会を企画しました。また、当事者が直接声を届ける講演会の企画を検討しましたが、感染拡大状況が続いていたため今年度の開催は見送りました。

(6) 認定調査の実施

知的・精神・身体障がいと多様な障がい者の方の障害支援区分の認定調査を合計 68 件行いました。【表 14-7】

(7) 委託相談支援事業の役割の明確化

平塚市の基幹相談支援センターのあり方を、平塚市障がい者自立支援協議会企画運営部会にて検討しました。現在の委託相談支援事業所の役割、指定特定相談支援事業所の役割を明確にできるように議論を進めています。

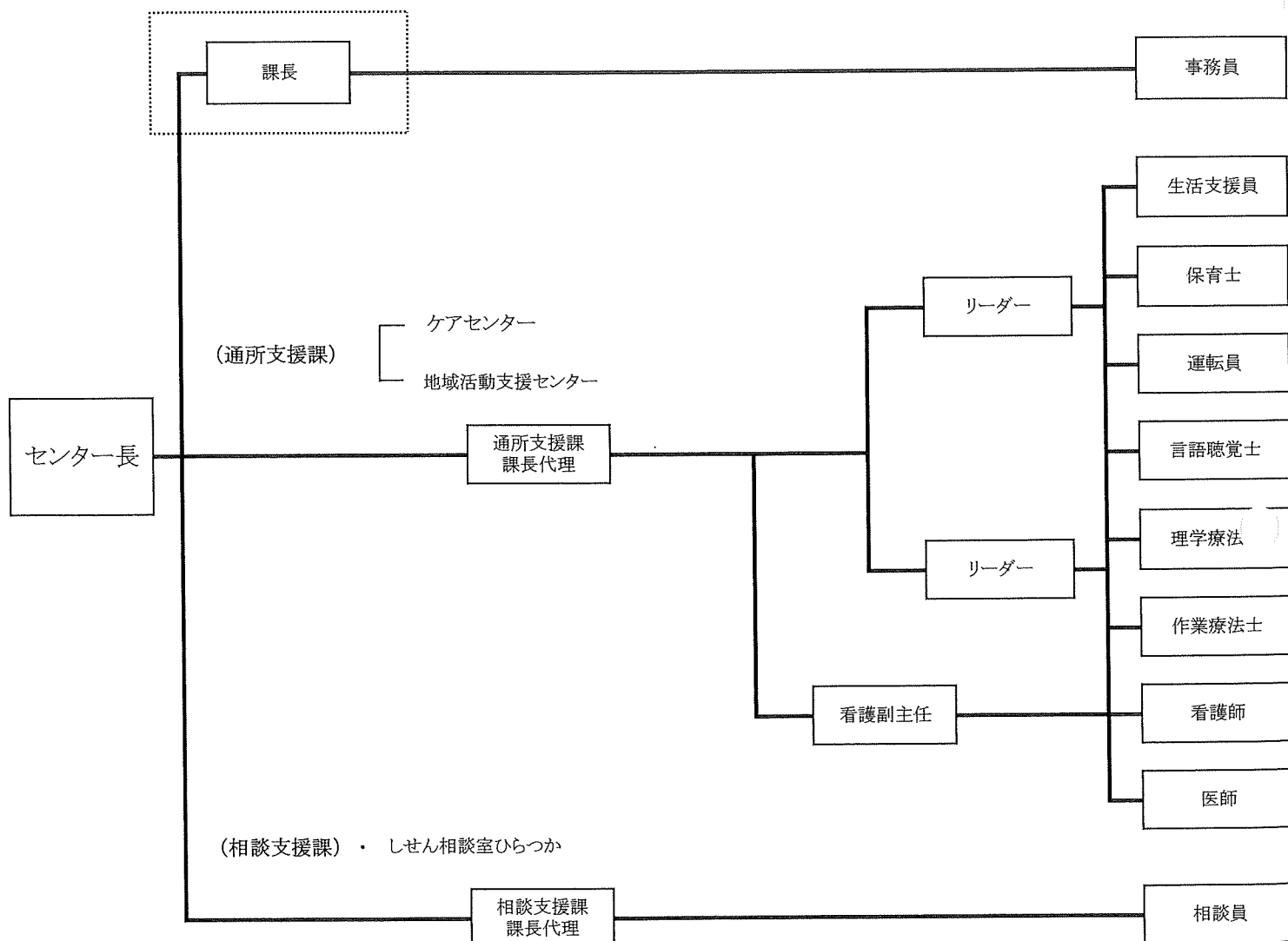
関係資料

(資料1) 令和3年度 ソーレ平塚地域支援センター 職員構成図

令和4年3月末日 現在

	常勤	準職員	パート	アルバイト	業務委託	合計
ソーレ平塚ケアセンター	8(兼務1)	0	7	5	5	25
ソーレ平塚地域活動支援センター	0	0	1	0	0	1
しせん相談室ひらつか	3(兼務1)	0	1	1	0	5
法人事務局	1	0	0	0	0	1
合計	12	0	10	4	5	32

(資料2) 令和3年度 ソーレ平塚地域支援センター 組織図
〔法人本部〕



令和3年度 通所カレンダー

【2021～2022年】

4月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

5月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

6月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

7月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

8月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

9月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

10月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

11月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

12月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

1月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

2月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28					

3月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

□ → 会議・大掃除(12月)の為14:00早送り。

▤ → 休み。

(資料4) 組織、施設の運営状況

職員採用、退職職員(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

		法人内異動		採用					退職				
		転入	転出	常勤	準職員	パート	アルバイト	委託	常勤	準職員	パート	アルバイト	委託
ケア	センター長												
	サービス管理												
	生活支援員		1			1	1				1		
	看護師						1				1		
	理学療法士												
	作業療法士												
	言語聴覚士												
	運転手												
地活	生活支援員												
支援	相談員												
兼務	管理栄養士												
兼務	事務員												
合計		0	1	0	0	1	2	0	0	0	2	0	0

(資料5) 施設内・外部研修及び外部会議・業務連絡会

表5-1 施設内部研修

実施日	内容	講師	対象者
4月13日	全体職員会議	施設長、センター長等	全職員(運転手を除く)

表5-2-1 外部研修

実施日	研修内容	場所	出席者
9月30日	権利擁護セミナー	リモート	佐藤智
10月21日	令和3年度神奈川県意思決定支援ガイドライン研修	リモート	佐藤智
10月28日	サービス管理責任者 更新研修	厚木市商工会議所	佐藤智
11月30日	相談支援従事者現任研修(12/21、1/26)	小田原合同庁舎	田島
12月15日	社会福祉施設における労働災害	平塚市勤労会館	佐藤智
1月19日	虐待防止・権利擁護研修	リモート	センター長
1月24日	令和3年度虐待防止マネジャー研修	リモート	佐藤智
2月7日	令和3年度ストレスマネジメント研修	リモート	星野
3月22日	平塚市地域フォーラム	リモート	佐藤智

表5-3-1 外部会議及び業務連絡会

実施日	内容	場所	出席者
4月14日	県サビ児管研修検討部会	リモート	センター長
4月16日	YES, 愛DO! 実行委員会	なでしこライオンズクラブ	センター長
4月21日	身障協総会	リモート	センター長
4月22日	法人経営会議	ソーレ平塚	センター長
4月28日	県サビ児管研修県社協との打合せ	リモート	センター長
5月4日	相談連絡会	ソーレ平塚	センター長、佐藤智
5月7日	法人機関紙編集委員会	ソーレ平塚	星野
5月13日	県サビ児管研修検討部会	リモート	センター長
5月14日	YES, 愛DO! 実行委員会	なでしこライオンズクラブ	センター長
5月24日	法人経営会議	ソーレ平塚	センター長
5月25日	法人監事監査	すこやか園	センター長
5月27日	県サビ児管更新研修(講師)	平塚商工会議所	センター長
5月27日	鶴見大学実習及び就職状況説明会	リモート	佐藤智
5月28日	法人理事会	ソーレ平塚	センター長
5月30日	YES, 愛DO! (参加団体会場収録)	平塚総合体育館	センター長
5月31日	県サビ児管研修検討部会	リモート	センター長
6月4日	法人コンプライアンス委員会	ソーレ平塚	センター長
6月7日	県サビ児管研修検討部会ビデオ撮影	波止場会館	センター長
6月9日	相談連絡会	ソーレ平塚	センター長、佐藤智
6月12日	法人評議員会	ソーレ平塚	センター長
6月12日	臨時経営会議	ソーレ平塚	センター長
6月15日	臨時経営会議	ソーレ平塚	センター長
6月18日	県サビ児管実践研修合同会議	リモート	センター長
6月22日	県サビ児管更新研修(講師)	平塚商工会議所	センター長
6月24日	法人経営会議	精陽学園	センター長
7月7日	県サビ児管研修検討部会	リモート	センター長
7月8日	利用者ケア会議	ソーレ平塚	センター長、小池
7月13日	県サビ児管研修ファシリテーター研修会(講師)	リモート	センター長
7月14日	法人懲戒委員会	ソーレ平塚	センター長
7月27日	法人懲戒委員会	ソーレ平塚	センター長
7月29日	法人経営会議	ソーレ平塚	センター長
8月5日	県サビ児管研修県社協打合せ	リモート	センター長
8月5日	県サビ児管研修検討部会	リモート	センター長
8月6日	法人懲戒委員会	ソーレ平塚	センター長
8月19日	法人経営会議	ソーレ平塚	センター長
8月20日	県サビ児管研修検討部会	リモート	センター長
8月23日	法人機関紙編集委員会	ソーレ平塚	星野
8月26日	県サビ児管基礎研修(講師)	県社会福祉センター	センター長
8月27日	法人コンプライアンス委員会	ソーレ平塚	センター長
9月7日	県サビ児管基礎研修(講師)	県社会福祉センター	センター長
9月8日	県サビ児管研修検討部会	リモート	センター長
9月10日	湘南西部圏域重心・医療のネットワーク会議	リモート	佐藤智
9月17日	法人規程整備委員会	ソーレ平塚	センター長
9月22日	法人経営会議	ソーレ平塚	センター長
9月27日	県サビ児管研修検討部会	ソーレ平塚	センター長

表5-3-2 外部会議及び業務連絡会

実施日	内容	場所	出席者
9月29日	令和3年度安全運転管理者法定講習	平塚市中央公民館	佐藤智
10月8日	生活介護事業所情報交換会	平塚市福祉会館	佐藤智
10月15日	県サビ児管研修検討部会	リモート	センター長
10月19日	県実地指導	ソーレ平塚	センター長、佐藤智
10月25日	法人経営会議	ソーレ平塚	センター長
10月26日	県サビ児管研修検討部会	シリウス	センター長
10月27日	県サビ児管更新研修（講師）	厚木市商工会議所	センター長
10月29日	福祉施設部会第1回施設長会	リモート	センター長
11月2日	臨時経営会議	ソーレ平塚	センター長
11月5日	法人理事会	ソーレ平塚	センター長
11月9日	県サビ児管研修県社協打合せ	県社会福祉センター	センター長
11月13日	法人評議員会	ソーレ平塚	センター長
11月18日	県サビ児管研修検討部会	県央福祉会（大和）	センター長
11月24日	法人経営会議	ソーレ平塚	センター長
11月25日	福祉施設部会第2回施設長会	リモート	センター長
11月26日	肢体不自由児部門進路に関わる連絡会	平塚養護学校	佐藤智
11月30日	県サビ児管研修検討部会ビデオ撮影	県社会福祉センター	センター長
12月1日	臨時経営会議	ソーレ平塚	センター長
12月3日	県サビ児管研修検討部会	県社会福祉センター	センター長
12月10日	県サビ児管研修検討部会	リモート	センター長
12月21日	県サビ児管研修模擬研修（講師）	県社会福祉センター	センター長
12月22日	法人情報管理システム委員会	ソーレ平塚	センター長、佐藤智
12月23日	法人経営会議	ソーレ平塚	センター長
1月12日	県サビ児管研修検討部会	リモート	センター長
1月13日	利用者ケア会議	ソーレ平塚	荻野
1月13日	法人表彰・懲戒委員会	ソーレ平塚	センター長、佐藤智
1月15日	湘南西部圏域重心・医療的ケアネットワーク会議	リモート	佐藤智
1月25日	法人経営会議	ソーレ平塚	センター長
1月28日	県サビ児管研修県社協打合せ	リモート	センター長
1月31日	県サビ児管研修県社協打合せ	リモート	センター長
2月8日	県サビ児管実践研修（講師）（他、2/10、22、24）	県社会福祉センター	センター長
2月18日	介護に関する入門的研修（講師）	栗原ホーム	センター長
2月25日	法人情報管理システム委員会	リモート	センター長
2月28日	法人経営会議	ソーレ平塚	センター長
3月4日	法人理事会	ソーレ平塚	センター長
3月17日	法人経営会議	ソーレ平塚	センター長
3月19日	法人評議員会	ソーレ平塚	センター長
3月28日	サビ児管国研修報告会	リモート	センター長

(資料6) 見学・実習生の受け入れ

表6-1 見学等

実施日	見学、交流	人数
	受け入れ中止	

表6-2 実習生の受け入れ

学校名等	期間	日数	人数	受け入れ先
聖ヶ丘教育福祉専門学校	6月10日～24日 (中止)			ケアセンター
鎌倉女子大学	8月2日～6日 (中止)			ケアセンター
鎌倉女子大学	8月18日～26日 (中止)			ケアセンター
鶴見大学短期大学部	8月27日～10日 (中止)			ケアセンター
神奈川社会福祉専門学校	9月15日～17日 (中止)			ケアセンター
聖ヶ丘教育福祉専門学校	2月8日～18日、3月14日～15日 (中止)			ケアセンター
聖ヶ丘教育福祉専門学校	2月8日～22日 (中止)			ケアセンター
湘北短期大学	2月21日～3月4日 (中止)			ケアセンター
鶴見大学短期大学部	3月1日～15日 (中止)			ケアセンター
関東学院大学	3月16日～31日 (中止)			ケアセンター

(資料7) ソーレ平塚ケアセンター
支援の状況

表7-1 利用者の状況

令和4年3月末日 現在

	登録者	新規	終了	予定数	延べ人員	一般浴	特殊浴	給食	実習生	延べ人数
4月	43	0	0	479	443	0	186	392	0	0
5月	43	0	0	462	414	0	178	369	0	0
6月	43	0	0	484	443	0	191	396	0	0
7月	43	0	0	478	428	0	187	378	0	0
8月	44	0	0	376	316	0	151	273	0	0
9月	41	0	2	451	417	0	191	396	0	0
10月	41	0	1	441	391	0	170	353	0	0
11月	40	0	0	445	411	0	187	380	2	2
12月	40	0	0	400	370	0	170	353	0	0
1月	40	0	0	383	335	0	131	270	0	0
2月	40	0	0	418	363	0	161	317	0	0
3月	40	0	0	438	412	0	170	348	0	0
合計		0	3	5255	4743	0	2073	4225	2	2
令和2年度実績				5451	4753	30	2117			
令和元年度実績				5228	4474	96	1969			
平成30年度実績				4464	3618	99	1415			
平成29年度実績				4438	3716	210	1390			

表7-2 市町村別人数

令和4年3月末日 現在

	平塚市	藤沢市	伊勢原市	二宮町	大磯町	合計
男	18	0	0	1	2	21
女	17	0	1	1	0	19
合計	35	0	1	2	2	40

表7-3 障害種別人数

令和4年3月末日 現在

性別/障害	脳性麻痺	脳血管障害	頸椎損傷	頭部外傷	筋ジス	その他	合計
男	9	3	2	2	2	3	21
女	5	5	0	2	0	7	19
合計	14	8	2	4	2	10	40

表7-4 身体障害者手帳等級別人数

令和4年3月末日 現在

性別／等級	1級	2級	3級	4級	5級	6級	合計
男	16	4	0	0	0	0	20
女	13	3	1	0	0	1	18
合計	29	7	1	0	0	1	38

表7-5 療育手帳障害程度別人数

令和4年3月末日 現在

性別／療育手帳	A1	A2	B1	B2	合計
男	8	2	0	0	10
女	9	2	0	0	11
合計	17	4	0	0	21

表7-6 精神障害者保健福祉手帳障害等級別人数

令和4年3月末日 現在

性別／等級	1級	2級	3級	合計
男	0	1	1	2
女	1	1	0	2
合計	1	2	1	4

表7-7 障害支援区分別人数

令和4年3月末日 現在

性別／障害支援区分	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
男	0	0	1	4	4	12	21
女	0	0	3	1	2	13	19
合計	0	0	4	5	6	25	40

表7-8 年齢別人数

令和4年3月末日 現在

性別／年齢	18～ 19	20～ 29	30～ 39	40～ 49	50～ 59	60～ 64	65～	合計
男	0	4	7	4	5	1	0	21
女	0	3	4	6	3	3	0	19
合計	0	7	11	10	8	4	0	40

(資料8) 日中活動

表8-1 行事

	内 容
4月	ソーレ周辺散歩、春の展示即売会 (中止) 県フライングディスク大会 (中止)、県陸上競技大会 (中止)
5月	菖蒲湯入浴、YES, 愛DO! 音楽祭 (映像収録)
6月	ローリングバレー神奈川交流大会 (中止) 卓上ソーレ杯 (中止)
7月	防災訓練 (火災)、夏の展示即売会 (中止)
8月	かっぱ祭り展示会 (中止)
9月	身障協ローリングバレーボール大会 (中止)
10月	秋の展示即売会 (中止)、防災訓練 (地震)
11月	ふじみ園展示会 (中止)、卓上競技大会 (中止) 身障協ステージ発表 (中止)、施設内卓上競技大会 (中止)
12月	地域支援センターお楽しみ会、茶道クリスマス会 (中止) ゆず湯、社会福祉展 (オンライン展示)、冬の展示即売会 (中止)
1月	
2月	節分豆、喫茶アモーレイイベント (中止)、身障協作品展示 (中止) 防災訓練 (水害)
3月	ローリングバレーボールぱっする杯 (中止) コーラス公民館祭り発表会 (中止) 地域支援センター家族懇談会

表8-2 創作的活動

グループ活動	自主活動
壁面制作、カレンダー制作、紙漉き、ラジオ体操 絵本読み聞かせ、季節にあわせた制作、散歩、ちぎり絵 ボール運動、ボッチャ、ショット de ビンゴ、ゴロ卓球 壁面制作、音楽活動、カレンダー制作、カルタ、コーラス 水活動、カラオケ、ボーリング、陶芸、パソコン 避難訓練、七宝焼き、フライングディスク、販売会準備、散歩 クイズ、ラーメン体操、エビカニクス、ダンス 双六作成、凧づくり、花壇作り	折り紙、音楽活動、ジグソーパズル ストレッチ体操、お花摘み、読書 学習ドリル、歩行練習、アイロンビーズ ちぎり絵、イントロ当てクイズ、塗り絵 陶芸、コーラス練習、園芸、壁面オセロ

表8-3 主な外出先一覧

日帰り旅行等	新型コロナウイルス感染防止の為中止
その他	ソーレ周辺散歩

表8-4 趣味活動、ボランティアとの関わり

活動種目	活動内容	回数	ボラ	1回の参加者
書道教室	書道の指導	中止		
パソコン教室	基本的な使用方法の指導	適宜	職員	2~3名
陶芸教室	基本的な作り方の指導	適宜	職員	2~3名
華道・茶道教室	お花、お抹茶の指導	中止		
ローリングバレーボールクラブ	大会への参加、練習	週1	職員	1~2名
七宝焼きクラブ	基本的な作り方の指導	中止		
ボッチャ	基本的なボッチャの練習	適宜	職員	4~6名
コロ・ピアチェレ	歌の発声	週1	職員	2~3名
美容	美容(有償)	適宜	職員	希望
喫茶アモーレ	喫茶店のウエイレス	中止		

※新型コロナウイルス感染予防のため、ボランティア不在での自主活動実施

※緊急事態宣言中は全ての趣味活動は中止

※飲食を伴う活動は中止

表8-5 スポーツ大会等への参加者

日 時	内 容	参加者人数	会 場
4/11 (日)	県フライングディスク競技会 (中止)		神奈川県立スポーツセンター
5/9 (日)	県陸上競技大会 (中止)		神奈川県立スポーツセンター
5/30 (日)	YES, 愛 DO! 音楽祭 (映像収録)		トッケイセキュリティ 平塚総合公園体育館
	ローリングバレーボール神奈川交流大会 (中止)		
	身障協ローリングバレーボール大会 (中止)		
	身障協ステージ発表 (中止)		
	身障協卓上競技大会 (中止)		
2/25 (土)	金田公民館まつり (中止)		
	ローリングバレーボールぱっする杯 (中止)		

※予定していた大会等は全て中止

表8-6 医師の診察
(整形外科/リハビリに伴う診察)

診察科目	人数	回数
整形外科	27人	5回

(資料9) 年間行事予定表

4月	花見	9月	県ローリングバレーボール大会 (中止)	2月	節分
	春の展示即売会 (中止)	10月	秋の展示即売会 (中止)	3月	懇談会 (希望者のみ個別面談)
	県アソビ大会 (中止)	11月	卓上競技ソーレ杯 (中止)		ボランティア懇談会 (中止)
	県陸上競技大会 (中止)		県身障協「そら」発表 (中止)		ひな祭り
5月	チャリティコンサートYes, 愛, Do! (映像収録)	12月	お楽しみ会		県ローリングバレーボール大会 (中止)
	菖蒲湯		冬の展示即売会 (中止)		金田公民館まつり (中止)
6月	卓上競技ソーレ杯 (中止)		柚子湯		
	県ローリングバレーボール大会 (中止)		餅つき大会 (中止)		
	夏の展示即売会 (中止)		県身障協卓上競技大会 (中止)		
8月	県ローリングバレーボール審判講習会 (中止)	1月	県身障協作品展示 (中止)		
	かつば祭り (中止)				通年：日帰り外出 (中止)

(資料10) 週間行事予定表

	午前	頻度	午後	頻度
月	書道 (中止)	1/週	卓上競技 (壁面オセロ)	適宜
	パソコン	適宜	ローリングバレーボール	1/週
	言語聴覚士	2/月	理学療法士	2/月
	理学療法士	2/月	鍼灸マッサージ師	2/月
	鍼灸マッサージ師	2/月		
火	七宝焼き (中止)	1/月		
	理学療法士	2/月	理学療法士	2/月
水	喫茶ア・モーレ (中止)	2/月	喫茶ア・モーレ (中止)	2/月
	パソコン	適宜	コーラス (中止)	1/週
	七宝焼き (中止)	2/月		
	コーラス	1/週		
木	理学療法士	2/月	理学療法士	2/月
	鍼灸マッサージ師	2/月	鍼灸マッサージ師	2/月
	整形外科医	2/月		
金	陶芸	適宜	スポーツ (中止)	1/月
	理学療法士	2/月		
	華道・茶道 (中止)	1/月		
他	美容	適宜		

(資料11) 日課表 (ソーレ平塚ケアセンター)

時間	活動内容	時間	活動内容
8:30	職員打合せ	13:00	バイタルチェック
8:50	迎え出発		活動、リハビリ、入浴
9:50	利用者到着	15:30	利用者帰りの会
10:10	利用者朝の会	16:00	送り出発
	活動、リハビリ、入浴		
11:30	昼食準備	17:00	送迎終了、職員打合せ
12:00	昼食	17:30	業務終了

(資料12) ソーレ平塚地域活動支援センター
支援の状況

表12-1 利用件数

令和4年3月末日 現在

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
ソーレ平塚	男性1F	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女性2F	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
地域支援センター	男性	1	3	0	2	0	3	0	1	0	2	3	2	17
	女性	5	5	9	6	6	9	7	6	5	4	7	8	77
しせん相談室 ひらつか	男性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		6	8	9	8	6	12	7	7	5	0	10	10	94

表12-2 利用時間

令和4年3月末日 現在

		2h	3h	4h	5h	6h	7h	8h	9h	10h	11h	合計
ソーレ平塚	男性1F	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女性2F	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
地域支援センター	男性	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17
	女性	77	0	0	0	0	0	0	0	0	0	77
しせん相談室 ひらつか	男性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		94	0	0	0	0	0	0	0	0	0	94

※h=時間

表12-3 利用の理由

令和4年3月末日現在

		延長利用	デイサービス	一時預かり	アクティビティ	その他	合計
	男性	17	0	0	0	0	17
	女性	77	0	0	0	0	77
合計		94	0	0	0	0	94

(資料13) しせん相談室ひらつか

表13-1 施設内部研修会

実施日	内容	講師	対象者
	コロナウイルス感染拡大防止により参加なし		

表13-2 外部研修

実施日	内容	場所	出席者
4月27日	障害支援区分認定調査員研修	保健センター	春木、上原
7月13日	相談支援従事者初任者研修プレ研修(他、7/14)	ココテラス湘南	上原
9月2日	相談支援従事者初任者研修 (他、9/3、30、10/25、26)	平塚商工会議所	上原
11月22日	相談支援従事者現任研修(他、12/13、1/17)	ココテラス湘南	センター長、水越
12月3日	苦情解決研修	リモート	春木
12月19日	相談支援専門員コース別研修「障害児相談支援」	リモート	寺澤

表13-3 外部会議など

実施日	内容	場所	出席者
6月11日	湘南西部圏域相談支援ネットワーク会議	リモート	センター長、春木
6月17日	平塚市障がい者自立支援協議会企画運営部会	平塚市役所	センター長、春木
6月28日	平塚市障がい者自立支援協議会身障分科会	平塚市役所	センター長、春木
7月12日	平塚市障がい者自立支援協議会企画運営部会	平塚市役所	センター長、春木
8月4日	平塚市障がい者自立支援協議会身障分科会	平塚市役所	センター長、春木
8月23日	平塚市障がい者自立支援協議会企画運営部会	平塚市福祉会館	春木
10月4日	平塚市障がい者自立支援協議会身障分科会	平塚市役所	センター長、春木
10月8日	生活介護事業所情報交換会	平塚市福祉会館	センター長、春木
11月26日	平塚市障がい者自立支援協議会身障分科会	平塚福祉会館	センター長、春木
12月2日	平塚市障がい者自立支援協議会企画運営部会	平塚市役所	センター長、春木
12月8日	湘南西部圏域相談支援ネットワーク会議	リモート	センター長、春木
12月21日	医ケア児等コーディネーターに関わる検討会	平塚市役所	春木、寺澤
2月14日	平塚市障がい者自立支援協議会企画運営部会	平塚市役所	センター長、春木
2月22日	医療的ケア児支援分科会	リモート	春木、寺澤
2月25日	移行支援会議	平塚養護学校	春木
3月2日	移行支援会議	平塚養護学校	春木
3月8日	移行支援会議	平塚養護学校	水越
3月11日	平塚市障がい者自立支援協議会企画運営部会	リモート	センター長、春木
3月30日	平塚市障がい者自立支援協議会	平塚市役所	センター長
3月30日	平塚市障がい者自立支援協議会身障分科会	平塚市役所	センター長、春木

(資料14) 令和3年度 相談支援事業実績 総括表 【令和3年4月1日～令和4年3月31日】

表14-1 対応方法 (延べ件数)

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
個別対応	電 話 相 談	413	323	351	400	400	377	407	450	433	528	512	594	5188
	来 所 相 談	6	7	7	5	10	6	2	9	3	7	4	5	71
	訪 問 相 談	93	87	93	110	82	91	90	99	92	72	69	114	1092
	同行 (病院・施設等)	6	6	7	3	6	6	7	6	3	1	2	2	55
そ の 他	48	44	44	39	36	48	41	51	40	34	44	71	540	
合 計	566	467	502	557	534	528	547	615	571	642	631	786	6946	

表14-2 年齢 (延べ件数及び実人員件数)

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
延べ件数	0～17歳まで	21	27	31	32	19	18	9	53	17	31	15	46	319
	18～39歳まで	117	104	106	132	117	112	101	128	101	145	160	202	1525
	40～64歳まで	408	313	343	378	359	353	375	411	417	443	428	524	4752
	65歳以上	20	20	20	15	39	45	62	23	37	23	26	14	344
	そ の 他	0	2	2	0	0	0	0	0	1	0	1	0	6
合 計	566	466	502	557	534	528	547	615	573	642	630	786	6946	
実人員	0～17歳まで	7	6	4	1	1	0	1	1	0	0	0	0	21
	18～39歳まで	24	7	10	3	1	7	0	4	0	0	2	1	59
	40～64歳まで	66	29	13	10	8	9	9	6	5	6	3	5	175
	65歳以上	6	3	5	0	3	6	1	1	2	0	1	1	35
	そ の 他	0	1	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	4
合 計	103	46	33	14	13	22	11	12	8	6	7	7	282	

表14-3 新規・継続相談 (実人員)

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
新 規	6	10	5	5	8	7	8	8	3	5	6	6	77
継 続	109	40	29	11	4	14	2	2	5	1	0	0	217
合 計	115	50	34	16	12	21	10	10	8	6	6	6	294

表14-4 障害種別 (実人数)

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
肢 体	肢 体	0	2	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	180
	そ の 他	0	1	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	35
知 的	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	30	
発 達 障 害	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
精 神	6	3	1	0	0	0	0	2	0	0	1	0	13	
高 次 脳 機 能 障 害	6	2	1	1	1	0	1	1	0	1	0	0	14	
重 心	6	3	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	41	
そ の 他	4	2	1	1	1	3	0	0	0	0	0	0	12	
合 計	22	14	7	3	3	3	3	4	0	1	1	0	61	

(注) 一人で複数の障害を重複している場合は、それぞれ算定。

表14-5-1 個別相談の相談事由（延べ件数）

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
福祉制度・障害福祉サービスの問い合わせ	68	130	102	70	70	72	65	89	59	46	76	59	906
雇用・就労関係	25	28	33	31	18	21	49	27	26	20	24	26	328
住居・住宅関係	42	25	22	21	17	25	39	24	33	24	31	23	326
教育・発達関係	3	6	7	5	2	0	4	3	1	0	0	11	42
保健・医療・健康管理関係	136	101	92	87	80	104	86	95	82	114	86	130	1193
家族関係	74	50	47	54	29	41	46	55	32	33	46	35	542
対人間関係	38	36	22	24	3	15	13	23	28	16	22	28	268
経済・年金関係	26	6	5	5	9	13	4	11	21	19	16	15	150
放課後支援	0	1	10	14	6	0	2	16	3	9	2	16	79
施設関係	86	44	32	47	42	40	18	28	49	32	30	31	479
引きこもり	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
不安感傾聴	37	43	57	41	42	48	52	77	83	79	67	62	688
利用調整	280	234	235	356	330	302	349	363	345	414	407	527	4142
福祉用具	39	27	18	26	31	33	24	43	19	21	28	69	378
支給決定	51	58	85	49	70	45	41	58	34	63	71	79	704
障害の理解	19	17	10	4	8	9	14	20	7	6	14	4	132
苦情対応	0	3	0	5	0	2	0	0	1	0	0	1	12
虐待	7	16	24	17	31	11	17	14	6	4	10	4	161
権利擁護	0	4	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	7
社会参加・余暇活動	4	1	0	0	1	1	3	0	5	4	5	17	41
その他（区分不可能）	8	9	8	11	5	9	18	4	8	10	5	3	98
合 計	943	839	811	868	795	791	844	950	843	914	940	1140	10678

（注） 1件の相談で複数の内容について相談を受けたものは、重複して算定。

表14-5-2 （参考）サービス等利用計画作成に係る相談件数（延べ件数）

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
件数	502	424	455	521	497	456	471	543	514	578	552	710	6223

表14-6 個別相談の相談者区分（延べ件数）

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
本人	112	114	150	162	157	125	161	151	190	167	168	199	1856
家族	113	99	98	105	106	118	107	124	83	122	117	148	1340
行政・教育関係	73	52	68	49	61	50	72	75	60	59	82	74	775
医療・福祉関係	263	198	184	237	210	231	203	255	233	279	259	360	2912
その他	5	3	2	4	0	4	4	10	7	15	4	5	63
合 計	566	466	502	557	534	528	547	615	573	642	630	786	6946

表14-7 その他の要素

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
ケア会議	5	2	6	7	5	3	6	7	1	4	10	8	64
障害支援区分認定調査	3	6	10	4	6	6	8	7	6	2	4	6	68
サービス利用計画作成	2	19	15	6	19	14	11	12	11	20	20	17	166
モニタリング	36	66	50	60	42	53	56	60	58	37	55	73	646
講演・研修会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	14	6	1	1	2	0	3	0	0	0	0	27

令和3年度
事業報告書

社会福祉法人 至泉会
すこやか園

すこやか園

1 概況

今年度は、伊勢原市障害福祉センター指定管理者の運営受託（令和 2 年度～令和 7 年度）の 2 年目（通算 18 年目）ですが、昨年度に続き、新型コロナウイルス感染症予防対策の強化に努めました。

その他、全体的な取り組みは次のとおりです。

(1) 防犯対策

昨年度からの取り組みを継続し、玄関前に案内文書を掲示し、来館者にドアホンを押してもらい、職員室のモニター画面で来館者を確認する対応を行いました。ボランティア団体においては、名札着用を徹底し、着用されていない場合は、職員より一声掛ける対応を職員全体で行いました。玄関ドアは 10 時～16 時の間のみ施錠対応でしたが、防犯係で対応を協議した結果、12 月より地域活動支援センターの送迎時、児童の登降園時のみ自動ドアに切り替える対応を行い、基本は終日の施錠対応を徹底しました。さらに、外からの侵入防止のために、全ての窓に窓ロックを設置しました。

館内各部屋の管理担当者を決め、終業前に施錠確認を実施し、チェック表に記入することを徹底するなど、防犯に対する意識を高めました。また、防犯係で定期的に話し合いの場を設け、各職員の意識確認と問題点を抽出し、次年度の課題としました。

(2) 防災対策

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、例年 6 月に行っている消火器訓練は消防署と協議した結果、新型コロナウイルス感染防止を目的として人が集まる状況を避けるために中止としました。感染防止対策を講じた中で出来る方法を検討し、11 月に 2 回、職員対象にレスキューマットを利用しての避難訓練を行いました。【表 1-5】参照。また、消火器やガソリン等の備蓄品などで保管期限が迫っている物は、順次新しい物と取り替えるなど適正に管理しました。避難口誘導灯の本体も 1 カ所経年劣化のため、新しいものに交換しました。

(3) 事故防止対策

事故防止の一環として、「ヒヤリ・ハット報告書」、「事故報告書」等の作成を継続的に取り組みました。ヒヤリ・ハット報告の延べ件数は、13 件。事故報告（※県市に報告義務のない園独自の基準で定めたもの）の延べ件数は、16 件（3 月末現在）でした。ヒヤリ・ハット報告を職員が意識する事で、事故を未然に防ぐ意識が高ま

りました。【表 1-9-1~2】 参照。

(4) ストレスチェック

今年度も、ストレスチェックを実施し、職員が心身の状態を知るきっかけと健康状態を振り返る機会になりました。また、結果を受け、産業医より労働衛生に関するアドバイスを受けました。

(5) 労働衛生について

安全衛生委員会の中で職場環境や新型コロナウイルス感染症対策について検討、確認を行いました。今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大を防止する目的で、玄関入り口に、アルコールディスペンサーと非接触体温計を置き、職員や外部からの来園者に対応し易くしました。同時に国や県などからの発信にアンテナを張り、適切な情報収集に努め、アルコールやプラスチックグローブなどの物品の確保と適切な使用についても共有しました。また、共有スペースの消毒チェック表を活用し、職員全体の意識を高めながら感染予防に取り組みました。さらに、令和 4 年 3 月からは CO2 センサーで、二酸化炭素、温度、湿度をリアルタイムで測定し、部屋の換気の目安を確認しています。

(6) 虐待防止対策

5 月より 2 か月に 1 回、虐待防止委員会を開催し、「障がい者虐待防止セルフチェックリスト」に基づく各事業の取り組みについて共有しました。

令和 4 年度から義務化される虐待防止委員会・虐待の防止等のための責任者については設置済みですが、従業者への研修実施に関しての時期や方法等は今後、検討していく予定です。

2 令和 3 年度の施設運営目標に対する評価

(1) 新型コロナウイルス感染症の感染防止を意識した施設運営を行います。

- ・利用児（者）5 名、職員 1 名の感染が確認され、職員の家族や家族の勤務先等に感染者及び感染の疑いのある人も多数出ました。また、職員の家族に急な発熱等で体調不良者がいる等の理由から職員の出勤自粛者は 10 名でした。すこやか園以外の福祉サービス等を併行利用している方が、新型コロナウイルスの感染を疑われることもありましたが、その都度、各関係機関、家族、保健所等と連絡を図り情報の共有を行いました。新型コロナウイルス感染症の 1・2 回目のワクチン接種に関しては、精陽学園の協力医の厚意により、7 月に職員 15 名が居住地で接種するより早く接種する事ができ、9 月末時点でおおむね全職員の接種を終えることが出来ました。3 回目のワクチン接種に関しては、職員の居住する各自治体の指導の下、各職員で対応しました。また、園内に入る際には、職員、利用児（者）関係な

く、その都度、検温と手指消毒を行い、活動前後には各部屋のアルコール消毒を徹底しました。12月からは1日1回だった各エリアの消毒作業を最低2回に増やしました。さらに、同居する家族に発熱や咳症状等の疑わしい症状が見られた場合には、家族や各関係者と相談し、医療機関の結果等を含め、その後の判断を行いました。

3 事業内容

(1) 児童発達支援事業

「Ⅰ児童発達支援事業報告」参照。

(2) 保育所等訪問支援事業

「Ⅱ保育所等訪問支援事業報告」参照。

(3) 地域活動支援センター事業

「Ⅲ地域活動支援センター事業報告」参照。

(4) 生活支援センター事業

「Ⅳ生活支援センター事業報告」参照。

(5) 日中一時支援事業

「Ⅴ日中一時支援事業報告」参照。

(6) ボランティア団体の利用承認およびその対応

【表1-7】参照。

4 その他

(1) 事故 (0件)

(2) 苦情 (0件)

(3) 運営委員会について

7月と2月に実施を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、市障がい福祉課と検討し、昨年度同様に7月は中止し、2月は書面開催としました。

(4) ふれあい福祉まつり

12月に実施を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、8月の主管打ちあわせの結果、昨年度同様に中止となりました。

(5) 寄付

サインペン100セット (120,000円)

I 児童発達支援事業

1 概況

今年度は、前年度からの利用児 54 名と 4 月からの新規利用児 14 名の 68 名でスタートしました。利用児の動向は、5 月以降 8 名増え（5 月 2 名、6 月 1 名、8 月 1 名、10 月 3 名、12 月 1 名）、年度内で 5 名が終了となり（4 月 1 名、7 月 1 名、9 月 1 名、10 月 1 名、11 月 1 名）、年度末には 71 名の在籍となりました。

今年度は、常に新型コロナウイルス感染防止対策が求められましたが、前年度中に既に対策を講じていたため、混乱なくスムーズに取り組むことが出来ました。また、保護者には、感染が疑わしいときは登園を自粛してもらおう等、感染を拡大させないための協力を文書で依頼していたこともあり、子どもの感染者が増えた年明けから年度末の時期は、登園自粛のためのお休みが増えましたが、保護者の協力もあり、療育を休むことなく無事に過ごすことが出来ました。

療育については、保護者分離でのグループ療育と保護者同伴の個別支援を昨年度と同様の体制で行いました。

重症心身障がい児のグループは、利用児が年度当初 1 名だったため、個別に支援する体制でスタートしましたが、伊勢原市から重症心身障がい児のグループ療育の実施が求められたことと利用児が 1 名増えたことにより、7 月から重症心身障がい児グループを再開し、10 月にも 1 名増えて、3 名在籍のグループとなりました。

職員の動向としては、4 月に新採用の児童指導員 1 名を採用しましたが、その職員と他の児童指導員 1 名の 2 名の退職と、保育士 1 名の育児休業により職員の欠員が生じましたが、11 月にアルバイト保育士 1 名、12 月に常勤保育士 1 名を採用することが出来ました。職員数が少ない時期には、人手不足で大変な状況があった一方、効率的に業務が行える様に記録の仕方や会議の進め方等の工夫を考える機会に繋がりました。

2 令和 3 年度の運営目標に対する評価

(1) 新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、可能な限り感染拡大防止に配慮した療育体制を考え、支援していきます。

・新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の基本を順守し対応しました。

（粘土等を触る前に手の消毒を行う、療育終了後は使用した玩具の消毒を徹底する）等。

(2) 新型コロナウイルス感染症の感染防止対策に配慮した環境の中でも、より良く保護者を支援できるように工夫していきます。

- ・保護者がグループ療育の様子をマジックミラー越しで見ながら、状態像を確認、共有するための面談を実施しました。
 - ・新型コロナウイルス感染症拡大のため、実施出来なかった懇談会もありましたが、一部は実施することが出来ました。その際は人数を制限し、広い部屋を使用するなど感染防止を意識して対応しました。
- (3) コロナ禍でも、職員が学べる工夫を考え、資質向上を目指します。
- ・外部研修や園内で集合しての研修の実施は出来ない状況と職員欠員の状況が重なったため、日々の実践を通して、職員間での振り返りや意見交換での気づきから学びました。
 - ・研修ソフトを導入し、コロナ禍でも学べる体制を整えました。

3 事業の実施状況

(1) 利用児の状況（3月末現在）【表2-1】参照。

- ・年齢構成は、年長児（5歳児）24名、年中児（4歳児）20名、年少児（3歳児）17名、2歳児8名、1歳児1名、0歳児1名でした。

（1歳児と0歳児は重症心身障がい児グループの利用児です。）

- ・利用延べ人数は、対前年比133名増の3,410名でした。

(2) 事業内容

①療育に関すること

a 個別支援計画

療育支援方針会議を行い“個別支援計画（案）”を作成し、それを基に保護者と面談を実施し、前期個別支援計画、後期個別支援計画を完成させました。また、年度末には、個別支援計画（まとめ）を作成し、それを基に保護者と面談し、一年間を振り返る機会を作りました。

b 療育の実施

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を行いながら、利用児の状態に合わせて作成した個別支援計画を基に、グループ療育の他に、公認心理師や言語聴覚士等の専門職による療育を実施しました。

②通常療育以外の支援に関すること

a 併行通園先との連携

保育所等訪問支援事業と連携し対応しました。

b 嘱託医による相談

嘱託医が来園（月1回程度）して、希望された保護者の相談に応えました。また、2歳児グループの保護者を対象に療育時間の中で個別面談を実施しました。

c 就学支援

年長児で就学相談を利用した子どもについては、市の教育センターと連携し、就学に向けて保護者に必要な情報を伝えました。

d 発達検査・知能検査

主に年長児に対して、発達検査や知能検査を順次、実施しました。

e 保護者支援

療育の様子を伝える面談や個別支援計画作成のための面談を実施し、子どもの状態を確認する機会を作りました。一部グループの保護者を対象とした懇談会を実施しました。

③地域支援（地域との連携）に関すること

a 伊勢原市との連携

利用児の受け入れについて、伊勢原市子ども家庭相談課と連携し、タイムリーに療育が必要な子どもを受け入れました。

b 協議会への参加

WEB（ZOOM）で参加し、学びと地域の情報を得る機会となりました。

c 啓発事業

新型コロナウイルス感染拡大の状況を踏まえ、実施できませんでした。

④職員育成に関すること

OJTにより実働と研修を兼ね専門職と児童指導員、保育士が療育の場やケース検討の時間を共有し、学びあう中で療育の質を高めました。また、研修ソフトを取り入れ、コロナ禍でも学べる体制を整えました。

Ⅱ 保育所等訪問支援事業

1 概況

当園の児童発達支援事業を利用している子どもの85%（60名）が保育園、幼稚園などに併行通園をし、当事業に在籍しています。今年度は、コロナ禍により訪問支援先が学年または学級閉鎖、午前みの保育や分散登園などが行われたため、感染防止に配慮しながら、訪問支援先の状況に合わせ、利用児の必要な支援の継続ができるよう支援を行いました。

2 令和3年度の運営目標に対する評価

(1) コロナ禍において、訪問やカンファレンスの仕方を工夫し、必要な支援をタイムリーに行えるよう実施していきます。

- ・コロナ禍においても必要な支援を継続できるよう、訪問支援先と相談し、訪問時間の短縮、電話によるカンファレンスを取り入れました。
- ・訪問については、あらかじめ訪問支援先と観察する場面を確認し、限られた時間の中で必要な支援をより効率的に進めていけるように工夫をしました。
- ・訪問に際しては、訪問支援員の検温、マスク着用、さらに消毒スプレーやスリッパを持参するなど、感染リスク対策を行いました。
- ・訪問支援先の利用児の様子から、訪問支援先、保護者と面談を重ね、当園の児童発達支援事業の利用形態をグループ療育から個別支援に変えた利用児1名、利用頻度を増やした利用児2名など、子どもにとって必要な支援に繋げるための柔軟な対応を行いました。

3 事業内容

(1) 支援内容

- ・支援頻度：原則、年2回の訪問（一人につき）
- ・支援方法：訪問支援先に対しては、午前中に利用児の課題となる集団場면을観察し、その後、利用児の療育場面の様子や発達の評価などを踏まえ、対応についてカンファレンスを行いました。
保護者に対しては、訪問支援先の様子の報告とともに、考えられる発達的特徴を踏まえ、家庭での関わり、今後の見通しについて保護者と確認しました。

(2) 事業実績【表 2-2】参照。

・登録児（3月末現在）：60名

（2歳児2名、年少児15名、年中児20名、年長児23名）

・訪問実績数：延べ106人（訪問支援先：保育園7園、幼稚園10園）

Ⅲ 地域活動支援センター

1 概況

令和4年3月31日現在の利用登録者数は、18名でした。利用実績は、延べ利用者数が1,784名で、通所予定数の85%でした。主な欠席理由はリハビリ入院や定期通院、体調不良、短期入所等の利用でした。支援の面における感染防止策として、昨年度同様に、密を避けるために活動スペースを2ヶ所に分け、ベッドの間隔を空けてパーティションを設置し、職員はフェイスシールドや介助用エプロン、プラスチックグローブを活用しました。通所者には、毎日の検温実施と体調変化の確認を依頼し、通所後、1日2回の検温実施など看護師を中心に職員全員で新型コロナウイルス感染症対策に配慮した運営に努めました。新型コロナウイルス感染者は利用者が1名で、他法人福祉事業所の短期入所利用中に感染しました。幸い症状は数日の発熱のみの軽症でした。利用者自身の発熱、家族の発熱から自宅待機となったケースが7件、他法人福祉事業所や家族の通う幼稚園・中学校・高校・養護学校で感染者がいたために自宅待機となったケースは9件ありました。職員に感染者はいませんでした。職員の家族が感染したのは2件あり、感染の疑いから出勤自粛となったケースは6件でした。

支援（活動内容）に関しては、昨年度と同様に、ポッチャやボーリング等、物品との接触が不特定多数となる活動は中止とし、個別に行える「ちぎり絵」や紙を使用した創作活動をはじめ、飛沫感染に注意しての音楽や本の朗読が中心となりました。また、今年度も利用者が楽しみにしている日帰り旅行は中止せざるを得ませんでした。それに代わる施設内イベントとして「夏祭り」、「秋祭り」、「クリスマス会」、「新年会」をスペシャル行事として実施しました。結果として、皆様から好評価を得ることができました。その他、電話による問合せに対して迅速に対応できるよう、スマートフォンの1台を地域活動支援センター専用ホットラインとして、利用者にご家族にご案内し活用しています。

2 令和3年度の運営目標に対する評価

- (1) 様々な感染症に対して意識を高め、ニュースタンダードとなるサービスを提供できるよう、チーム一丸となって取り組みます。
 - ・創作活動、音楽活動、園芸活動を中心に安全・安心なサービスを提供できるよう努めました。音楽や本読みの発声を伴う活動に関しては、スピーカーマイクを用いて、利用者と一定の距離を保ちつつ声や音が耳に届くよう配慮しました。また、各テーブルに消毒液を置き、活動の合間に適宜消毒できるよう徹底し、チーム一

丸となり感染症対策を意識して取り組むことができました。

3 支援の状況

(1) 理学療法士によるリハビリテーション支援

- ・理学療法士1名が月2回来園しました。
- ・嘱託医(整形外科医)の指示のもと、リハビリテーションを実施し、幅広い利用者のニーズに応えることができました。また、1件の補装靴の新規作成依頼を受け、嘱託医と理学療法士と連携し、完成に至りました。

(2) 関係機関との連携

- ・補装靴の作成希望者に対し、関係機関と連携し、完成させることができました。
- ・新型コロナウイルス感染症対策について、他事業所と具体的な対策や個別のケースに関する情報交換を行い、必要に応じてご家族に報告しました。

(3) 家族との連携

家族との連携については、新型コロナウイルス感染症対策として検温、体調等の把握を徹底するよう依頼しました。また、濃厚接触者の疑いやPCR検査を受けた関係者が発生した場合は、速やかに家族に状況を知らせるとともに、連絡ノートを通じて体調管理や支援の状況をより細やかに伝達しました。その他、「新型コロナウイルス感染症の疑いが確認された場合の対応について」の案内文を2度配付(改訂版含む)し、利用者と共通認識のもと、職員が一丸となり安全で安心できるサービスを提供できるよう努めました。

(4) 適切な利用者支援

- ・新型コロナウイルス感染症の拡大を防止するため、外出支援は中止とし、施設内の活動を充実するよう努めました。特に園芸活動では、トマトやピーマンの栽培や向日葵の成長観察を行い、栽培した野菜は創作活動の題材に活用し、ちぎり絵や塗り絵の作品に形を変え、園内に展示しました。また、夏祭りイベントでは、オリンピックにちなんだメダルの獲得を目指す内容とし、ポッチャをアレンジしたゲーム、釣りゲーム、射的ゲームを実施し、皆でメダリストを目指しました。秋にはハロウィン祭り、12月にクリスマス会、1月に新年会、2月に節分と、季節感を味わえるイベントを行いました。イベント時は館内を普段とは大きく趣を変えた装飾で彩り、雰囲気作りに努め、利用者の視覚から気持ちの高揚を誘う工夫を行いました。
- ・医療的な支援に関しては、必要に応じて、看護師3名による看護師ミーティングを行い、課題に対する対応方法を検討し、その結果を地域活動支援センター会議にて報告し全職員が共有しました。また、朝の迎え時の検温とともに、午後にも1

回検温を追加し、利用者の健康管理の把握に努めました。

4 事業の実施状況

(1) 事業の名称

地域活動支援センター

(2) 利用者の状況

【表 3-1-1～7】 参照。

(3) 活動内容および支援方法

【表 3-1-8～10】 参照。

(4) 各関係機関との連絡連携等

【表 3-2-1～3】 参照。

IV 相談支援事業（しせん相談室）

1 概況

今年度より、常勤の相談支援専門員を1名増員し、相談支援の強化を図りました。そのことで、常勤（専任）の相談支援専門員4名の配置となり、機能強化型サービス利用支援費（I）を取得することができました。サービス提供地域は伊勢原市の他、秦野市、平塚市の三市に変更なく、子どもから成人まで幅広く相談を受けました。サービスの提供に際しては、昨年度同様、新型コロナウイルスの感染予防対策を実施した上で相談業務を行いました。

伊勢原市からの新規委託事業「伊勢原市障がい者一般相談支援事業（サービスを利用していない方等からの一般相談に対し、アセスメントを行い、必要に応じた各種サービスの情報提供等を行う）」については、数年前から話はありましたが、正式に令和4年度からの委託の打診があり受託予定です。

また、神奈川県より、神奈川県医療的ケア児支援・情報センター業務（医療的ケア児及びその家族その他の関係者が課題とする情報を収集・解析し、地域における支援体制の構築、整備を行う業務及び、医療的ケア児等の相談に応じ、又は情報の提供若しくは助言を行う）の委託の打診があり、令和4年度より受託予定です。

令和4年3月31日現在のしせん相談室の計画相談支援実施状況は、「指定特定相談支援事業」契約者数が69名、「指定障害児相談支援事業」契約者数が221名でした。

2 令和3年度の運営目標に対する評価

(1) 感染症対策を徹底した上で、福祉サービスの利用に必要な手続き、調整等が滞ることがないように支援を継続していきます。

- ・緊急事態宣言中は、家庭訪問や来所での面接は避け、電話での聞き取りを中心に対応しました。書面にサインを頂く際は、玄関先で行いました。緊急事態宣言が発令されていないときでも、家庭訪問や来所での面接は、可能な限り短い時間で行うようにしました。
- ・面接の際は、飛沫防止パネルを設置し、座る位置を正面ではなく斜めに行いました。職員はマスク着用、検温、家庭訪問や面接前の手指消毒等の対策を行いました。面接者にも、マスク着用、検温、手指消毒をしてもらいました。
- ・外部の会議には、WEB（ZOOM）を活用して参加をしました。対面での会議の場合は、三密を避け、大会議室等で行われるものに絞り参加をしました。
- ・上記の対応を行うことで、特に休業等の措置をすることなく、事業を継続すること

とができました。

3 事業の実施状況

(1) 事業の名称

- ・指定特定相談支援事業（伊勢原市指定）
- ・指定障害児相談支援事業（伊勢原市指定）

(2) 相談者の状況（相談件数）

【表 4-1-1】参照。

(3) 相談内容および支援方法

【表 4-1-2】参照。

(4) サービス等利用計画作成数及びモニタリング実施件数

【表 4-1-3】参照。

V 日中一時支援事業

1 概況

新規登録は8月に1名、未就園児の2歳児を受け入れました。2歳という低年齢と重症心身障がいでの医療的ケアが必要であることで、受け入れ先が見つからない中、社会福祉法人としての地域貢献と伊勢原市の指定管理施設として、週1回の受け入れを行いました。登録者に関しては、6月に1名が自己都合により解約し、3月31日現在、21名の登録となっています。そのうち医療的ケアを必要とする利用者（重心加算医療ケア対象）が14名で半数以上の割合となっています。また、延べ利用者数は332名で、利用希望の73%の出席率でした。

新型コロナウイルスに感染した利用児はいませんでした。利用児の家族の通う小・中学校や利用児が通学する養護学校で感染者が出たため、自宅待機となったケースは5件ありました。

今年度も児童発達支援事業利用後に継続して利用する目的で、昨年度同様に開所時間を12時としました。また、令和2年7月から開始した自宅への送迎サービスも同様に継続し、学校が夏休み期間中には営業時間を延ばして自宅への送り迎えも行いました。

2 令和3年度の施設運営目標に対する評価

(1) 新型コロナウイルス感染症対策に最大限配慮しながら、より良い過ごし場の場を提供します。

- ・新型コロナウイルス感染症対策として、パーテーションの数を2個から4個に増やしました。また、利用者となるべく距離を保ちつつ過ごすなど、感染症の拡大予防に努め安全に過ごせる環境づくりを行いました。その他、職員の手指消毒や支援後のエプロンの更衣、遊具等のアルコール消毒を徹底しました。

3 支援状況

(1) 利用者支援

新型コロナウイルス感染症対策の徹底に努めました。利用者との接触する介助については、全てエプロンとグローブの使用を徹底しました。また、なるべく接触は避けつつも利用者が楽しめるよう、スピーカーマイクを活用し、絵本読みやウクレレ演奏での歌を中心に声が届くよう、相手との距離に配慮しサービスを提供しました。環境面では、天井や窓ガラスなどに季節毎に作成した作品を飾り、静

養時でも目で楽しめ、リラックスできるような空間作りを目指しました。また、地域活動支援センターの利用者と一緒に夏まつりやハロウィン祭り、クリスマス会、節分等の季節感を味わえるイベントに参加し、その様子を写真にして家族に見てもらったところ「楽しい雰囲気伝わってきて嬉しい」との感想をもらいました。

(2) 家族支援

- ・ 自宅への送迎希望に応えられるよう、送迎時間の工夫とともに全てのコースを全ての職員が送迎できるようにし、サービスの安定に努めました。新規利用児1名及び養護学校を欠席している生徒1名については、往復の送迎を実施し、「とても助かり有難い」との感想をもらいました。その他、定期的な利用と併せて、急な利用希望やキャンセルが生じた際の追加利用など、可能な限り柔軟に対応しました。
- ・ 令和3年度は、新型コロナウイルスの流行から土曜日の運動会開催時、保護者の参加がなかったことから利用希望は挙がらず、開催しませんでした。

(3) サービスの質の向上

新型コロナウイルス感染症の予防に配慮しつつ、利用児(者)一人ひとりの興味や関心、身体状況などを職員間で共有し、支援を提供しました。支援内容については、利用児(者)家族へ向けて積極的に発信するとともに必要に応じて職員会議にて報告、検討を行いました。また、日常点検チェックリストや虐待防止セルフチェックリストを用いて振り返り、よりよい支援に繋がるように取り組みました。

(4) 関係機関との連携

昨年度に続き、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、会議等は行われませんでした。相談支援専門員を通じ、平塚養護学校や関係事業所と、新型コロナウイルス感染症対策をはじめ、子どもの利用状況、懸案事項の確認や各事業所からの情報収集に努めました。知り得た情報は、各関係機関とご家族と共有し、地域全体で安全な運営が継続できるよう努めました。

4 事業の実施状況

(1) 事業の名称

日中一時支援事業

(2) 利用者の状況

【表 5-1-1~4】参照。

(3) 各関係機関との連絡連携等

【表 5-1-5~6】参照。

関係資料1 すこやか園の状況（全体に関わるもの）

表1-1 全体等に関わる会議・説明会・式典等

説明会	内 容	場 所	出席者
4/1	辞令交付式	すこやか園	理事長・園長 他該当職員
4/1	法人永年勤続表彰授与式	すこやか園	理事長・園長 他該当職員
5/25	監事監査	すこやか園	園長他4名
5/28	法人理事会	ソーレ平塚	園長
6/1	第1回当事者部会・災害支援部会	すこやか園（ZOOM）	加藤
6/12	法人評議員会	ソーレ平塚	園長
6/29	運転員との打合せ	すこやか園	園長・福田・運転員3名
7/7	伊勢原市障がい者とくらしを考える協議会①	すこやか園（ZOOM）	矢野
7/16	伊勢原市要保護児童対策地域協議会	シティプラザ	石川
7/21	職員健康診断	すこやか園	対象職員
7/27	懲戒委員会	ソーレ平塚	園長
8/23	ボランティア団体（やまどり）との打合せ	すこやか園	園長・加藤・矢野
8/27	コンプライアンス委員会	ソーレ平塚	園長
9/8	福祉避難所関係者会議	すこやか園（ZOOM）	園長
9/17	法人規程等整備委員会	ソーレ平塚	園長
10/8	伊勢原市障がい者とくらしを考える協議会②	すこやか園（ZOOM）	園長・矢野
10/26	インフルエンザ予防接種	すこやか園	対象職員28名
11/5	法人理事会	ソーレ平塚	園長
11/13	法人評議員会	ソーレ平塚	園長
11/19	法人内部監査	精陽学園	園長
11/26	進路に関わる連絡会	平塚養護学校	矢野
12/16	第4回こども支援部会	すこやか園（ZOOM）	関根
12/27	第4回災害支援部会	すこやか園（ZOOM）	加藤
1/13	法人表彰・懲戒委員会	ソーレ平塚	園長・加藤
2/7	伊勢原市障がい者とくらしを考える協議会③	すこやか園（ZOOM）	園長・矢野
2/18	伊勢原市要保護児童対策地域協議会	書面開催	石川
2/24	第5回こども支援部会	すこやか園（ZOOM）	石川
2/25	第2回法人情報管理システム委員会	すこやか園（ZOOM）	矢野
3/4	法人理事会	ソーレ平塚	園長
3/19	法人評議員会	ソーレ平塚	園長

※法人経営会議は毎月園長が出席。

表1-2 内部会議

会議内容	参加者	回数
園運営会議	園長、石川、 矢野、福田、加藤	13
全体職員会議	園長他全職員	1
安全衛生委員会	園長、石川、 矢野、福田、重田、加藤	6
虐待防止委員会	園長、石川、大豆生田、 矢野、福田、加藤	6
利用調整会議	園長、石川、 矢野、福田、重田、加藤	2
地域活動支援センター会議	園長、 地域活動支援センター職員	12

表1-3 全体等に関わる研修

実施日	内 容	場 所	参加者
5/27	リタリコ無料発達セミナー	すこやか園：オンライン研修	小俣
7/16	苦情解決研修会 第1回基礎編	すこやか園：オンライン研修	加藤
9/10	安全運転管理者法定講習会	伊勢原市民文化会館	福田
10/28	児童発達支援管理責任者更新研修	厚木商工会議所	重野・小俣
11/20～21	防火・防災管理新規講習	かわさき保育会館	加藤
2/8	新型コロナウイルス感染症に対する福祉施設のための リスクマネジメントセミナー	すこやか園：オンライン研修	加藤他4名

表1-4 ふれあい福祉まつり関係

実施日	内 容
8/6	主管打ち合わせ(中止決定)

表1-5 防災訓練

実施日	内 容	実施者	備 考
11/22・26	総合防災訓練	防災訓練係	職員

表1-6 工事・修繕関係

期 間	内 容	場 所
5/20	2階誘導灯交換	2階活動室3
6/7	幼児用トイレ修繕	1階プレイルーム2
9/24	空調機修繕	1階浴室
12/7	テレビ受信調整、ブースター交換、アンテナ修繕	2階活動室1
12/18	マジックミラー交換修繕	1階プレイルーム1
12/18	手洗い場排水管交換修繕	1階男子トイレ
1/18	ストレッチャーキャスター修繕	1階浴室
1/18	シャワーベット洗浄ポンプ交換修繕	1階浴室

表1-7 ボランティア等利用人数 (単位:人)

	録音奉仕団	ことばの教室	その他
4月	76	6	0
5月	57	115	0
6月	67	124	0
7月	64	55	0
8月	42	0	0
9月	58	30	0
10月	59	149	0
11月	54	152	0
12月	51	106	0
1月	56	78	0
2月	41	163	0
3月	55	98	0
計	680	1,076	0
利用者総数	1,756		

表1-8 職員の現状・動向

R4.3.31現在 (単位:人)

職 員					内 訳 等								その他	
					法人内異動			令和3年度採用				令和3年度末および令和2年度途中退職		
職 種	常勤	準職員	<small>令和3年度末 7/31現在</small>	委託	転入	転出	常勤	準職員	<small>令和3年度末 7/31現在</small>	委託	常勤	準職員	<small>令和3年度末 7/31現在</small>	委託
園 長	1													
事務	1		1											
児童療育課	課長	(1)												園長兼務
	課長代理	1												
	保育士	4 (1)		2		1	1		1					地域支援課支援員兼務
	児童指導員	2 (1)		1		1					2			地域支援課課長代理兼務
	公認心理師	1												
	言語聴覚士			1										
	作業療法士			1										
	医師				1									
看護師	(1)													地域支援課看護師兼務
職 種	常勤	準職員	<small>令和3年度末 7/31現在</small>	委託	転入	転出	常勤	準職員	<small>令和3年度末 7/31現在</small>	委託	常勤	準職員	<small>令和3年度末 7/31現在</small>	委託
地域支援課	課長	(1)												園長兼務
	課長代理	1												
	主任	3												
	副主任													
	相談員	2			1	1								
	支援員	2												
	看護師	1		2										
	理学療法士				1									
	医師				1									
	入浴介助員			4										
運転員			2 (1)											入浴介助員兼務
清掃員			1											
合 計	19 (5)	0	15 (1)	3	2	2	1	0	1	0	2	0	0	0

※ () は兼務職員の数

令和3年度 ヒヤリハット・事故報告のまとめ（児童療育課）

表1-9-1

令和4年3月31日現在

日課	種別	負傷・怪我	子ども同士のトラブル	器物破損	送迎バス	情報伝達	物品管理	運営管理	個人情報関係	その他	計 内（ ）事故
8:30	バス迎え										
9:50	バス帰園										
9:50	登園				●リアバウンパを壁にぶつける						1(1)
10:30	活動	000000 子ども同士でぶつかる等			●バス利用希望の把握漏れ	●メールプリントの記載を間違える	○消しゴムを口に入れる ●他児の水筒の中身を誤って飲む				10(4)
12:00	降園				●時刻表の時間の間違い		●上着を間違える				2(2)
12:00	バス送り							○子どもが一人で別室へ移動してしまっただことに気付くのが遅れる			
14:30	登園										1
14:30	活動					○水筒を間違える					1
16:00	降園						●靴の取り違え				2(1)
17:30	～										
	発生時間不明等										1(1)
	計 内（ ）事故	6			3(3)	1(1)	6(4)	1	1(1)		合計 18(9)

○；グループヒヤリハット □；個別ヒヤリハット ；事務ヒヤリハット ●；G事故報告 ■；個別事故報告 ▲；事務

令和3年度 ヒヤリハット・事故報告のまとめ（地域支援課）

令和4年3月31日 現在

表1-9-2

日課	種別	負傷 怪我	送迎関係	器物破損	トラブル	誤業 関係	食物関係	感染症 関係	情報伝達	物品管理	運営管理	個人情報 関係 <small>▲利用者の名 前の漢字を問 題とする</small>	その他	計 内()事故
8:35	迎え出発～			●フタゲーミ ー破損 ●自転車かて 破損										3(3)
10:00	送迎車到着													
10:00	朝の会、水分補給 バイタルチェック		●送迎を忘 れる			○○リタ タの注入を忘 れる								3(1)
10:30	午前の活動 入浴		●リアバン パーを壁に ぶつける							●物品の管 理不足				2(2)
11:45	昼食、歯磨き 休息													
13:00	午後の活動 入浴	○歩行訓 練中に転 倒	●送迎を忘 れる							○タオル返 却忘れ				3(1)
16:00	送り出発～													
17:00	送迎車帰園													
17:30	振り返り等													
17:30	～													
	発生時間不明等													
	計 内()事故	1	3(3)	2(2)		2				2(1)		1(1)		合計11(7)

○；地活ヒヤリハット □；日中ヒヤリハット △；相談ヒヤリハット ●；地活事故報告 ■；日中事故報告 ▲；相談事故報告

関係資料2 児童療育課

表2-1 児童発達支援事業

	登録数	延べ利用児数	開所日数
4月	54	269	16
5月	67	289	18
6月	70	356	22
7月	70	279	20
8月	69	242	16
9月	70	304	20
10月	69	304	21
11月	70	308	20
12月	69	265	18
1月	71	257	18
2月	71	250	18
3月	71	287	18
合計		3,410	225

表2-2 保育所等訪問支援事業

	登録数	延べ訪問件数
4月	43	0
5月	57	20
6月	59	25
7月	59	20
8月	59	0
9月	60	0
10月	59	3
11月	59	9
12月	60	21
1月	60	8
2月	61	0
3月	60	0
合計		106

関係資料3 地域活動支援センター 利用者の状況

表3-1-1 登録者、利用実績状況

	新規	終了	登録者	前年利用延べ実績	延べ実績	入浴	開所日
4月	0	0	19	144	159	123	21
5月	0	0	19	96	128	97	18
6月	0	0	19	164	163	122	22
7月	0	1	18	199	127	117	22
8月	0	0	18	154	163	101	17
9月	0	0	18	199	162	128	22
10月	0	0	18	197	152	116	20
11月	0	0	18	178	176	140	22
12月	0	0	18	168	152	115	19
1月	0	0	18	175	135	104	20
2月	0	0	18	176	106	82	16
3月	0	0	18	180	161	127	23
合計	0	1		2,030	1,784	1,372	242

表3-1-2

曜日別契約者、入浴者

(単位：人)

曜日	契約者数	入浴
月曜日	8	6
火曜日	7	7
水曜日	9	6
木曜日	10	7
金曜日	9	7
合計	43	33

表3-1-3 障がい別利用者数

(単位：人)

	脳性麻痺	脳血管	特定疾患	脳外傷	その他	合計
男	5	2	0	2	0	9
女	4	1	1	0	3	9
合計	9	3	1	2	3	18

表3-1-4 身障手帳等級別

(単位：人)

	1級	2級	3級	4級	5級	6級	合計
男	8	1	0	0	0	0	9
女	5	3	1	0	0	0	9
合計	13	4	1	0	0	0	18

表3-1-5 療育手帳等級別

(単位：人)

	A1	A2	B1	B2	合計
男	3	1	1	0	5
女	7	0	0	0	7
合計	10	1	1	0	12

表3-1-6 障がい程度区分

(単位：人)

	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
男	0	0	0	1	2	6	9
女	0	0	0	0	2	7	9
合計	0	0	0	1	4	13	18

表3-1-7 年齢層別

(単位：人)

	18~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~64	65~	合計
男	1	1	3	2	2	0	0	9
女	1	2	3	2	1	0	0	9
合計	2	3	6	4	3	0	0	18

表3-1-8 行事

日付	行事名	場所
4/2~4/15	バースデーカード作り	すこやか園
5/8~6月中旬	利用者・家族面談（アンケートによる実施）	
8/5 8/6	夏祭り	すこやか園
	日帰り旅行	中止
11/26	避難訓練（職員のみ）	すこやか園
	伊勢原市民文化祭	中止
10/30	インフルエンザ予防接種	すこやか園
12/18 19	クリスマス会	すこやか園
1/4~8	新年会	すこやか園
	節分豆まき	すこやか園
	利用者・家族懇談会	中止
3月	創作（バースデーカード作り）	すこやか園

その他、定例活動：創作（茶々のデコスイーツ）、スヌーズレン、書道、各種活動ミーティング

表3-1-9 活動

活動内容	活動日
音楽活動	月～金
ポッチャ	火（AM）・木（AM）
スヌーズレン	月（PM）・木（AM）
創作	水（AM）金（PM）

個別活動：フェルト手芸、散歩、パソコン、卓上競技
絵本の読み聞かせ、ベグさし、塗り絵等

表3-1-10 PTによるリハビリテーション

内 容	対象人数
ストレッチ（拘縮予防）	14名
歩行訓練（運動）	4名

表3-2-1 施設外部会議等

実施日	内 容	場 所	出席者
11月26日（金）	肢体不自由教育部門生徒の進路に関わる連絡会	平塚養護学校	矢野（相談）

表3-2-2 施設外部研修等

実施日	内 容	場 所	出席者
中止			

表3-2-3 実習生の受け入れ

実施日	学校	人数
中止	東海大学 医学部	

関係資料4 しせん相談室の状況

表4-1-1 令和3年度 相談件数 (単位：件)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
相談者	本人	32	28	23	40	49	35	32	46	39	35	51	43	453
	家族	125	125	130	136	127	155	166	155	132	171	147	183	1,752
	関係機関	194	126	223	150	123	152	138	188	137	148	162	276	2,017
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	351	279	376	326	299	342	336	389	308	354	360	502	4,222
性別	男性	263	182	250	203	162	244	248	245	194	232	233	322	2,778
	女性	71	88	113	98	117	82	67	128	88	102	96	140	1,190
	合計	334	270	363	301	279	326	315	373	282	334	329	462	3,968
年齢	幼稚園・保育園	61	64	78	60	57	102	64	78	85	91	67	159	966
	未就学(その他)	30	57	57	88	11	61	95	100	42	110	124	134	909
	小学校	129	57	78	49	64	39	62	46	60	50	37	73	744
	中学校	8	7	30	24	14	13	7	7	6	19	5	6	146
	高等学校	32	13	11	5	11	9	12	9	10	7	8	8	135
	18歳以上	43	30	52	40	33	42	42	35	32	26	49	51	475
	40歳以上	21	34	50	16	75	31	19	40	38	27	34	29	414
	65歳以上	10	8	7	19	14	29	14	58	9	4	5	2	179
	不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	334	270	363	301	279	326	315	373	282	334	329	462	3,968
障がい別	身体障がい	91	83	153	102	128	122	98	156	82	77	87	80	1,259
	知的障がい	128	88	135	71	76	77	93	96	80	71	104	125	1,144
	重症心身障がい	18	12	29	18	12	16	12	10	16	9	19	36	207
	精神障がい	18	13	3	8	8	7	5	3	3	12	6	1	87
	発達障がい	88	50	33	53	46	53	60	67	61	69	62	100	742
	高次脳障がい	1	2	5	4	2	4	10	0	5	5	3	15	56
	その他	104	101	105	105	71	106	119	117	100	153	120	210	1,411
	合計	448	349	463	361	343	385	397	449	347	396	401	567	4,906

表4-1-2 令和3年度 相談内容・対応方法別件数

(単位：件)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
相談内容	福祉サービス	307	243	296	257	239	271	284	339	241	310	298	415	3,500
	障がい・病状	20	23	30	21	18	22	20	15	33	35	17	59	313
	健康・医療	27	24	49	29	42	45	36	22	32	32	28	45	411
	不安・情緒不安定	4	5	2	0	3	6	1	2	0	4	0	0	27
	保育・教育	36	33	45	65	45	56	37	64	55	47	56	67	606
	家族・人間関係	20	19	28	15	22	22	24	26	20	23	45	57	321
	家計・経済	0	0	1	3	0	3	2	1	4	2	6	0	22
	生活技術	15	1	16	22	5	13	4	3	5	7	3	1	95
	就労	2	1	0	1	2	8	7	3	6	8	3	2	43
	社会参加・余暇	0	0	1	1	2	1	2	1	3	2	0	1	14
	権利擁護	2	3	9	10	13	5	4	4	8	4	4	5	71
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
合計	433	352	477	424	391	452	421	480	408	474	460	652	5,424	
支援方法	訪問	127	58	82	73	66	82	77	78	79	68	103	154	1,047
	来所	18	21	20	17	17	27	32	18	28	21	24	22	265
	同行	0	0	0	1	1	0	3	2	1	0	0	0	8
	電話・FAX	84	76	81	74	88	97	101	109	66	118	84	95	1,073
	メール	1	6	2	4	11	0	1	6	6	4	7	2	50
	会議	1	2	2	1	0	2	1	0	0	0	2	24	35
	関係機関	103	107	176	131	96	118	100	160	102	123	109	165	1,490
	合計	334	270	363	301	279	326	315	373	282	334	329	462	3,968

表4-1-3 令和3年度 サービス等利用計画作成数及びモニタリング実施件数 (単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
サービス等利用計画	105	17	15	15	21	10	19	25	15	20	11	22	295
モニタリング	36	46	49	61	57	59	57	57	62	51	36	58	629
合計	141	63	64	76	78	69	76	82	77	71	47	80	924

表4-2-1 会議等

実施日	内 容	場 所	出席者
4/16	伊勢原市相談支援部会	ZOOM	矢野・重野・関
4/22	秦野市相談支援事業所等連絡会	秦野市保健福祉センター	関
5/10	伊勢原市相談支援部会	ZOOM	矢野・重野・関根
6/8	伊勢原市相談支援部会	ZOOM	矢野・関・関根
6/11	湘南西部圏域相談支援ネットワーク会議	ZOOM	矢野
6/21	伊勢原市障がい者とくらしを考える協議会企画運営会議	ZOOM	矢野
7/7	伊勢原市障がい者とくらしを考える協議会	ZOOM	矢野
6/16	秦野市相談支援事業所等連絡会	秦野市保健福祉センター	関
7/15	秦野市相談支援事業所等連絡会	秦野市保健福祉センター	関
7/20	伊勢原市相談支援部会	ZOOM	矢野・関・関根
9/10	重心・医療的ケア支援ネットワーク会議	ZOOM	矢野
9/15	伊勢原市相談支援部会	ZOOM	矢野・関根
9/15	秦野市相談支援事業所等連絡会	ZOOM	関
10/8	伊勢原市障がい者とくらしを考える協議会	ZOOM	園長・矢野
10/13	秦野市相談支援事業所等連絡会	秦野市保健福祉センター	関
10/27	伊勢原市相談支援部会	ZOOM	矢野・関
11/2	相談支援事業検討ワーキング	ZOOM	矢野
11/17	伊勢原市相談支援部会	ZOOM	矢野・重野・関
11/26	肢体不自由教育部門生徒の進路に関わる連絡会	平塚養護学校	矢野
12/7	医療的ケア児者等支援検討会議	ZOOM	矢野
12/8	湘南西部圏域相談支援ネットワーク会議	ZOOM	矢野
12/10	医療的ケア児の医療から在宅への支援についてのワーキング	ZOOM	矢野
1/14	重心・医療的ケア支援ネットワーク会議	ZOOM	矢野
1/19	伊勢原市相談支援部会	ZOOM	矢野・関
2/14	伊勢原市相談支援部会	ZOOM	矢野
2/15	秦野市相談支援事業所等連絡会	ZOOM	関
3/17	伊勢原市相談支援部会	ZOOM	関

関係資料5 日中一時支援事業 利用者の状況

表5-1-1 登録者、利用実績

	登録者数	予定数	延べ人数	平均	開所日数
4月	22	39	29	2.4	12
5月	22	34	21	1.9	11
6月	21	46	29	2.2	13
7月	21	42	34	3.1	11
8月	22	39	29	3.2	9
9月	22	39	30	2.3	13
10月	22	39	30	2.5	12
11月	22	32	29	2.6	11
12月	21	39	32	2.7	12
1月	21	31	19	1.6	12
2月	21	20	12	1.5	8
3月	21	50	38	2.7	14
合計		450	332	2.4	138

表5-1-2 障がい別利用者数

(単位：人)

	脳性麻痺	発達遅滞	脳炎	低酸素脳症	白質形成不全	ダウン症	4p-症候群	脳幹形不全	ウェスト症候群	脳血管	多発性硬化症	四肢麻痺	テイサックス病	合計
男	2	0	0	4	0	2	1	1	2	1	0	0	0	13
女	0	1	1	1	1	1	0	0	0	0	1	1	1	8
合計	2	1	1	5	1	3	1	1	2	1	1	1	1	21

表5-1-3 医療的ケアの実施状況

(単位：人)

	吸引	酸素吸入	経管栄養	気管切開	与薬・軟膏	人工呼吸器	発作
男	5	1	6	2	4	0	10
女	4	1	5	2	4	1	3
合計	9	2	11	4	8	1	13

※一人当たり複数該当あり

表5-1-4 学齢

(単位：人)

	幼児	小1	小2	小3	中1	中2	中3	高2	高3	成人	合計
男	2	0	2	1	0	1	1	3	0	3	13
女	1	2	0	0	0	0	1	0	0	4	8
合計	3	2	2	1	0	1	2	3	0	7	21

表5-1-5 研修、見学

実施日	内容	場所	出席者
中止			

表5-1-6 関係機関との連携・会議

実施日	内容	場所	出席者
6月	放課後支援事業所連絡会	書面にて開催	
2月	放課後支援事業所連絡会	書面にて開催	

